

国体集団演技に関する基礎的研究 (第5報)  
—第31回国体から第40回国体集団演技の演技内容の変遷について—

川端昭夫

A Study on Massgame in the National Sports Festival in Japan (V)  
— Focuses on the trends from the 31th to the 40th Festival —

Akio KAWABATA

**Abstract**

The purpose of this study is to investigate the trend of massgame (collective gymnastics and dance exhibition) from the 31th to the 40th National Sports Festival, the period IV.

The reports on the Festivals, the training manuals of the massgames and other related materials were analyzed. And the management of massgames, the composition of the program, and the idea and the content of the performance were investigated, which clarified the changes during the period IV.

Results of this study are as follows:

1. Massgames were performed (as open public demonstrations) at the opening and the closing ceremonies. At the opening ceremony, massgames were performed both prior and posterior to the ceremony, while at the closing ceremony, they were performed only prior to the ceremony. But in many festivals during the period IV, changes were seen; the introduction of the local folk arts or the folk dances were set before the ceremony performance.

2. Each Festival had its own ideas and theme about massgames. The materials were the beauty of the nature in the area, its history, its culture, the beauty of health and rhythmic movements.

3. The program of massgames consisted of gymnastics, dance and other exercises, though dance and other exercises made up its large population. As for gymnastics (though the number of performance was decreasing), there were free gymnastics, pyramid buildings (by parents and kids), gymnastics with hand apparatus, the combination of these, and their combination with dance. As for dance, creative dances (which expressed the theme or the idea), rhythmic play and rhythmic movements played major parts in the massgames. With regard to other exercises, there were folk dance, folk arts, different kinds of sports, and marching band etc.

4. The needed time for each performance ranged from 10 to 15 min., from 15 to 20 min. or 5 to 10 min. The total time of all the performances in each festival was between 121 and 220 min.

5. The number of participants in each performance at the opening ceremony was between 0 and 500, 500 and 1000, 1500 and 2000, or 2000 and 2500. At the closing ceremony it was between 0 and 500, or 2000 and 2500. A performance given by over 4000 people (including final) was seen. The total number of the performers during the period IV ranged from 13978 to 38987.

6. The participants were not only the people from educational institutions, but also many citizens who belong to the group such as women's group, traditional folk art groups, sports associations (the Boy Scouts-for example), marching band etc.

## 1. 序 論

現在体育・スポーツの教育の場や国内外の様々なスポーツ行事において、集団或いは多人数による体操やダンスなどの演技が行われるが、多集団演技から生み出される魅力に魅了されない人はまずいないであろう。マスゲームの魅力(の秘密)は、フォーメーション、音楽、色彩などの調和<sup>43)</sup>があげられているが、過去から現在に至るまで国内外の優れたマスゲームの評価は多く知られるところである<sup>50) .55)</sup>。浜田は、マスゲームの成立要素として、経費・計画・組織練習を、マスゲームの表現の基礎として形・色・音を、美の表現として均整と漸層、律動と繰り返し、対比と対照、権衡と整齊、変化と統一<sup>24)</sup>を挙げており、更に演出なども加えるとマスゲームは多要素から成る総合芸術的な演技と言えよう。

筆者とマスゲームの出会いは第7回ワールドジムナストラダ(スイスチューヒ)における開閉会式のマスゲームであった。多人数によるフィンランド女子チームの優雅な女性体操のマスゲームやスイスの男女の棒を使ったマスゲームなどは、数万を要する大スタジアムの緑あふれるフィールド内での展開で今でも脳裏に焼きついている。その後、直接の大規模マスゲームと出会いは、国外では第9回と第10回ワールドジムナストラダ(オランダアムステルダムとドイツベルリン)の開閉会式のマスゲーム<sup>39)</sup>、フィンランド女子体操100年祭の開閉会式<sup>40)</sup>、北朝鮮の国際平和文化祭典の記念マスゲームなどである。いづれのマスゲームも、

単に演技構想や演技内容の多様さ、演技使用の手具や用具の斬新さ、統一色としての色彩的な意味の服装から演技の一部の活用など多くの感化を受けるものであった。この他、間接的に、日本の大きな感化を与えたチェコのソコールのマスゲームやパンパシフィックジムナストラダ(ニュージーランド)などの開閉会式のマスゲームなど国外でも多くの優れた内容の報告が見られ<sup>32) .37)</sup>、国外のマスゲームの広がりを感じれる。

日本のマスゲームは、戦前は明治神宮体育大会の集団体操を初めとしマスゲームの場がもたれ<sup>41)</sup>、戦後も一時停滞したものの朝日体操祭や日本体操祭などや、青年スポーツ祭など多くの場で大規模でしかも全国規模なものが行われたが<sup>22) .30) .45) .48)</sup>、体操祭の終了と共に大規模なものは限定されてきている。近年では、全国的なスポーツ行事である国民体育大会、ユニバーシアード、高校総合体育大会などの開閉会式のマスゲームなど、小規模なものでは県や地区単位のスポーツ行事<sup>29)</sup>や教育機関の開催する体育祭、運動会<sup>27)</sup>、体操祭<sup>42) .44)</sup>などにその姿をみることができる。但し、その中でも良く知られ、定例的で大規模で継続されているものは、唯一国民体育大会の集団演技になっている<sup>18) .46)</sup>。国体集団演技は、戦後21年から実施され半世紀を過ぎ、51回(広島「ひろしま国体」)、52回(大阪「なみはや国体」)を終え素晴らしい評価を残し<sup>38)</sup>、今後は53回(神奈川「夢国体」)、54回(熊本国体「未来」)と続く中で、式典演技構成、演技構想、演技構成や演技内容が工夫され、演出の大きな関与に伴い

集団演技も祭典の華から祭典の主体そのものへの変革が期待され興味がつきない。

筆者は、従来から国内外のマスゲームに興味を引かれ、素晴らしい運動文化として国内外の大規模なマスゲーム開催の際にその情報収集と記録に努めている。また、第49回愛知国体（わかしゃち国体）の集団演技の担当経験から、我国での数少ない大規模なマスゲームの場である国体の開閉会式の集団演技の記録及び研究を始めた。既に、第41回国体から第49回国体までの集団演技及び第1回国体から第40回国体までの集団演技については、国体集団演技に関する基礎的研究（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）（Ⅳ）として報告<sup>35)</sup>・<sup>36)</sup>・<sup>37)</sup>・<sup>38)</sup>済みである。集団演技（マスゲーム）に関する書籍や資料はかなり限定されており<sup>2)</sup>・<sup>21)</sup>・<sup>22)</sup>・<sup>24)</sup>、ましてや、マスゲームの研究や報告は限定されている。近年では、荒木、金子、北田らの教育機関（幼稚園、小学校、中学校）を対象とし、演技構成、音楽、演技内容、実施上の問題点などについての調査研究<sup>3)</sup>・<sup>4)</sup>・<sup>33)</sup>・<sup>34)</sup>が見られるにすぎず、実際のマスゲームがその姿を変え発展する中で、平行してマスゲームを対象とした多方面からの研究のアプローチが期待されよう。

本研究の目的は、国体集団演技に関する継続研究として、第31回から第40回までの国体（Ⅳ期）の集団演技（マスゲーム）を取り上げ、各開催県の演技構想、演技構成、演技内容などの傾向の調査及びⅣ期10年間の演技傾向の変遷を明らかにするものである。

## 2. 研究方法

本研究を進める上で、次の手順で調査、分析を進めた。

- 1) 調査期日 平成10年1月～平成10年6月
- 2) 調査対象 第31回国民体育大会から第40回国民体育大会集団演技（詳細は表1参照）
- 3) 調査資料  
国体集団演技の数少ない掲載資料である「開催県の報告書」「集団演技実施要項」を主な対

表1 第31回から第40回国体の開催年及び開催県

回	開催年代	開催県
31	1976（昭和51年）	佐賀県
32	1977（昭和52年）	青森県
33	1978（昭和53年）	長野県
34	1979（昭和54年）	宮崎県
35	1980（昭和55年）	栃木県
36	1981（昭和56年）	滋賀県
37	1982（昭和57年）	島根県
38	1983（昭和58年）	群馬県
39	1984（昭和59年）	奈良県
40	1985（昭和60年）	鳥取県

象資料とした。資料の内で入手できないものについては、日本体育協会資料室、中京大学図書館所蔵の報告書及び複写資料を参照した。また、開催県別の対象資料に集団演技関係の記述が不十分な場合には、同時代に体育関係誌に掲載された集団演技関連記事や国体記念写真集、行幸啓記録、国民体育大会の歩み、開催県の体育協会史、開催県の体育史などをもとに補足した。

### 4) 調査項目

- (1) 各開催県別の国体開催期日、式典と集団演技の位置づけ、集団演技の実施時間、会場を調査した。
- (2) 各開催県別の集団演技における演技構想については、①集団演技基本方針と式典演技演技構想、②演技構想と演技題（素材）、③Ⅳ期における演技題の傾向を記述し、整理をした。
- (3) 各開催県別の集団演技の演技内容との関係については、開催県別の集団演技の基本方針、式典内の集団演技の位置づけ、また、開催県別の①演技プログラムの演技数、②演技内容の割合、③演技内容の構成と内容の検討、④式典前後のプログラム特性と演技配列、⑤個別演技の演技時間、⑥演技規模、⑦演技参加の演技部門の特性の傾向を調査した。
- (4) 各開催県別のⅣ期に渡る系列別演技内容の頻度の傾向と分析をおこなった。

- (5) 各開催県別のⅣ期に渡る個別演技の演技時間とその分布の傾向を調査した。
- (6) 各開催県別のⅣ期に渡る個別演技の演技規模とその分布の傾向を調査した。
- (7) 各開催県別のⅣ期に渡る個別演技の演技部門の傾向を調査した。
- (8) 上記(1)から(7)の各項目についてその傾向を明らかにし、過去の集団演技の演技傾向比較しながら、Ⅳ期における集団演技の演技傾向とその変化を総合的に考察検討した。

### 第3章 結果と考察

#### 3-1) Ⅳ期における集団演技の運営について

表2は、Ⅳ期における国体集団演技の開催期日、式典と集団演技の関係、実施時間、会場を示したものである。

##### ①国体開催期日

表2より国体開催期日は、多くが10月10日～20日の期間に開催されている。特例では、32回大会と37回大会は早期に、一方、31回大会と40回は10月後半に開催されている。31回の開催年にはモトリオールオリンピックの開催の影響によるものと考えられる。

##### ②集団演技の開催状況

Ⅳ期における集団演技の実施状況は、Ⅱ期・Ⅲ期同様に開閉会式内で行われ安定している。

##### ③国体における式典集団演技の位置づけ

表2よりⅣ期における集団演技は、式典との関係で位置づいており、開会式については多少時間的差はあるが式典前後に、また、閉会式については式典前に位置づけられている。この傾向は、Ⅱ期・Ⅲ期の傾向と同様である。

##### ④集団演技(マスゲーム)の名称

表2よりⅣ期におけるマスゲームの名称は、Ⅲ期以来の同一で、全ての開催県で「集団演技」の名称で扱われている。

##### ⑤集団演技の会場

Ⅳ期における開閉会式で使用される集団演技の実施会場は、式典と同様に開催県、開催市の

市営及び県営陸上競技場、総合運動場、運動公園陸上競技場である。

##### ⑥集団演技の実施時間

図1は、Ⅳ期における式典及び集団演技の開催時間を示したものである。図中各県別に上部が開会式(式典前:○-○, ●-●, 式典後:◆-◆), 下部が閉会式(▲-▲)である。式典別に見ると開会式については、式典前集団演技・開会式・式典後主だ集団演技の順に実施される。開会式の開催時間の傾向は、式典演技の構成が、式典前、式典後、閉会式の3部構成でなく、式典前諸行事(31回)、式典前題1部・2部・3部(35回)、郷土芸能・式典前(36・37・40回)、式典前第1・2部(38回)など、開催県でかなり個性的な式典演技構成のため多少差異はあるが、時間関係は次のようである。

式典前関係演技では、9時38分から11時12分間に始まり、11時55分から12時44分までの間に終了する。式典時間は、12時20分から13時10分間に始まり、13時40分より14時38分までの間に終了し、31回と40回を除いてほぼ安定している。続いて式典後演技は、14時01分より14時45分間に始まり14時41分より15時42分までに終了する。一方、閉会式では、集団演技開始時間が13時10分から13時51分間に設定され、終了時間は14時03分から14時23分までの設定であり、開会式と同様類似した時間設定である。

#### 3-2) Ⅳ期における集団演技の演技構想(テーマ)、演技題の特性

##### ①演技構想、演技テーマについて

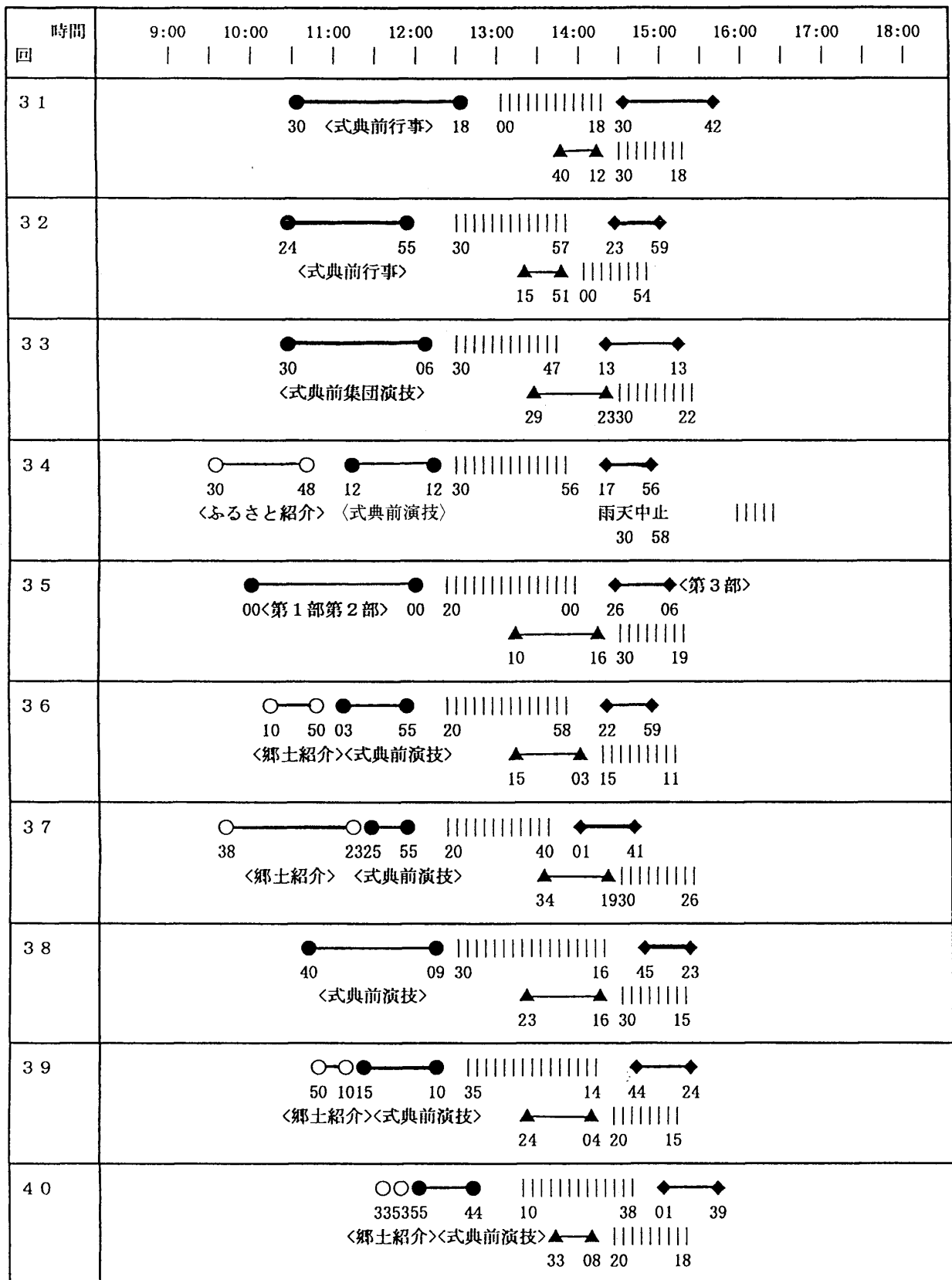
Ⅳ期における演技の基本方針、演技構想、演技テーマについては、国体報告書を基に次のように整理される。

#### 1. 第31回国体(佐賀県)<sup>6)</sup>

1) 集団演技は、広く県民各層の参加をもとに、豊かな自然とはぐくまれた輝かしい郷土の歴史と文化、栄えある21世紀をめざして力強く躍

表2 IV期における団体集団演技の期日、式典と集団演技の実施時間、会場

回数	開催県	団体名	開催年	開催期日 (日数)	マスゲーム 名称・位置	開閉会式期日	時間 (晴天時)	マスゲーム 実施時間	開会式会場 (マスゲーム実施会場)(全場数)	マスゲーム開催 の式典内外
31	佐賀県	若楠国体	昭和51年 <1976>	10/24-10/29 (6)	集団演技	開会式 10/24 閉会式 10/29	13:00-14:18 14:30-15:18	式前行事 10:30-12:38 式後集演 14:30-15:42 式前集演 13:40-14:12	佐賀県総合運動場陸上競技場 (1)	開会式前後 閉会式前
32	青森県	あすなろ国 体	昭和52年 <1977>	10/2-10/7 (6)	集団演技	開会式 10/2 閉会式 10/7	12:30-13:57 14:00-14:54	式前集演 10:24-11:55 式後集演 14:23-14:59 式前集演 13:15-13:51	青森県総合運動公園陸上競技場 (1)	開会式前後 閉会式前
33	長野県	やまびこ国 体	昭和53年 <1978>	10/15-10/20 (6)	集団演技	開会式 10/15 閉会式 10/20	12:30-13:47 14:30-15:22	式前集演 10:30-12:06 式後集演 14:13-15:13 式前集演 13:29-14:23	長野県松本運動場陸上競技場 (1)	開会式前後 閉会式前
34	宮崎県	宮崎国体	昭和54年 <1979>	10/14-10/19 (6)	集団演技	開会式 10/14 閉会式 10/19	12:30-13:56 14:30-14:58	式前集演 11:12-12:12 式後集演 14:17-14:56 式前集演 -----(中止)-----	宮崎県立総合運動公園陸上競技場 宮崎県体育館 (1)	開会式前後 閉会式前
35	栃木県	栃の葉国体	昭和55年 <1980>	10/12-10/17 (6)	集団演技	開会式 10/12 閉会式 10/17	12:20-14:00 14:30-15:19	式前集演 10:00-12:00 式後集演 14:26-15:06 式前集演 13:10-14:16	栃木県総合運動公園陸上競技場 (1)	開会式前後 閉会式前
36	志賀県	びわこ国体	昭和56年 <1981>	10/13-10/18 (6)	集団演技	開会式 10/13 閉会式 10/18	12:20-13:58 14:15-15:11	式前集演 10:10-10:50 式前集演 11:03-11:55 式後集演 14:22-14:59 式前集演 13:15-14:03	大津市皇子山陸上競技場 (1)	閉会式前 閉会式前後
37	島根県	くにびき国 体	昭和57年 <1982>	10/3-10/8 (6)	集団演技	開会式 10/3 閉会式 10/8	12:20-13:40 14:30-15:26	式前集演 9:38-11:23 集演 11:25-11:55 式後集演 14:01-14:41 式前集演 13:34-14:19	松江市陸上競技場 (1)	閉会式前 閉会式前後
38	群馬県	あかぎ国体	昭和58年 <1983>	10/15-10/20 (6)	集団演技	開会式 10/15 閉会式 10/20	12:30-14:16 14:30-15:15	式前集演 10:40-11:26 集演 11:30-12:09 式後集演 14:45-15:23 式前集演 13:23-14:16	敷島公園群馬県原菅陸上競技場 (1)	閉会式前 閉会式前後
39	奈良県	わかさ国 体	昭和59年 <1984>	10/12-10/17 (6)	集団演技	開会式 10/12 閉会式 10/17	12:35-14:14 14:20-15:15	式前集演 10:50-11:11 集演 11:15-12:10 式後集演 14:44-15:24 式前集演 13:24-14:04	奈良市鴻池陸上競技場 (1)	開会式前後 閉会式前
40	鳥取県	わかとり国 体	昭和60年 <1985>	10/20-10/25 (6)	集団演技	開会式 10/20 閉会式 10/25	13:10-14:38 14:20-15:18	式前集演 11:33-11:53 集演 11:55-12:44 式後集演 15:01-15:39 式前集演 13:33-14:08	鳥取県立布勢総合運動場 (1)	閉会式前 開会式前後



(○—○/●—●：開会式式典前演技，◆—◆：開会式式典後演技，▲—▲：閉会式式典前演技 |||||：式典時間)

図1 IV期における国体集団演技の開催時間

進する佐賀を表現する。

（基本方針）

- ①佐賀国体の開催方針にのっとり、質実・剛健・明朗で郷土色を生かした演技を行う。
- ②児童生徒の集団演技は、学校教育との関連を充分考慮し、教育的効果を上げるようにする。
- ③演技は、内容と音楽・色彩・動きとの調和を図り、統合された健康美、集団美の表現につとめる。
- ④服装・用具は華美を避け、演出効果を高めるようにする。
- ⑤演技指導は、計画的に、組織的に行い、出演者の健康、安全に充分注意する。
- ⑥集団演技への参加を契機として、生涯体育への関心と体力、健康増進の意識づけをする。
- ⑦出演者は、県民各層の多数を前提とし、開閉式会場との関連を考慮して行う。

2) 式典前諸行事の基本構想

- ①式典開始までの時間帯を有効に利用して、若楠国体開催の趣旨を徹底させ、式典会場の雰囲気盛り上げるような内容を構成する。
  - ア) 音楽（間奏音楽、電子オルガン、歌唱、指導等）
  - イ) 郷土紹介（郷土の紹介、郷土の民族芸能等）
  - ウ) 放送（お知らせ、お願い、日程説明、国体のあゆみ等）
  - エ) 体操（疲かれ直しの体操）
  - オ) その他（レクリエーション活動）
- ②スポーツの祭典にふさわしい、明るく軽快でローカル色豊かな内容を盛り込み、音楽、色彩等により効果的な演出をする。

## 2. 第32回国体（青森県）

1) 集団演技の基本方針<sup>7)</sup>

- ①国民体育大会の主旨に沿い、社会体育の場にふさわしい集団演技の内容と種別にするように考慮する。
- ②テーマ「あすなろ」の永遠の若さとたゆまぬ前進を表現し、本県の特徴を生かすようにつとめる。
- ③出演は、秋季大会の開閉会式に行う。

④出演者は、開閉会式会場地を中心として、広く県内各方面から参加を得るようにする。

⑤演技の指導には、出演者の健康と安全性に充分注意する。

2) 演技構想は、県民層の協力を得て、青森県の現実の姿と将来へ向かって県民が協力して前進する姿を、テーマ「あすなろ国体」、スローガン「心ゆたかに力にたくましく」に託して表現する。主題は、「みのりある明日を拓け」、目標は、「明日への発展を願う県民性の表現（郷土の歴史を願う香り、ゆたかな自然のめぐみ、心あたたまる気風である）。

## 3. 第33回国体（長野県）

1) 集団演技の基本方針<sup>8)</sup>

- ①集団演技は簡素を基調とし、日常活動における演技の成果を公開する。
- ②児童、生徒の集団演技は学校教育との関連を充分考慮し、計画された時間内で学習効果をあげるように努める。
- ③演技は、音楽と色彩と動きとの調和をはかり、健康美、集団美、律動美の表現につとめる。
- ④服装は出演団体は平素使用している服装をなるべく生かすようにする。
- ⑤演技の指導にあたっては、集団演技要項にのっとり、計画的に、組織的に行い、出演者の健康安全に充分留意する。
- ⑥出演者は、県民総参加の趣旨に添い、開閉式会場地を中心に広く県内各地から参加を得るように考慮する。

2) 集団演技は、第33回国体開閉式基本構想及び基本方針にのっとり、太陽と水と緑の豊かな自然を背景に、輝かしい歴史と未来に向かって躍進する長野県の姿を、「こだまする山びこ」を基調として次のとうり表現する。

①式典前の集団演技では、会場の雰囲気をやわらげ、スポーツの幕開けにふさわしい演技をするために、各出演部門の特性を生かし、各出演部門ごとの演技構想に基づいた演技を行う。出演順は、幼児、スポーツ少年団、小学校、軽体操部である。

②式典後演技は、開会式フィナーレを飾るにふさわしい集団演技にするために、「こだまする山びこ」と県歌「信濃の国」を基調として演出し、各出演部門の入退場は、一連の演技の流れの中で行い、開会式のクライマックスにする。

#### 4. 34 回国体（宮崎県）

##### 1) 集団演技の基本方針<sup>9)</sup>

①集団演技は、県民各層を対象とすし、体操・ダンス・民謡・郷土芸能等を素材として実施するようにする。

②集団演技の練習は、健康安全に充分留意し、長期計画に基づいて、無理なく実施できるように考慮する。

③出演者は、大会の総合計画等案し、開閉会式場の関連及び実情を配慮の上、主会場地及び近郊対象に編成する。

④児童生徒は、学校教育活動の一貫として各学校の教育方針に基づき、教育計画に組入れ、計画された時間内で学習効果があげられるように配慮する。

⑤幼児・婦人は、練習条件等を考慮し、日常生活にも活用できるように配慮する。

⑥出演者には、大会参加の意義を理解させると共に、指導にあたっては計画的に・効果的に行う。

⑦服装・用具は、演技効果が高められるように考慮し、日常生活にも使用できるように配慮する。

##### 2) 集団演技の構想

集団演技は、第 34 回国民体育大会開催基本方針に基づき、「日本のふるさと宮崎国体」を基調とし、県民各層の参加のもと、宮崎の歴史と伝統、豊かな自然美を表現し、国民のスポーツ祭典にふさわしいものとするよう、テーマを「ふるさと」とし各構想のもとに実施する。

#### 5. 第 35 回国体（栃木県）

##### 1) 演技基本方針<sup>11)</sup>

第 35 回国民体育大会における集団演技は、「のびる力 むずぶ心 ひらくあした」をス

ローガンに開催される「栃の葉国体」にふさわしく躍進する栃木の姿を表現するため、県民の総力をあげて、次の方針で実施する。

①栃木国体の開催方針にのっとり、県民総スポーツの推進を基礎として郷土の豊かな自然と歴史に輝く、人工の美を素材とし、躍進栃木を表現する。

②出演者は、県民の各層からの参加を前提に、開閉会式場等の関連を考慮して選定する。

③児童・生徒の集団演技は、学校教育との関連を充分考慮し教育的効果を発揮するよう考慮する。

④演技については変化に富み、音楽・色彩・動作との密接な連携によって、全体の調和を図り総合された健康美・集団美の表現をつとめる。

⑤服装・用具等は、演技構想との調和を図り、演出効果を高めるようにする。

##### 2) 式典構想（記述無し）

3) 式典演技のテーマ<第 1 部「のびる力」、第 2 部「むすぶ」、第 3 部「ひらくあした」>

#### 6. 第 36 回国体（滋賀県）

##### 1) 演技基本方針<sup>12)</sup>

第 36 回国民体育大会の開閉会は、大会開催の方針にのっとり、100 万県民総参加のもとに、「水と緑にあふれる若さ」を基調として、湖国滋賀にふさわしい式典を実施する。

2) 集団演技は、県民の各層からの参加を得て、はつらつとした若さと躍進する郷土の力強さを表現する共に、演技を通して県民がこぞってスポーツに親しむ気風をそだてる。

#### 5. 第 37 回国体（島根県）

##### 1) 演技基本方針と集団演技構想<sup>13)</sup>

第 37 回国民体育大会における集団演技は、開催基本方針、式典計画ならびに式典演出方針に基づき「このふれあいが未来をひらく」のスローガンを基調とし、豊かな自然と古代からの歴史と伝統をふまえ、未来に向かって力強く躍進する島根の姿を表現する。



式典基本方針（集団演技）では、（ア）集団演技は、県民が体育、スポーツを日常的に実施する意欲を高めるような内容を企画する。（イ）集団演技は、場内レクリエーション及び郷土紹介は、島根の特性を生かして出演者観客が一体となつて行われる演出を考慮する。

2) 集団演技典構想（記述無し）

3) 集団演技のテーマ<式典前演技「くにびき」、式典後演技「ふれあい」>

## 8. 38回国体（群馬県）

1) 演技基本方針と集団演技構想<sup>14)</sup>

(1) 式典前集団演技全体構想では、「スポーツ県群馬」宣言にふさわしく、スポーツに親しむ県民の姿と古くから郷土に伝わる民族芸能を中心にそれぞれ演技内容を構成する。

①郷土芸能は、可能な限り原形に近い表現に努める。

②婦人に関するものは、「あかぎ国体」を讃え、健康ではつらつとした婦人の美しさを表現する。

③幼児に関するものは、つらつとしかもたくましく伸びる様子を幼児の軽やかな動きの中で表現する。

④親子体操に関しては、県民のスポーツの活動状況を、躍進する群馬にふさわしくはつらつとした内容で紹介する。

⑤小学生のサッカーでは、サッカーチームの日頃の活躍を発表する場としてとらえ、本来の活動内容からはずれぬように配慮する。

⑥マーチングに関しては、風にちなんだ曲、群馬の民謡、ポピュラー曲等のマーチングに合わせ、きびきびして明るいたくましいドリル演奏を小学生の手により展開する。

⑦中学生に関しては、ショー的な要素をできるだけさげ、学校教育内で行っている体操を基調した集団美の表現につとめ、使用する手具、服装等についても簡素で清潔美あふれるものとする。

2) 式典後集団演技全体構想では、基本構想に基づき、参加者に深い感動と連帯をあたえるように演技内容をドラマ的に構成する。演技構成

は、3部構成である。

（第1部）四季を通じて、おりおりに変化する郷土の自然環境のもとで、明るくたくましい生きる県民の様子を表現する。

（第2部）明日を担う上州っ子らの躍動する姿を表現する。

（第3部）大自然や社会に吹きつける、さまざまな風に向かって躍進する群馬の姿をエネルギーギッシュに表現し、フィナーレとする。

3) 集団演技テーマ<式典後演：「かぜにむかって走ろう」>

## 9. 第39回国体（奈良県）

1) 演技基本方針<sup>15)</sup>

第39回国民体育大会における集団演技は、大会開催方針及び式典基本構想にのっとり、「わかくさ国体」にふさわしいものとし、次のとおり実施する。

①演技については、萌えいずる若草の力強さと豊かな自然と歴史素材とし、調和のとれた健康美・集団美・律動美を総合的に表現する。

②出演者は秘録県民のもとに、主会場等の関連を考慮して選定する。

③幼児・児童・生徒の集団演技は、学校教育との関連を充分考慮し、教育的効果をあげるようにする。

④演技指導にあたっては、計画的に、組織的に行き、出演者の感動と連帯感を高めるとともに、その健康と安全についても充分留意する。

⑤服装・手具については、演技構想との調和を図り演出効果を高めるように配慮する。

⑥集団演技への参加を契機とし、県民の体育、スポーツ活動への関心を一層高め、体力の向上と健康増進の実現に努める。

2) 集団演技構想（記述無し）

## 10. 第40回国体（鳥取県）

1) 演技基本方針<sup>16)</sup>

第40回国民体育大会開会式における集団演技は、式典基本構想にのっとり、次のとおり実

施する。

①集団演技は、動作・色彩・音楽の調和を図りつつ健康美・集団美・律動美を表現するようにつとめる。

②美しい自然と豊かな文化を素材として、躍進鳥取を表現する。

③集団演技への参加を契機とし、指導者・出演者の連帯感を高めつつ、県民の体育、スポーツ活動への関心を一層深め、体力の向上と健康増進の実現につとめる。

④演技の指導に当たっては、計画的組織的に行うとともに、出演者に参加の意義を理解させ、健康と安全に充分留意する。

⑤幼児・児童・生徒の出演に当たっては、学校教育活動との関連を充分考慮し、教育効果をあげるように配慮する。

## 2) 集団演技の構想 (記述無し)

3) 集団演技テーマ<郷土紹介:「明日へ向かってはばたこう」、式典前:「燃えよ大地に」、式典後:「翔よ大空へ」>

以上のように各開催県では、集団演技の前提として、式典構想、集団演技構想、基本方針、集団演技演技構想が決定されている。集団演技の基本方針では、演技の特色、演技内容、学校教育への教育的効果、服装や用具の活用、演技の指導の計画性、演技指導の波及的効果、広い県民層からの演技者の参加などの観点で提言されている。

集団演技の演技構想は、県により記述が明確さが異なるが、集団演技の演技構想は、式典構想、基本方針を参考にしてなされ、構想は、県独自の設定がなされが、構想の題材としては、おおむね豊かな自然(自然の恵み)、郷土の歴史と文化、未来(への躍進)、心温まる気風、人工の美、はつらつした若さ、躍進の力強さ、スポーツに親しむ姿やスポーツの普及、健康美・集団美・律動美などの表現が共通の課題とされている。

## ②開催県別の演技題とその傾向について

表3は、各開催県の演技題及び演技素材を式典別に示したものである。演技題の特性は開催県ごとに固有のものが設定されている。

表4は、個別演技の演技題のテーマを(付加的に演技内容から)類型的にまとめたものである。演技題の類型は、演技題をもとに、郷土関係、若い世代・力・元気さに関係したのもの、子供の様子・遊び、大会賛歌、楽しいひと時・ふれあい、体操の名称、鼓笛パレード、スポーツ(ゲーム)などにまとめられた。表をもとに、演技題の傾向は、次に示す通りである。

郷土に関係したものは最も多く扱われている。この傾向は、Ⅲ期と同様であるが、Ⅳ期においては、式典前や式典演技において郷土紹介が単独に、或は集団演技として取り上げられているため件数や内容も豊富である。中でも、民謡は良く取り上げられ、民謡そのものでなく国体音頭としてアレンジされた演技や、ダンス系演技として取り上げられるなどほとんどの開催県で取り上げられている。演技題はほぼ民謡の名称そのままが使用されている。次の郷土芸能は、31・33・37・39回などの県は、多数の内容を取り上げている。郷土の発展に関する内容は、31・33・36・39回で取り上げられている。また、Ⅳ期では、郷土めぐり(四季)に関する名称を演技題とする県もみられる(32・37・38回)。各県の四季、郷土の特性、名勝、特産などを加味した演技展開がなされている。その他、以前にみられた郷土特性、名勝、郷土特産、郷土の歴史などは少数例である。

若い世代や元気さに関係した演技題も多く取り上げられている(32・34・39回は除く)。とりわけ、33回や40回には演技題自体に若い力、伸びる、燃えるなどの内容や演技題の表現には現れないが演技構成や内容から若さ、若い力、エネルギーを表現するものとなっている。

子供の遊び、遊ぶ姿に関係する演技題も、「夢」、「子供」、「遊び」などの名称を伴うものとして位置づけられている。国体式典賛歌に関係する演技題は、件数としては減り、35・36・40回のみ取り上げられている。

体操の名称としては、Ⅳ期で試みられている全身体操(31・33回)の名称や31回に見られる郷土芸能の面浮立体操、35回の杖術体操・獅子舞体操など少数例となっている。

表3 IV期における開催県別の演技テーマ、演技構想の素材及び演技題

回	開催県	演技題	演技題の演技素材
31	佐賀	開前行	①リズムオンパレード、②太鼓浮立、③獅子舞、④伸びよ若楠、⑤みんなであひおう
		開後	①面浮立ち、②われら若楠、③楠風によって、④ようこそ佐賀へ
		閉行	①天衝舞い、②みんなであひおう、③みんなであひおう
32	青森	開前行	①あすはひのき、②八戸小唄・流し踊り、③伸びよあすなろ、④弥三郎踊り、⑤黒石よされ、⑥津軽三味線、⑦はずむあおもり
		開後集	①冬、②春、③夏、④秋
		閉行集	①ママさんバレーボール、＜集演＞②冬、③春、④夏、⑤秋
33	長野	開前集	①やまびこヤッホー、②ひびけかけごえ日本の屋根に、③アルプスの町・わが郷土、④さあ！リズムによって
		開後集	①ひびけ世界にやまびこの音、②NOVANAGANOOLEI、③アルプスにこだまする若人の息吹、④信濃路にこだまする万雷の響き、⑤信濃の夕映えに踊る
		閉集	①NOVANAGANOOLEI、②アルプスにこだまする若人の息吹、③信濃路にこだまする万雷の響き、④信濃の夕映えに踊る
34	宮崎	開前集	①元気に伸びる太陽の子、②黒潮に育つ、③ふるさとのうた、④青春賛歌
		開後	①伸びよピピ子、②臼太鼓おどり、③飛翔
		閉	＜中止＞①ふるさと太鼓、②日向民謡、③臼太鼓踊り、④ふるさとのうた、⑤青春賛歌
35	栃木	開集	＜第1部＞①下野の獅子舞、②夢の広場、③みんなであひおう ＜第2部＞①息吹と躍動、②ボールへの集い、③八木節、④花の舞、⑤自然と子供 ＜第3部＞①ふるさとの栃木、②躍進、③栃木の葉賛歌
		閉集	①息吹と躍動、②ふるさとの栃木、③躍進、④栃木の葉賛歌
		開集	①息吹と躍動、②ふるさとの栃木、③躍進、④栃木の葉賛歌
36	滋賀	開前集	①みどりの中で遊ぼう、②伸びゆく湖国健児、③湖に跳ねる、④ふるさと近江
		開後集	①VIVAYOUNGINSHIGA、②おうみの子ども、③びわ湖の四季
		閉集	①VIVAYOUNGINSHIGA、②おうみの子ども、③湖に跳ねる、④ふるさと近江
37	島根	開郷土紹介	①くにびき太鼓、②隠岐のうた、③きいておかれ安来節、④石見神楽、⑤ラララで歌おう・旅情、⑥健康ひろば、⑦楽しいつどい
		開前集	くにびき＞①風土記の世界、②ふれあいバラード
		開後集	ふれあい＞①しまね夏、②しまねの秋、③しまねの冬、④しまねの春
38	群馬	開前集	①上州のまつり、②さわやかぐんま、③風とあそぼう、④親子で楽しく、⑤めざせゴール、⑥MARCHINGAGAINSTWIND、⑦羽ばたけ若人
		開後集	＜風に向かって走ろう＞ （第1部）ふるさとはいま （第2部）ゆたかに大きく （第3部）あすへむかって
		閉集	①MARCHINGAGAINSTWIND、＜風に向かって走ろう＞②ふるさとはいま、③ゆたかに大きく、④あすへむかって
39	奈良	開前集	①倍槿、②阪本踊 ①飛び立てこまどり、②青空に向かってVサイン、③若草もえて
		開後集	①クラシカルメッセージ、②古都の響き、③駆けよパンピ、④大和うるわし、⑤はばたけ未来
		閉集	①クラシカルメッセージ、②古都の響き、③駆けよパンピ、④大和うるわし、⑤はばたけ未来
40	鳥取	開郷芸	①米子がいな太鼓、②貝がら節、③因幡の傘踊り
		開前集	①とびだせなま、②このきずなを心にこめて、③きみの魂はもえているか、④明日へのひびき
		開後集	①THEMARCHINGSPRITS、②空に落書きかきたいな、③飛翔
閉集	①THEMARCHINGSPRITS、②とびだせなま、③明日へのひびき		



表5 IV期における国体集団演技の演技題の題材(2)

類 型	演 技 題 目	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
若い世代・力・元気さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楠風によって</li> <li>・アルプスにこだます若人の息吹(若人の伸びゆく姿)</li> <li>・元気に伸びる太陽の子(子供の躍動的な伸び姿)</li> <li>・黒潮に育つ(日向灘の黒潮に育つ少年の夢)</li> <li>・伸びよチビっ子</li> <li>・美しい自然と子供の限らない可能性)</li> <li>・躍進(未来へ躍進する姿・若いエネルギー)</li> <li>・湖に跳ねる(躍動する若者)</li> <li>・ふれあいバラード(未来へ羽ばたく若人の姿)</li> <li>・羽ばたけ若人(限らない可能性をひめた若人の姿)</li> <li>・とびだせなかま(たくましく成長する若鳥の姿)</li> <li>・きみの魂はもえているか(未来へはばたく少年の姿)</li> <li>・空に落書きしたいな(大空に羽ばたこうとするひな鳥の姿)</li> <li>・飛翔(郷土に息吹く若い力と躍進)</li> <li>・とびだせなかま(逞しく成長する若鳥の姿)</li> </ul>	●		2 ● ● ●			● 2		2			● ● ● ●
子どもの遊び・姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ようこそ佐賀へ</li> <li>・やまびこヤッホー</li> <li>・夢の広場(豊かな自然・蜂や小鳥の舞・おもちゃの夢の広場)</li> <li>・みどりの中で遊ぼう</li> <li>・おうみの子供(子供の躍動の姿と琵琶湖の大きさ)</li> <li>・風とあそぼう(四季の風と幼児の姿)</li> <li>・飛び立てこまどり(子供の素晴らしい可能性)</li> </ul>	●		●		●		2				
大会・祭典の賛歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体賛歌</li> <li>・栃の葉賛歌</li> <li>・ふるさと近江(国体賛歌とはつらつとして美しい婦人の姿)</li> <li>・きみの魂はもえているか(国体賛歌と民謡)</li> <li>・明日へのひびき(国体を賛歌する婦人の祈り)</li> </ul>					2	●				● 2	
名称・体操	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで体操</li> <li>・さあ!"リズムによって"(軽い体操)</li> <li>・下野の獅子舞(小天狗流の杖術体操と獅子舞体操)</li> </ul>	●		●		●						
音楽・ドラム・バンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムオンパレード</li> <li>・みんなで唄おう(合唱)</li> <li>・ひびけ世界にやまびこの音(バイオリン演奏)</li> <li>〈自然美しさと人間の能力の偉大さ〉</li> <li>・NOVA NAGAN O OLE!(マーチングバンド)</li> <li>・青春賛歌(マーチングバンド)</li> <li>・息吹と躍動(マーチングバンドと新体操)</li> <li>・VIVA YOUNG IN SHIGA(躍動する若者の姿)</li> <li>・ラララで歌おう・旅情</li> <li>・MARCHING AGAINST WIND(マーチングバンド)</li> <li>・クラシカルメッセージ(マーチングバンド)</li> <li>・THE MARCHING SPIRITS(マーチングバンド)</li> </ul>	● 2		● 2 ●		2		2	●	2	2 2	
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伸びよ若楠(サッカーと剣道活動紹介)</li> <li>・あすはひのき(ラグビー活動紹介)</li> <li>・伸びよあすなろ(剣道活動紹介)</li> <li>・はずむあおもり(ママさんバレーボール)</li> <li>・ひびけかけごえ日本の屋根に(剣道・軟庭)</li> <li>・みんなで楽しく(バレーボールとフォクダンス)</li> <li>・ボールへの集い(サッカー活動紹介)</li> <li>・花の舞(なぎなたと扇の舞)</li> <li>・伸びゆく湖国健児(剣道・サッカー活動紹介)</li> <li>・健康ひろば(健康づくりに励む県民の姿)</li> <li>・楽しいつどい(サッカー活動紹介)</li> <li>・親子で楽しく(ファミリースポーツを楽しむ健康家庭)</li> <li>・めざせゴール(サッカー活動紹介)</li> <li>・大地をけて(サッカー活動紹介)</li> <li>・青空に向かってVサイン(バレーボール紹介)</li> </ul>	●	● ● 2	●		● ● ●	●	●	● ● ●	●	●	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛翔(律動的な集団の美しさ)</li> </ul>			●						●		

音楽系では、マーチングバンドが定例的に取り上げられ件数も多く、固有の演技題がつけられている。演技題としても、若さを感じられる題や英文によるタイトルなど特徴的である。その他、音楽演奏、合唱は少数例である。

スポーツ（ゲーム）では、内容としても頻度が多い。演技題は、スポーツ種目の特性を表す「若さ」、「伸びる」、「楽しさ」、「はずむ」などを含んだ演技題になっている。

演技題の特性を開催県別に見ると、31回では郷土性（郷土芸能）、若い世代を、子供の遊び、体操、スポーツを、32回では郷土性（民謡、四季）、スポーツを、33回では全てが網羅され、34回では郷土特性（民謡）、35回では主に郷土性（民謡）、若い世代、子供の遊び、大会賛歌、体操、スポーツ、36回では全てが網羅されく郷土性（郷土発展）、若い世代、子供の遊び、大会賛歌、体操、音楽、スポーツを、37回では郷土性（民謡、郷土芸能）、若い世代、音楽、スポーツ、38回では郷土性、若い世代、子供の遊び、スポーツ、39回では郷土性（民謡、郷土芸能、郷土の発展）、子供の遊び、音楽、40回では郷土性（民謡、郷土芸能）、若い世代、大会賛歌、音楽などを主に題材として取り上げている。

### 3-3) IV期における開催県別集団演技の演技内容の傾向について

表6～8は、III期における開催県別集団演技のプログラム構成を、また、表9～13は開催県別の演技特性を示したものである。各開催県別の傾向はこれらの表をもとに検討した結果は以下に示すとうりある。

#### 1. 第31回国体（佐賀県）<sup>6)</sup>

＜演技内容の傾向＞

1) 演技数は、12件である。開会式式典前（4件）、式典後（4件）、閉会式（4件）＜閉会式の繰り返し＞である。式典前演技と閉会式では、集団演技のみでなく、間奏音楽やみんなで合唱、

郷土紹介などの演技の前後に小集団の演技が組まれている。式典後演技では、200人以上の大規模集団による集団演技が組まれている。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系（1件）、ダンス系（1件）、その他（9）では、＜音楽（2）（リズムバンドパレード。マーチングバンド（各1）、民謡（2）、郷土芸能（3）、スポーツ（剣道・サッカー）（1）＞である。

3) 演技内容の傾向を、系列別に観ると次に示すようである。

#### (1) 体操系

①中学生男女による体操「われら若楠」では、由緒の地はがくれの里に、力づく根を張り紺碧の空に向かって無限の広がり誇る若楠の成長を若人の躍動的な姿で表現する。構成は、騎馬戦、若楠体操、トレーニング、スタントからなる4部構成である。第1部（騎馬戦）では、紅白の騎馬戦ではがくれ健児の意気軒高はる姿を示す。第2部（若楠体では、「佐賀県民歌」にのって伸びゆく若人（若楠）の明るい姿を徒手体操によって表現する。第3部（トレーニング）では、体力向上をめざして日常練習に励む若人のたゆまぬ姿をサーキットトレーニングと縄をつかった運動によって示す。第4部（スタント）では、組運動によって、男女の調和を保ちながら「われら若楠」の美と力を表現する。

②「みんなで体操」では、女子高校生22名がトラックの周囲に位置し、観客と一体になり軽い体操を行うものである。

③小学生男女による体操と金管バンド「楠風にのって」では、すこやかに、おおらかに伸びゆく佐賀の子供の四季を705名による金管バンド隊によって明るく軽快なメドレーで力強く表現する。つづいて1706名による面浮立体操によって、純朴ではつらつとした健康美を展開し、最後に人文字で国体マークを浮き彫りにし、国体参加の感激を盛り上げる。ドリル演奏曲の内容は、-子供の四季-をテーマに、わんぱくマーチ、みかんの花咲く丘、われらは海の子、村まつり、面浮立（面浮立体操）、ふるさとである。

#### (2) ダンス系

高校生女子によるダンス「面浮立」では、激

表6 各開催県集団演技の演技プログラム構成 (第31回～33回)

回	31 佐賀				32 青森				33 長野県			
	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間
	式典前行事 (間奏音楽～案内～団体の歩み)											
1	マーチング(高校) (編上組2名,14分)	リズムオムパレード	375	10:00	スポーツ少年団	スポーツ(ラグビー)	120	20:00	幼児	ダンス(リズム遊び)	1880	12:00
2	郷土芸能	太鼓浮立	135	15:00	八戸連合婦人会	民謡(八戸小唄)	600	11:00	スポーツ少年団	スポーツ(剣道・軟式野球)	842	14:00
3	郷土芸能	獅子舞い	170	14:00	スポーツ少年団	スポーツ(剣道)	500	15:00	小(男女)	ダンス(リズム遊び)	2270	15:00
4	スポーツ少年団	伸びよ若楠	812	15:00	婦人会	民謡(弥三郎踊り)	600	7:00	軽体操部	体操	51	6:00
5	高校生女子	みんなで歌おう	40	4:00	観光協会	民謡(黒石よされ)	600	13:00				
5					高橋竹山	津軽三味線	1	12:00				
6					ママサンバレエ ボールチーム	スポーツ(バレーボール)	600	17:00				
7												
	総計		1532	58:00			3021	95:00			5043	47:00
1	高(女)	ダンス	2248	15:00	-	ダンス表現(冬:ナレーション)	-	1:22	才能教育研究	音楽(バイロリン演奏)	500	6:00
2	中(男女)	体操・トレーニング・スタンツ	2187	15:00	幼児・一般	ダンス表現(春)	2540	14:18	マーチングバンド	マーチングバンド・カラーガード	280	16:00
3	小(男女)	面浮立体操・ダンス	2411	16:00	幼児・婦人・一般	ダンス表現(夏)	3018	16:33	中(男女)	ダンス・表現	2150	13:00
4	婦人	民謡(団体音頭・はがくれ音頭)	2030	15:00	幼児・婦人	ダンス表現(秋)	3800	4:02	郷土芸能(太鼓)	郷土芸能(太鼓)	416	13:00
5	総計		8876	61:00			9358	35:93	婦人	民謡(安曇節)	2000	12:00
	(間奏音楽～案内)											
1	伝統芸能一般	天衝舞い	100	22:00	ハレボールチーム	スポーツ(ママサンバレエ)	600	53:00	マーチングバンド	マーチングバンド・カラーガード	280	16:00
2	高校生	みんなで歌おう	40	10:00	-	ダンス表現(冬:ナレーション)	-	1:22	中(男女)	ダンス・表現	2150	13:00
3	高校生女子	みんなので体操	22	10:00	幼児・一般	ダンス表現(春)	2540	14:18	郷土芸能	郷土芸能(太鼓)	416	13:00
	(間奏音楽～日程説明～間奏音楽)				幼児・婦人・一般	ダンス表現(夏)	3018	16:33	婦人	民謡(安曇節)	2000	12:00
4	小学生男女	面浮立体操・ダンス	2411	16:00	幼児・婦人	ダンス表現(秋)	3800	4:02				
5	婦人	民謡(団体音頭・はがくれ音頭)	2030	15:00								
	総計		4603	73:00			9958	88:75			4846	54:00

表7 各開催県マスケゲームの演技プログラム構成 (第34回~36回)

回	34 宮崎				35 栃木				36 和歌山				
	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間	部門	演技内容	人数	時間	
式典前	(式典前行事) 1) 保存会「泰平踊り」(50名) 2) 太鼓愛好会「ふるさと太鼓」(155名) 3) 保存会「高千穂神楽」(200名) 4) 保存会「棒おどり」(122名) 5) スポーツ少年団「剣道(547)・サッカー(140)・ラグビー(50)・四半的(50)・バレーボール(120)・トリム運動(180)」 6) 民謡会「刈干切り唄他」(10名) 7) 地域婦人会「ふるさと国体音頭」(200名)												
	1	小(男女)	ダンス(リズム遊び)	2592	14:00	(式典演技第1部) 保存会	体操(杖術体操)	710	17:00	幼児	ダンス(リズム遊び)	2000	12:00
	2	中(男女)	ダンス(リズム運動)	2596	15:00	幼児	ダンス(リズム遊び)	2500	15:00	スポ少	スポーツ(サッカー)	415	15:00
	3	婦人	民謡	1678	14:00	婦人	スポーツ(バレーボール、フォークダンス)	600	15:00	中(男女)	体操(棒・布)・ダンス	2140	15:00
	4	マーチングバンド	マーチング	405	15:00	マーチング新体操	マーチング(新体操(輪))	400	20:00	婦人	民謡	1800	10:00
					(式典演技第2部) サッカークラブ(小)	スポーツ(サッカー)	400	12:00					
					婦人, 保存会	民謡(八木節)	660	9:00					
					高(女)	なぎなた/扇の舞	489	13:00					
					小(男女)	ダンス(リズム運動)	2480	13:00					
							4029	47:00				6355	52:00
							7269	58:00					
式典後	1	一般親子	ダンス(リズム遊び)	682	12:00	(式典演技第3部) 婦人	民謡	2454	7:00	マーチングバンド	マーチングバンド・フラッグ隊他	420	13:00
	2	保存会(小)	郷土芸能(白太鼓踊)	663	13:00	中・高	体操(組体操・徒手)・ダンス	4998	13:00	小(男女)	ダンス(リズム運動)	2159	10:00
	3	高(男女)	ダンス表現	2408	14:00	中・高・婦人	ダンス・表現	7422	20:00	高(男女)	体操(徒手体操)・ダンス	2140	15:00
	4												
	5												
							3753	39:00				4523	38:00
閉会式	1	太鼓愛好会	ふるさと太鼓	200	12:00	マーチング新体操	マーチング・新体操	400	20:00	マーチングバンド	マーチングバンド・フラッグ隊他	420	13:00
	2	民謡会	日向民謡	10	10:00	婦人	民謡	2454	7:00	小(男女)	ダンス(リズム運動)	2159	10:00
	3	白太鼓	白太鼓おどり	663	13:00	中・高	体操(組体操・徒手)・ダンス	4998	13:00	中(男女)	体操(棒・布体操)・ダンス	2140	15:00
	4	婦人	民謡	1678	15:00	中・高・婦人	ダンス・表現	7422	20:00	婦人	民謡	1800	10:00
	5	マーチング(高)	マーチングバンド	405	15:00								
							2956	65:00				6519	48:00

☆閉会式演技は中止





表9 第31回国体から第32回国体までの開催県別集団演技の演技特性

回	マスケゲームの位置づけ				プログラム特性		マスケゲーム演技内容				演技人数	演技時間		
	行事関連	式外	開会式	閉会式	時間帯	名称	区別	演技数	体操系	ダンス系			その他	演技部門(性別)
31	*	*	*	*	*	その他		14 (閉5)	体操系 〈体操・トレーニング・スタンプ〉 「われら若楠」 中男女 「楠風にのって」 金管バ・体操1	ダンス系 〈ダンス表現〉 「面浮立」 高女1	〈鼓笛バンド〉 「リズムオンパレード」 小学生(男女) 1 中学生(男女) 1 高校生(女) 1 高校生(バンド) 1 〈一般〉 2030(1) 婦人 1 一般 3 スポーツ少年団 1	〈教育関係機関〉 小学生(男女) 1 中学生(男女) 1 高校生(女) 1 高校生(バンド) 1 〈一般〉 2030(1) 婦人 1 一般 3 スポーツ少年団 1	10(1) 135(1) 170(1) 375(1) 812(1) 2030(1) 2187(1) 2248(1) 2411(2)	10(1) 14(1) 15(5) 16(2) 22(1)
	*	*	*	*	*	その他		16 (閉5)	〈体操〉 「楠風にのって」 金管バ・体操1	〈ダンス表現〉	〈鼓笛バンド〉 〈民謡〉 「ようこそ佐賀へ」 婦	〈教育関係機関〉 幼児一般 (2) 幼児婦人 (2) 幼児一般 (2) 〈一般〉 (2) スポ少 (2) 連合婦人 (2) 観光協会 (1) 高橋竹山 (1)	1(1) 110(1) 120(1) 230(2) 500(1) 600(4) 1418(1) 1600(1) 2200(1) 20(1) 53(1)	1.22(2) 14.18(1) 16.38(1) 7(1) 11(1) 12(1) 13(1) 15(1) 17(1) 20(1) 53(1)
32	*	*	*	*	*	その他		16 (閉5)	〈体操〉 「楠風にのって」 金管バ・体操1	〈ダンス表現〉 〈ダンス・表現〉 「冬」 「春」 「夏」 「秋」 幼・一般1 幼婦一般1 幼・婦人	〈音楽〉 〈郷土芸能〉 「津軽三味線」 1 〈民謡〉 八戸小唄「流し踊り」 連合婦人会1 「弥三郎踊り」 婦人会1 〈スポーツ〉 「ラグビー」 スポ少1 「剣道」 スポ少1 「バレーボール」 ママサンバレーボール 1 〈スポーツ〉 「バレーボール」 ママサンバレーボール 1	〈教育関係機関〉 幼児一般 (2) 幼児婦人 (2) 幼児一般 (2) 〈一般〉 (2) スポ少 (2) 連合婦人 (2) 観光協会 (1) 高橋竹山 (1)	1(1) 110(1) 120(1) 230(2) 500(1) 600(4) 1418(1) 1600(1) 2200(1) 20(1) 53(1)	1.22(2) 14.18(1) 16.38(1) 7(1) 11(1) 12(1) 13(1) 15(1) 17(1) 20(1) 53(1)

表10 第33回国体から第34回国体までの開催県別集団演技の演技特性

回	マスゲームの位置づけ			プログラムの特性		演技内容特性			演技部門(性別)			演技人数	演技時間	
	行事関連	式外	式内	時間帯	名称	区別	演技数	特徴	体操系	ダンス系	その他			
33	*	*	*	*	その他 集団演技 公開演技 その他		13 (閉3)	開会式	〈体操〉 「さあ！リズムにのっ て」 軽体操部(高校1)	〈ダンス・表現〉 「アルプスにこたます 若人の息吹」 中男女1 〈リズム運動〉 「アルプスの町わが郷 土」 小男女1 〈リズム遊び〉 「やまびこヤッホー 幼児1	〈音楽〉 鼓笛隊 「ひびけ世界にやまび こ音」才能教育研究会 マーチングバンド 「NOVE NAGANO OLE マーチング1 「信濃の夕映えに躍る」 婦人1 〈郷土芸能〉 「信濃の路にこたます 万雷の響き」 長野県太鼓集団 〈スポーツ〉 「ひびけかけこえ日本 の屋根に」 マーチングバンド 「NOVE NAGANO OLE マーチング1 〈民謡〉 「信濃の夕映えに躍る」 婦人1 〈郷土芸能〉 「信濃の路にこたます 万雷の響き」 長野県太鼓集団 小鼓笛隊1	〈教育関係機関〉 1 幼児・先生 1 小学校(男女) 2 中学生(男女) 1 マーチング高校生 1 軽体操部(高校生) 1 〈一般〉 2000(2) 婦人 2 才能教育研究会 1 太鼓集団 1 スポーツ少年団 1	51(1) 280(2) 416(2) 500(1) 842(1) 1880(1) 2000(2) 2150(2) 2270(1)	6(2) 12(3) 13(4) 14(1) 16(2)
34	*	*	*	*	*		10 (閉3)	開会式	〈体操〉	〈ダンス・表現〉 「黒潮に育つ」 中男女1 「飛翔」 高男女1 〈リズム運動〉 「元気に伸びる太陽の 子」 小男女1 〈リズム遊び〉 「伸びよチビっこ」 親子1	〈民謡〉 「ふるさとのおうた」 婦人1 〈郷土芸能〉 「白太鼓おどり」 小学保存会1 「青春賛歌」 マーチング1	〈教育関係機関〉 1 小学生(男女) 1 中学生(男女) 1 高校生(男女) 1 マーチング 1 小学生保存会 1 〈一般〉 2592(1) 婦人 1 親子 1	405(1) 663(1) 678(1) 682(1) 2408(1) 2592(1) 2594(1)	12(1) 13(1) 14(3) 15(2)
								閉会式	〈体操〉	〈ダンス・表現〉	〈民謡〉 「ふるさとのおうた」 婦人1 〈郷土芸能〉 「ふるさと太鼓」 太鼓愛好会1 「日向民謡」民謡会1 「白太鼓おどり」 小学保存会1 「青春賛歌」 マーチング1	〈閉会式(中止)〉 1 太鼓愛好会 1 民謡会 1 白太鼓保存会 1 婦人 1 マーチング	閉会式 10(1) 200(1) 405(1) 663(1) 1678(1)	閉会式 10(1) 12(1) 13(1) 15(2)



表12 第37回国体から第38回国体までの開催県別集団演技の演技特性

回	マスゲームの位置づけ				プログラム特性		演技内容特性			マスゲーム演技内容			演技時間			
	行事関連	閉会式	式外	開会式	時間帯	単独	名称	区別	演技数	演技特性	ダンス系	その他	演技部門(性別)	演技人数	演技時間	
37	*	*	*	*			その他 各種の 集団演技		9 (開3)	閉会式	〈体操・ダンス〉 「しまねの秋」 中男女1 「しまねの冬」 小男女1 〈リズム遊び〉 「しまねの夏」 幼児1 〈ダンス〉 「しまねの春」 小・中・婦人1	〈民謡〉 「風土の世界」 婦人1 〈マーチング〉 「ふれあいパレード」 マーチング1	〈教育関係機関〉 幼児 小学生(男女) 中学生(男女) 高校生(男女) マーチング班(高) 〈一般〉 婦人 安来節保存会	200(1) 313(2) 1590(1) 1825(1) 2000(2) 2024(1) 4649(1)	1 1 1 1 2 2 1	7(1) 10(2) 13(1) 15(5)
38	*	*	*	*			*		18 (開6)	開会式	〈体操〉 「羽ばたけ若人」 中男女1 「親子でたのしく」 県内親子1 〈リズム遊び〉 「風とあそぼう」 幼児1 〈ダンス〉 「ふるさとはいま」 高男女1 「ふるさとはいま」 小男女1 「ふるさとはいま」 婦人1 「ゆたかに大きく」 高男女1 「あすへ向かって」 小・高・婦人1	〈民謡〉 「さわやか群馬」 婦人1 ダンス? 婦人1 〈マーチング〉 「MARCHING AGAINST WIND」 マ(小)1 〈スポーツ〉 「めざせゴール」 SC1 〈郷土芸能〉 「上州まつり」 保存会1	〈教育関係機関〉 幼児 小学生(男女) 中学生(男女) 高校(男)・小学生 高校生(男女)・ダンス 部 マーチングバンド(小 2) 小・高・婦人2 〈一般〉 婦人 郷土芸能保存会 親子 サッカークラブ	220(2) 328(2) 440(1) 560(1) 800(1) 978(2) 1000(2) 1800(1) 1987(1) 2126(2) 5131(1)	1 3 1 2 2 2 3 1 1 1	4(2) 6(2) 8(2) 10(7) 12(1) 13(1) 14(2) 15(1)
										閉会式	〈体操・ダンス〉	〈民謡合唱合奏〉 「きいておかれ安来 節」 保存会1 「風土の世界」 婦人1 〈マーチング〉 「ふれあいパレード」 マーチング1				

表13 第39回国体から第40回国体までの開催県別マスゲームの演技特性

回	マスゲームの位置づけ			プログラム特性		演技内容特性				マスゲーム演技内容			演技人数		演技時間
	行事関連	式外	閉会式	開会式	時間帯	名称	区別	演技数	特徴性	演技部門(性別)	演技人数	演技時間	演技人数	演技時間	
39	*	*	*	*		集その 公開演 技他			ダンス系	その他					
	*	*	*	*	10 (閉3)	開会式	体操系	体操とダンス) 「燃えよ若人」 高男女1	ダンス系	「リズム遊び」 「立てこまどり」 幼児1 「駆けよパンピ」 小学生男女1 「ダンス・表現」 「若草にもえて」 小男女1 「古都の響き」 小男女1 「大和うるわし」 婦人1 「はばたけ未来」 高男女1 「ファイナル」 小高婦1	〈音楽〉 「クラシカルメッセー ジ」 マーチング (高校生)1 〈民謡〉 「坂本踊り」 婦人1 〈伝統芸能〉 「信櫃」春日大社 南部楽所1 〈スポーツ・伝統芸能〉 「けまりとサッカー」 保存会・スポーツ少年 団1 〈スポーツ〉 「青空に向かってVサ イン」 家庭婦人 ハレールボールクラブ1	〈教育関係機関〉 幼児/指導者1 小学生(男女) 中学生(男女) 高校生(男女) 高校生(マーチング) 小・高・婦人 〈一般〉 婦人 春日大社南部楽所 阪本踊り保存会 けまりとサッケー スポーツ(少林寺拳法) スポーツ(家庭婦人バ レーボール)	50(1) 273(1) 308(1) 500(1) 520(1) 653(1) 1285(2) 1511(1) 1734(1) 1745(2) 4654(2)	3(1) 6(1) 7(1) 8(1) 10(5) 12(1) 15(1)	
40	*	*	*	*		集その 公開演 技他			ダンス系	その他					
	*	*	*	*	10 (閉3)	開会式	体操系	体操とダンス) 「燃えよ若人」 高男女1	ダンス系	「リズム遊び」 「空に落書き書きたい な」 「リズム運動」 「とびだせななま」 小男女1 「ダンス表現」 「きみの魂は燃えてい るか」 「明日へのひびき」 婦人1 「飛翔」 高男女1	〈音楽〉 「THE MARCHING SPRITS」 マーチング1 〈伝統芸能〉 「米子がいな太鼓」 一般1 「因幡の傘踊り」 一般1 〈民謡〉 「貝がら節」中男女1 「このきずなをこ めて」 一般婦人1	〈教育関係機関〉 幼児/指導者1 小学生男女 中学生男女 高校生男女 高校生(マーチング) 〈一般〉 婦人 米子がいな太鼓 横枕傘踊り保存会	20(1) 50(1) 230(1) 258(2) 1200(3) 1800(1) 1900(1) 2000(1) 2100(2)	5(1) 6(1) 8(2) 12(1) 13(6) 15(1)	

しい自然の中で明るい明日を夢みて、神に祈り、豊作を祝って踊るたくましい農民の姿を表現する。佐賀県の代表的な郷土芸能“面浮立”をもとに創作し、はがくれ乙女の素朴さ、勇荘さを織りなして表現する。構成は、4部からなり、Ⅰ．豊作の祈願、Ⅱ．働く雄姿、Ⅲ．豊作の喜び、Ⅳ．明日への希望である。

(3) その他

①音楽系

高校生による「リズムオンパレード」では、バンド、フラッグ、ドリルチーム等の編成で進行演奏を紹介する。

②民謡

婦人による「ようこそ佐賀へ」では、佐賀婦人2000余名が「ようこそ佐賀へ」（佐賀国体音頭）の明るいリズムにのって歓迎ムードを盛り上げ、つづいて「はがくれ音頭」で郷土の香り豊かな姿を表現するとともに、隊形の変化により造形や集団の美を出す。最後に佐賀の里に生まれた「はがくれ武士」をりりしいでたちで荘重に踊り、31サガの人文字で国体を謳歌する。

③その他

<1>郷土芸能

(ア) 一般による「太鼓浮立」では、少年浮立ち隊を編成した壮観で力強い演奏を紹介する。

(イ) 一般による「獅子舞い」では、三段つぎの獅子舞いを中心にその周囲を荒獅子がはげしい動きの演技をする。

(ウ) 一般による「天衝舞い」では、直径2mの冠りをつけて、はげしく舞う。

<2>スポーツ

スポーツ少年団によるスポーツ「伸びよ若楠」では、県内スポーツ少年団によるサッカー、剣道の日常活動を紹介する。

4) 演技特性

①開閉会式共、式典前が式典前行事として集団演技を含めた気軽で多彩な内容として構成されている。

②演技配列が、式典前は少数による郷土芸能の紹介を主体とし、式典後では大規模集団による集団演技で生まれ、閉会式では、郷土芸能の紹介、会場全体での合唱と体操の後の混成内容で

ある。

③合唱やみんなで体操など、観客と一体化できる部分が工夫されている。

5) 演技配列

式典前演技では、<間奏音楽・案内・国体の歩み・間奏音楽>、リズムパレード(音楽演奏)、<郷土紹介>、郷土芸能(太鼓浮立・獅子舞)、スポーツ(サッカー、剣道)、<合唱>の順の展開である。主な演技では、音楽演奏から芸能による郷土性、最後は活発なスポーツで多彩な内容で、導入として小集団による気軽な演技を配列している。式典後演技では、高校生女子によるダンス、中学生男女による体操・トレーニング・スタント、小学生によるマーチング、最後は婦人による民謡(音頭)の展開である。何れも大集団の演技で、郷土色強いストーリー性のある安定した世代のダンスの導入から「若楠体操」、サーキット・縄のトレーニング、スタントなど効果的な運動による演技、音楽と隊形変化のマーチングと続き、最後は婦人のより郷土の音頭と活発さを表現する。閉会式では、<間奏音楽>、郷土芸能(天衝舞い)、みんなで体操、<間奏音楽・日程説明・間奏音楽>、マーチング、民謡の展開である。前半は郷土色、中間は全体による合唱と体操による観客とフィールドの一体化をねらい、後半は2つ集団演技(マーチングと民謡)により郷土色を出して終演となる。

6) 個別演技の演技時間は、10分から22分まで演技の設定である。リズムバンドパレード、みんなの体操(10分)、郷土芸能<天衝舞い>(22分)を除き、14分(1)・15分(6)の設定である。式典別の演技時間は、式典前(10分～15分)、式典後(15分～16分)、閉会式(10分～22分)であった。

7) 個別演技の演技規模は、「みんなで体操」(22名)以外の演技は、100人から2411人である。郷土芸能などは100から375人の小規模設定で、その他は2030から2411人の大規模設定である。式典別には、式典前(135～812名)の小規模、式典後(2030～2411名)の大規模であり、閉会式(22～2411名)<みんなで体

操」(22名)、「天衝舞」(100名)以外は、2030・2411名>の幅のある演技規模である。

8) 演技部門は、教育関係機関(5件)〈小学生男女〈マーチングバンド、リズムパレード〉

(1)、中学生(男女)(1)、高校生(女)(1)、高校生(1)「みんなで体操」>である。また、一般は、4件〈婦人(2)、一般(伝統芸能)(3)、スポーツ少年団〈サッカー、剣道〉(1)〉>である。

## 2. 第32回国体(青森県) 7)

〈演技内容の傾向〉

1) 演技数は、16件である。開会式式典前(7件)、式典後(4件)、閉会式(5件)〈閉会式の繰り返し〉>である。式典前演技では、間奏音楽や案内、日程説明、間奏音楽、場内レクレーションについて郷土芸能、民謡、スポーツを内容として構成される。式典後演技では、演技構想を持つダンス系の集団演技が組まれている。閉会式では、間奏音楽・案内・間奏音楽について、スポーツ紹介、式典後演技全体の繰り返しである〈閉会式演技では、集団演技の名称では式典後演技のみとされているが、ここでは式典前の演技内容も配慮しスポーツも含めて位置づけている〉。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系(0件)、ダンス系(8件)、その他(8)〈民謡(3)、郷土芸能(1)、スポーツ(4)〉>である。

3) 演技内容の傾向を、系列別に観ると次に示すようである。

(1) 体操系(該当演技無し)

(2) ダンス系

開会式式典後演技及び閉会式で、美しく豊かな自然に恵まれた郷土青森の四季をドラマティックに構成し、「みのりある明日を拓け」を演技テーマに展開される(閉会式兼)。

1. 「冬」(ナレーションのみ)では、「雪が吹きすさび、樹々も凍りつく北風の冬。それは長くきびしい。しかし、春への力をたくわえ、希望ふくらむ季節でもある。たくましく息づく郷土の冬を、ナレーションでつづる」。

2. 幼児と一般による「春」では、待ちこがれていた春を迎える歓喜の姿を、風車、動物、花を描く幼児の奔放な動きと、勇壮な駒踊りの乱舞によって表現する。

3. 幼児・婦人・一般による「夏」では、明日の青森県をきづく県民の気力と、その姿を、快活な国体音頭による婦人の踊りと、たくましくはなやかなハネトの乱舞とねぶたによって表現する。

4. 幼児と婦人による「秋」では、みのりある明日をきりひらく青森県の姿を、幼児・婦人で構成するりんごとアスナロの造形美によって表現する。

3) その他

①音楽系(該当無し)

②民謡

〈ア〉八戸小唄幸「流し踊り」では、八戸小唄の優雅な踊りを披露する。

〈イ〉「弥三郎踊り」では、津軽地方の代表的な代表的な民謡「弥三郎屋踊り」により、藩政時代の嫁姑の関係を歌と踊りで披露する。

〈ウ〉「黒石よされ」では、県内で最も規模の大きい盆踊りとされる「よされ踊り」の多様な踊りを披露する。

③郷土芸能

「津軽三味線(岩木)」では、名士高橋竹山氏の津軽三味線による即興曲岩木により津軽の風土を披露する。

④スポーツ関係

〈ア〉「あすはひのきに」では、スポーツ少年団によるラグビーの日常活動を紹介する。〈イ〉伸びよあすなろ」では、スポーツ少年団による剣道の日常生活を紹介する。

〈ウ〉「はずむあおもり」では、県内のママさんバレーボールチームのび、日常活動を紹介する。

4) 演技配列

開会式式典前では、スポーツ(ラグビー)、民謡、スポーツ(剣道)、民謡、民謡、郷土芸能、スポーツの順序の展開である。主として内容が、郷土性のある民謡・郷土芸能に郷土性を強調し、併せて少年団のスポーツ(ラグビーや剣道)



により活発さ示すなど、多集団による集団演技でない親しみやすい展開となっている。式典後では、構想による郷土の四季「冬・春・夏・秋」を題材にしたダンス・表現である展開である。演技者に幼児を中心に、婦人と一般を混成し、幼児の活発さ・婦人の明るさなど各年代の特性や郷土民謡を題材とした踊り国体音頭などで季節の特性を表現する。閉会式では、＜間奏音楽・案内・間奏音楽＞について、長時間のスポーツ（ママさんバレーボール）の後、開会式式典後全演技の繰り返しである。

#### 5) 演技特性

①演技は、開会式式典前は、主に豊かな郷土芸能、スポーツで構成され、式典後では郷土の四季を構想した集団演技が展開され、閉会式では、スポーツと式典後演技の再現である。

②主な集団演技の演技部門は幼児・婦人・一般である教育機関外を主にしている他県にない例である。

③手具としては、題材とした郷土芸能の用具が多い。

6) 個別演技の演技時間は、1.22分から53分まで演技の設定である。但し、式典後の演技「冬」はナレーションのみ1.22秒の設定であり、閉会式の集団演技前の演技スポーツは53分であり、これらを除けば、4.2分から20分という演技に応じた時間設定である。式典別の演技時間は、式典前（7分～20分）、式典後（1.2分～16.33分）、閉会式（1.2分～53分）であった。

7) 個別演技の演技規模は、1名から2410名である。1人は伝統芸能の津軽三味線の演奏者1名の特例であり、それを除けば120名以上の規模設定となる。郷土芸能などは100から375人の小規模設定で、その他は2030から2411人の大規模設定である。式典別には、式典前（1名～600名）、式典後（2540名、3018名、3800名）、閉会式（600、2540、3018、3800名）である。

8) 演技部門は、幼児と婦人、幼児と一般、幼児と婦人と一般の幼児が主体となり、一般がそれと合併する演技として組まれている。教育関

係機関（6件）＜幼児（6）＞のみで他の部門は見られない。一般は、スポーツ少年団＜ラグビー・剣道＞（2）、ママさんバレー（2）、婦人（4）、一般（4）、郷土芸能の連合婦人会・観光協会・個人（各1である）。式典別には、式典前＜スポーツ少年団（2）、ママさんバレー（1）、連合婦人会（1）、観光協会（1）、個人（1）＞、式典後＜幼児（3）、一般（2）{駒躍り講演会}、婦人（2）＞、閉会式＜ママさんバレー（1）、幼児（3）、婦人（2）、一般（2）{ねぶた・ハネト・太田鼓}＞である。他県に無く一般部門の導入が多い特殊な例である。

### 3. 第33回国体（長野県）<sup>8)</sup>

＜演技内容の傾向＞

1) 演技数は、13件である。開会式式典前（4件）、式典後（5件）、閉会式（4件）＜開会式の繰り返し＞である。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系（1件）、ダンス系（4件）、その他（8）＜マーチング（2）、バイオリン演奏（1）、民謡（2）、郷土芸能（2）、スポーツ＜剣道・軟式庭球＞（1）＞である。

3) 演技内容の傾向を、系列別に観ると次に示すようである。

#### (1) 体操系

軽体操部による「さあ！リズムにのって」（式典前第4演技）では、式典を前に観客と軽い体操を行い、疲労の回復と転換をはかり、あわせて会場内の雰囲気明るく、なごやかにすることをねらってすることをねらいとして演出する。入場では、軽快な音楽により、ランニングで入場する。隊形では、メインを頂点としたひしがたをつくり、観客の方向に位置する。演技では、手をたたき、足ぶみして大きく声をあわせ、隣り同志手を取りあうなどの運動をでみんなで行う。退場では、再び軽快な音楽により、ランニングで退場する。

#### (2) ダンス系

①幼児によるリズム遊び「やまびこヤッホー」

(式典前第1演技)では、日本の屋根といわれる山脈に囲まれた自然の中で、伸びゆく幼い生命を限りなく躍動させる幼児たちが、愛らしくたくましくそのよろこびを表現す。第1部「こんにちはやまびこさん」では、たくましさ・歓喜青空にそびえる山に、こだまする不思議なやまびこの精になって、広い野原に遊ぶ虫や蝶を、こびとの姿でたくましく明るく表現する。第2部「みんなでおどろう」では、愛らしく・美しくやまびこの精のこどもたちが、協力しあいいきいきと明るく夢をみて躍動する姿を、美しく、愛らしく表現する。

②小学生男女によるリズム運動「アルプスの町わが郷土」(式典前第3演技)では、美しい山々に囲まれた豊かな自然と、伝統に育まれた町、未来に向かって躍進する郷土の姿を、明るく元気に育つ子供たちが、集団行動の美によって力強く表現する。構成は3部構成である。第1部「情緒あふれる郷土の祭り」では、城下町に古くから伝わる子供の祭りを中心に松本ぼんぼんを元氣よく楽しく表現する。第2部「豊かな自然に恵まれた郷土」では、アルプスの山々と、そこから流れ下る梓川、豊に稔る稲穂などの様子を大きくどっしりと表現する。第3部「未来にはばたく郷土」では、花いっぱい発祥の地松本、美しい山々と水の長野県、それぞれのシンボルマーク「花」と「県章」を力強く表現する。

③中学生によるダンス表現「アルプスにこだます若人の息吹」(式典後第3演技)では、信濃の美しい豊かな自然のふところに抱かれはぐくまれている若人が、ふるさとを謳歌し、清らかな明日への躍進に手を取り合って伸びゆく姿を、象徴的に表現する。雄大なアルプスと純白の雪を溶かして流れる梓川の清流を背景に、こだまする若人の息吹を、空間や動きのリズムの中に表す。

### (3) その他

#### ①音楽系

<ア>才能教育研究会による「ひびけ世界にやまびこの音」(式典後第1演技)では、澄んだ空気と、美しい山並に囲まれたすばらしい信州の自然環境の中で生まれ育った幼いこども達が

自然の美しさと、人間の能力の偉大さを、パイオリンの演奏によって表現する。演奏曲目は、(1)アレグロ(2)無窮動(3)ガボットである。

<イ>マーチングバンドによる「NOVANAGANOOLE!」(式典後第2演技)では、勇壮なドラムマーチ、軽快なメロディー、華やかな色彩、きびきびした若者らしい動き。バンド、カラーガード、バトン各々の隊が特色あるドリル、演技を披露し、また混然一体となって鮮やかなフォーメーションをつくり「やまびこ国体」の開閉会式を飾るにふさわしい演技とする。

#### ②民謡

婦人による「信濃の夕映えに躍る」(式典後第5演技)では、美しく雄大な信州の自然と人情、歴史など豊かに力強く歌い込み、県民すべてのこころのふるさとともいえる県歌「信濃の国」を基調とし、アルプスのふもとと安曇野に生まれた「安曇節」を配して、軽快に、そして情緒あふれる表現する。前半では、わさび畑を想わせる方形の隊形により「安曇節」を踊る。後半では、信州の自然を表す県旗の色の大円の中に二輪の県花りんどうの花を咲かせる如き隊形により「信濃の国」を踊る。

#### ③郷土芸能

「信濃の路にこだます万雷」(式典後第4演技)では、素朴で情緒豊かな太鼓のリズムにのっていくつかの集団がグラウンドの中央に向かって進み、中央に位置する太鼓の合図で曲が「信濃楽はやし」のリズムに変わるとともに、合同演奏の隊形に各集団が展開し、隊形をととのえた太鼓からの響き序序に打ち始め、やがて「田楽囃子」のリズムの大合奏となってゆく。隊形が全て整ったころ万雷の響きが信濃の山並にこだまして情景をかもしだし、「やまびこ国体」の大会テーマにふさわしい郷土色に満ちた信濃の太鼓の豪壮な曲が打ち鳴らされてゆく。

#### ④スポーツ関係

「ひびけかけごえ日本の屋根」には、剣ひとすじに心をこめる豆剣士と、白のユニフォームも軽やかにボールを追う軟式庭球グループに

よってスポーツ少年団活動のきびきびした姿をアルプスに向かってさわやかに展開する。第1部「剣道」では、日本古来の剣道の演技を号令とかけごえによって力強く表現する。第2部「軟式庭球」では、日本において生まれそだった軟式庭球の演技を明るく軽やかに展開する（使用したボールにプレゼントする）

#### 4) 演技配列

開会式式典前では、幼児のリズム遊び、スポーツのスポーツ、小学生のリズム運動、軽体操部の体操の展開である。主として若い世代の演技構成され、導入としての親しみ易さや参加者全員参加の体操など一体化できる場など雰囲気や和ませる工夫がみられる。

開会式式典後では、才能教育研究会の音楽（バイオリン演奏）、マーチング、中学生のダンス、伝統芸能の太鼓演奏、婦人の民謡の展開である。前半は音楽と音楽と隊形など音楽系演技、長野の自然と若い姿を現すダンス、後半は、勇壮な太鼓の演技と民謡など地域色を強調している。閉会式は、開会式式典後演技の音楽演奏を除いた第2演技から第5演技までの繰り返し演技である。

#### 5) 演技特性

①各式典演技では、演技構成や演技題に長野の自然や地域色をだしたものが多い。体操、ダンス、その他の配分にバランスがとれている。

②体操の内容として、31回と同様、「みんなで体操」の導入が見られる。

③演技部門が、教育機関より一般の参加が多い。

6) 個別演技の演技時間は、6分から16分まで演技の設定である。式典別の演技時間は、式典前（6～15分）、式典後（6～16分）、閉会式（12～16分）であった。式典別の時間数は、式典前（47分）、式典後（60分）、閉会式（54分）である。

7) 個別演技の演技規模は、51名から2270名である。式典別には、式典前（51～2270名）、式典後（280～205名）、閉会式（280～2150名）である。総演技者数は式典前（5043名）、式典後（5346名）、閉会式（4846名）である。

8) 演技部門は、教育関係機関（7件）＜幼児

（1）、小学生（1）、中学生（2）、軽体操部（高校生）、マーチング（2）＞の単独演技である。その他（6件）は、スポーツ少年団＜剣道・軟式庭球＞（1）、婦人（2）、才能教育研究会（1）、郷土芸能太鼓集団（1）＞であり、教育関連機関と一般が均等の参加がみられる。式典別には、式典前＜幼児（1）、スポーツ少年団（1）、小学生（1）、軽体操部（1）＞である。教育関連機関とその他が均等の参加が観られる。式典後＜才能教育研究会（1）、マーチング（1）、中学生（1）、郷土芸能（1）、婦人（1）＞、閉会式＜マーチング（1）、中学生（1）、郷土芸能（1）、婦人（1）＞など各式典で特徴的な導入である。

## 4. 34回国体（宮崎県）<sup>9)</sup>

＜演技内容の傾向＞

1) 演技数は、12件である。開会式式典前（4件）、式典後（3件）、閉会式（5件）＜開会式の繰り返し＞であるが、閉会式演技は荒天のため中止となった。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系（0件）、ダンス系（5件）、その他（8）＜マーチング（2）、民謡（3）、郷土芸能（3）＞である。

3) 演技内容の傾向を、系列別に観ると次に示すようである。

(1) 体操系（該当無し）

(2) ダンス系

①一般親子によるリズム遊び「伸びよチビッ子」

（式典後第1演技）では、おおらかに、明るく、たくましく、無限に伸びる子どもたちの力を、親と子の遊びを通して元気よく表現する。第1部「おかあさんといっしょに」では、おかあさんと子どもがいっしょに遊ぶ中で、子どもの健康を高める遊びを中心に表現する。第2部「たのしい遊園地」では、広い遊園地で乗り物や動物などの模写遊びをしながら、みんなで仲良く遊ぶ、元気な子どもたちの姿を表現する。第3部「みんなでたのしく」では、パラパルーンを使って、みんなで元気で子どもたちの姿を表現

する。

②小学生男女によるリズム運動「元気に伸びる太陽の子」(式典前第1演技)では、子供達が伸びてゆく姿を、躍動的に表現する。第1部「里の遊び」では、昔から親しまれてきた子供の遊びを通して、遊びに熱中している姿を表現する。第2部「ぼくらの祭り」では、郷土に伝わる四季おりおりの遊びを通してたくましく伸び行く姿を表現する。

③中学生男女によるダンス表現「黒潮に育つ」(式典前第2演技)では、日向灘の黒潮に育つ少年の果てしない夢を太洋に託して、律動的に表現する。第1部では、日向灘の夜明けの表情を動きのコントラストで表現する。第2部では、大洋に浮かぶ白い船や、海にいどむ若人の姿と、波の表情を豊に強く表現する。第3部では、明日を開く少年達が、黒潮の流れに生まれるエネルギーを若い力の躍動とする。

④高校生男女による「飛翔」(式典後第4演技)では、豊かな郷土に息吹く若い力、未来に向かってはばたく若人の意気と力に燃え躍進する姿をダイナミックに表現する。第1部では、優美でひなびた鶴富的な情熱と、とこしえにもえるふるさとの心を表現する。第2部では、生命感あふれた樹木の生・力・勇の姿を力強くたくましく表現する。第3部では、未来に羽ばたく若人のたびたちの姿を、現代感覚のリズムや動きで、力強く表現する。

### (3) その他

#### ①音楽系

高校生によるマーチング「青春賛歌」(式典前第4演技)では、若さあふれる「音」と陽光に映える「色」のハーモニーに、リズムックに躍動する「動き」を加え、明るく、力強く、律動的なマーチングを展開する。

#### ②民謡

婦人による民謡「ふるさとのうた」(式典前第3演技)では、宮崎の代表的な民謡「ひえつき節」「刈干切り唄」「シャンシャン馬道中唄」を主題として、民謡の里にふさわしい情景を婦人の特性を生かして表現する3部構成の演技である。第1部「ひえつき節」では、ひせつき節

のてぶりや、きねとうすの動きから、ひえつき里のようすを表現する。第2部「干刈切り唄」では、雄大な高千穂の山々や大鎌を振るって、刈干切りをする労作業の様子を表現する。第3部「シャンシャン馬道中唄」では、シャンシャン馬の赤い手綱と鈴の音に、明るくのどかな道中のようすを表現する。

#### ③郷土芸能

小学校保存会による「臼太鼓おどり」(式典後第2演技)では、西都市水流地区に伝わる無形文化財「臼鼓踊」のステップや、隊形の原形を基本にして、子どもの臼太鼓おどりを創作し、勇壮で律動的な集団の美しさを表現する。第1部「四ならび」では、正調おどりの「四ならび」の隊形のイメージを並列の大集団で表現する。第2部「十文字」では、「十文字」の隊形のイメージを基本の回転ステップなどを応用しながら小集団として変化をもたせる。第3部「正調」では、保存会員による正調のおどりと子どものおどりと調和させる。第4部「円形」では、「円形おどり」を全集団としてまとめ、太鼓のリズムとのほりの華麗さを生かし豪快に表現する。

#### ④スポーツ関係(該当無し)

#### 4)演技配列

式典前では、幼児によるリズム遊び、中学生によるダンス表現、婦人による民謡、マーチングの順に展開される。前半はダンス系、後半は民謡と音楽の配列となる。式典前演技では珍しく導入演技から大規模な演技で、構成されている。式典後では、親子のリズム遊び、小学生保存会による郷土芸能、高校生によるダンス・表現である。最終高校生のダンス演技以外は、少数規模演技で前半は親子のスポーツ教室の場面を展開した楽しい健康遊び、遊園地の模範演技、パラバルーンなどの親子の元気な姿の展開、次いで、無形文化財「臼太鼓踊」を変化させた踊りにより4つの構成で勇壮な律動的な展開、最後は、若い力、未来、躍進の姿を3部で構成しクラマックスとなる。閉会式では、郷土芸能(太鼓)、民謡、一般の郷土芸能、婦人による民謡、マーチングの順序の配列である。ダンス的な演技でなく、郷土性が強調されている。主として

式典演技の演技数，時間，規模では式典前及び閉会式の配分が多い。

#### 5) 演技特性

①式典前演技に，大規模演技が多く展開されている。

②演技部門数は多くないが，教育機関や一般など幅広く構成されている。

③使用手具として，式典前の小学生のしゃみ，中学生男子の舟，式典後の幼児のバラバルーン，小学生保存会のひもろぎ，高校生男子のロープ，女子の5色式の布，男女の三角布などの特徴的である。

④演技内容は，ダンス系とその他（郷土芸能，民謡が主である）である。

⑤閉会式（天候で中止）では，郷土芸能や民謡などが主体となっている。

6) 個別演技の演技時間は，10分から15分まで演技の設定である。式典別の演技時間は，式典前（14～15分），式典後（12～14分），閉会式（10～15分）であった。

式典別の時間数は，式典前（58分），式典後（39分），閉会式（65分）である。

7) 個別演技の演技規模は，10名から2592名である。式典別には，式典前（405～2592名），式典後（663～2408名），閉会式（10～1678名）である。総演技者数は式典前（7269名），式典後（3753名），閉会式（2956名）である。

8) 演技部門は，教育関係機関（5件）＜小学生（1），保存会＜小学校＞，中学生（1），高校生（1），マーチング＜高校生＞（2）＞の演技である。その他（6件）は，婦人（2），親子（1），保存会（1），太鼓愛好会（1），民謡会（1）であり，教育関連機関と一般が均等の参加がみられる。

## 5. 第35回国体（栃木県）<sup>11)</sup>

### ＜演技内容の傾向＞

1) ①演技数は，15件である。開会式式典前（8件）＜第1部（3件），第2部（5件）＞，式典後（3件），閉会式（4件）＜開会式式典前

後演技の繰り返し＞である。

2) 演技内容を各系列別に見ると，体操系（3件），ダンス系（4件），その他（7件）＜音楽（2）：マーチング+新体操＞，民謡（3），スポーツ＜（バレエボール+フォークダンス（1），なぎなた+扇の舞（1））＞である。

3) 演技内容の傾向を，系列別にみると次に示すようである。

#### (1) 体操系

小中学生と保存会による「下野の獅子舞（杖術体操・獅子舞体操）」（式典第1部第1演技）では，古賀町木地区に伝承されている獅子舞前座芸能と云われる棒と太刀による小天狗流の杖術及び今市市小林地区に伝わる関白流を名乗る1人立3匹の獅子舞を体操化したものを小中学生を中心に実施する。

#### (2) ダンス系

①幼児によるリズム遊び「夢の広場」（式典第1部第2演技）では，豊かな自然に恵まれた中で，花は咲き蝶や小鳥たちが飛び交う。やがて子供達は，遊び疲れ家路に向かう。子供達の大好きな面茶も，おもちゃ箱から飛び出して，夢の広場を駆け回る＜前演技の終了2分前に入場し，トラック上で待機する＞。

②小学生によるリズム運動「自然の子供」（式典第2部第5演技）では，美しい郷土の自然と，そこにはたぐいまれなる栃木の子供たちの限り無い可能性を，動的に表現する。第1節「のびる栃の子」では，大空に向かって力強く伸びる杉並木を，すくすく育つ子どもたちの力で表現する（杉並木の造形）。第2節「豊かな栃の子」では，豊にるり色の水をたたえた中禅寺湖の美しさを，水色の布と子供たちの動きとの調和で表現する（中禅寺湖の造形）。第3節「進む栃の子」では，鬼怒川の清流を，栃木の子供に託して表現し，人文字「とちのは」の造形で式典前のフィナーレとする（鬼怒川の造形，人文字「とちのは」の造形）。

③中学生・高校生男女による「躍進」（式典第3部第2演技）では，郷土栃木県の限りなく未来へ躍進する姿を，明日をひらく中学生・高校生の若いエネルギーにより，ダンス・組体操・

徒手的運動等に託して表現し、演出する3部構成の演技である。第1部（高校生女子）では、婦人の退場と同時に高校生女子が白布を持って入場し、乙女の若さと美しさを、白布の効果的に使用しながら、隊形の変化と合わせて演出する。第2部（高校生男子）では、続いて各ゲートから高校生男子が駆け足で入場し、高女の演技隊形の中心に向かって4本の放射線状に整列した後、組体操を行う。更に隊形を移動し、組体操及びはしごを使用して組立運動を展開した後、第1・2ゲートから退場する（高女は左右のトラック上に移動して補助的演出を続ける）。第3部（中学生男女）では、高女の退場と同時に中学男女が入場し、男子は白い棒、女子は白い輪をもって、男女の動きの変化を加えながら一斉運動は展開する（高女は補助演技を続ける）。

④中・高校生・婦人によるダンス「栃の葉賛歌」（式典第3部第3演技）では、栃の葉国体に寄せる限りない県民の熱意と期待とまごころを、栃の葉の立体的な造形に集約して、ダイミックに躍動する演技を展開するとともに、県民の友情の和を「栃の葉国体音頭」の輪踊りに託し、更に、県花ヤシオツツジの大開化を、立体的造形とスタンドの吹奏楽隊・合唱隊・ファンファーレ隊との演技の一体化をはかりながら、高らかに歌い上げ、栃の葉賛歌及び開会式のファンファーレとする。第1部「栃の葉の造形」では、躍進の演技終了後、スタンドの音楽隊の演奏に合わせて、中男女、高女が行進を開始しは再びゲートから入場する（第1・2ゲートから塔を運び込む）。更に手具（棒・輪）の受渡しを行いながら栃の葉の造形を完了する。そして更に「マドンアの宝石」に合わせて、波動運動を中心とする壮麗で躍動的で栃の葉造形・演技を展開する。第2部「栃の葉国体音頭」では、栃の葉の造形・演技終了後、中高校生が隊形を移動する同時に、婦人が再び入場し、「栃の葉国体音頭」を繰広げる。第3部「ヤシオツツジの造形」では、最後に県花ヤシオツツジを造形し、「栃の葉国体賛歌」に合わせて華麗に栃の葉国体を歌い上げ、煙火の打ち上げとともに、中学生の塔から「のびる力」・高校生の塔から「む

すぶ心」の垂れ幕、トラック上の婦人が「ひらくあした」の横幕を揚げて、フィナーレとする。

### (3) その他

#### ①音楽系

高校生による「息吹と躍動」（式典第2部第1演技）では、栃の葉の息吹と躍動を、マーチングバンドと新体操の音や動きによって表現する。＜場内放送の間に、各ゲートから入場する＞。マーチングがドリルを開始し、マーチングバンドの演奏に合わせて、ポンポン、バンド及び新体操のグループが手具（輪）を使用した運動を展開する。両者一体の演技により、栃の葉芽吹き、成長して行く姿を音と動きで表現する。

#### ②民謡

＜ア＞婦人による「みんなで楽しく」（式典第2部第3演技）では、県内に広く普及している婦人のバレーボールを実施し、フォークダンスを踊り、婦人の連帯感を表現する。＜前演技終了時に各ゲートから入場し、トラック上に待機する＞。電子オルガンのリズムカルな曲に併せて、隊形を変化させながらフィールド一杯にバレーボールの基本技能を展開した後、10個のシングルサークルを作り、みなで楽しくフォークダンス（タタロチカ）を踊り退場する。

＜イ＞婦人による「八木節」（式典第3部第1演技）では、威勢の良い軽快なテンポのおはやしで全国的に知られている八木節を発祥の地・足利市の代表により、音と動きの競演で展開し、本件の郷土芸能を紹介する。おはやしに合わせて各ゲートから踊り手が手具（かさ・花輪等）を持って早足で入場し、動きや色彩の変化で競技を展開する。

＜ウ＞婦人による「ふるさと栃木」（式典第3部再1演技）では、ふるさとの民謡「日光和楽踊り」を、音と動きと色彩の変化により展開し、隊形の移動を加えながら、全県下婦人の若さあふれる姿を演出する。＜構成＞各ゲートから「おかあさん」のメロディーに合わせて、軽快な足取りで入場した後、フィールド一杯に笠隊形を作り、色彩と隊形の変化を加えながら、若々しく「日光和楽踊り」を展開する。

#### ③郷土芸能（該当無し）

④スポーツ

<ア>少年サッカークラブによる「ボールへの集い」(式典第2部第2演技)では、世界のスポーツであるサッカーの楽しさをボールコントロール等の技術表現する。各ゲートから、自由にドリブル(足でボールを転がし運ぶ)で入場、サンバのリズムに合わせて一斉にブラジル体操を行った後、ヘディング(頭でボールを打つ)・キック・シュート・ボールリフティング(足・もも・頭等でボールを数分を連続してつく)等の技術を、隊形の変化と合わせて紹介する。

<イ>高校生によるなぎなた・ダンス「花の舞」(式典第2部第4演技)では、なぎなたの基本を紹介するとともに、箏曲に合わせて、優美な扇の舞を繰り広げる。第3・4ゲートから小走りで入場し、音楽に合わせてなぎなたの基本を演じた後、隊形を変化させながら、箏曲に合わせて、日本女性の美を表現する扇の舞に変化する。第1節では、花・蝶・小鳥の動きに託して、子供達の可能性を秘めた芽がふくらみ、自然の中で生き生きと伸びて行く様を表現する。第2節では、野口雨情の「あの町この町日くれる」のメロディーで、子供達が眠りにつく様を表現する。第3節では箱から飛び出したおもちゃたちに託して、子供達が明日に向かって数の夢を表現する。

(4) 演技特性

①開会式演技が、式典前第1部「のびる力」、2部「むすぶ心」、第3部「ひらくあした」の3部構成で、次々と演技が展開される初めてのドリル形式がとられている。先催県のように、式典前演技の前に音楽演奏、郷土紹介、レクリエーションなどにより式典前行事として位置づけ主な集団演技への導入形式でなく、全てが式典演技としての色彩をもち展開されるように工夫されている。

②単一内容の演技展開でなく、複数演技が組まれている(例:マーチング+新体操、なぎなた+扇の舞など)。

③郷土芸能をアレンジした体操(杖術体操、小林獅子舞体操)がある。

④式典後集団演技は、本国体の演技の規模や他

県の規模に無く、統一テーマ「栃の葉賛歌」と称して大規模な演技(2454名、4998名、7422名)が展開される。フィナーレは20分間、7422名でⅣ期では見られない大きな規模として展開される。

(5) 演技配列は、開会式式典前第1部では、保存会による体操、幼児によるリズム遊び、婦人によるスポーツ<バレーボール>の順序で展開される。郷土の郷土性のアレンジ体操、子供らしさの夢の遊び場の表現、スポーツ<バレーボール>とフォークダンスによる活発さの表現である。式典前第2部には、初めに高校生によるマーチングと新体操の音楽と動きの美の表現、スポーツ<サッカー>によるブラジル体操や基礎技能の展開、婦人による八木節と郷土芸能の紹介、高校生女子による勇壮ななぎなたの基本技の披露と優雅な扇の舞の演技、小学生男女によるリズム運動により自然の美しさと子どもの無限の可能性を活発に表現する。式典第3部演技では、統一テーマ「栃の葉賛歌」による、婦人の音と色彩と動きを生かした民謡の導入、中・高校生の体操・ダンスにより郷土の未来への躍進と若い世代のエネルギーの表現、最後は、栃の葉の立体図形、友情の輪、県花の造形などをとって壮大なフィナーレとする。閉会式では、マーチング+新体操(開会式式典前第2部第1演技)の導入から式典後演技が繰り返し展開される。

6) 個別演技の演技時間は、7分から20分まで演技に応じた広い設定である。個別演技でも13分(4件)、20分(4件)が多く設定されている。

式典別の演技時間の分布は、式典前(第1部:15~17分、第2部:9~20分)、式典後(7~20分)、閉会式(7~20分)である。式典別総演技時間は、式典前(第1部:47分、第2部:55分、第3部:40分)、閉会式(60分)、総計(202分)である。

7) 個別演技の演技規模は、400名から7422名までで、式典後演技は他県に無く大規模な設定である。演技規模の分布は、400名から7422名まで演技により幅広く設定されており、

特定の規模の集中はみられない。式典別の演技規模の分布は、式典前(第1部：600～2500名、第2部：400～2480分)、第3部(2454～7422分)、閉会式(400～7422分)である。式典別総演技規模は、式典前(第1部：3,810名、第2部：4,029名、第3部：14,874名)、閉会式(15,274名)、総計(37,987名)である。

8) 演技部門は、教育関係機関(10件)＜幼児(1)、小学生男女(1)、中・高校生(2)、中・高・婦人(2)、高校生(マーチング+新体操(高))(2)、高校生(なぎなた+扇の舞)(1)＞である。また、一般は＜婦人(3)＜民謡(2)、バレーボール(1)、サッカークラブ(1)＞である。

## 6. 第36回国体(滋賀県) 12)

＜演技内容の傾向＞

1) 演技数は、11件である。開会式式典前(4件)、式典後(3件)、閉会式(4件)＜開会式式典前後演技の繰り返し＞である。式典前集団演技の前に郷土紹介として、琵琶湖に根づく郷土芸能4つ(七川祭奴振り、朝日豊年太鼓踊り、薙刀踊り)と600名の合唱隊による「ふるさと大津のうた」の大合唱が組まれている。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系(4件)、ダンス系(2件)、その他(5件)＜音楽(2)、民謡(2)、スポーツ(剣道・サッカー)＞である。

3) 演技内容の傾向を、系列別にみると次に示すようである。

### (1) 体操系

高校生男女による体操・ダンス「びわこの四季」(式典後第3演技)では、恵まれた自然と美しい琵琶湖を持ち、明日へと伸びゆく滋賀の姿と若人の力強い躍進とを3部構成で表現する。第1部(ダンス)では、水と緑を愛する若人の豊かな心と、光輝く湖面の情報を創作ダンスにより表現する。第2部(体操)では、調和ある躍動美と力強さを、男女の徒手体操により表現する。第3部(組体操)ではびわ湖の情景を表現することにより、国体の限らない発展をた

たえる。

### (2) ダンス系

① 幼児によるリズム遊び・体操「みどりの中で遊ぼう」では、気に育て(緑と水と太陽、自然のめぐみを一杯受けて楽しく遊べ)、たのしく遊べ(走り、とび、転がり、自然は素晴らし運動広場)ころはずませて(あしが、手が、心が、喜びでおどる素晴らしさ)を表現する。第1部(元気にうたって2人組体操)では、4つのゲートから走りながら入場し、2人1組による動きや、色彩の変化の線の美しさを表現する。第2部(パブリックで遊ぶたのしく動く)では、線から円へと隊形を変化させながら、ぱぶりんぐの特性をいかして楽し遊ぶ姿を表現する。第3部(みんなで協力、動きのディスプレイ国体賛歌)では、小集団から大集団へと隊形を変化させながら、内輪と外輪の対称的な動きで集団美を表現する。

② 中学生男女によるダンス「湖に跳ねる」(式典前第1演技)では、光ふりそそぐ琵琶湖に群遊する若鮎の姿を躍動する若者達に託し、のびゆく力と希望にみちた演技を緑の大地力一杯に繰り広げる。第1部では、虹と波の動きで、明けゆくびわ湖を表現する。男子の虹隊形を背景に、女子のリズミカルな波の動きをつくる。

第2部では、色彩豊かな動きで、輝くびわ湖を表現する。8色の旗を駆使、色彩豊かな動きをつくる。第3部では、若鮎の躍動で、伸びゆく湖国を表現する。元気はつらつとした棒体操や布集団の動きで、湖国の象徴的な若鮎・ボートなど伸びゆく湖国を表す。

③ 小学生男女によるリズム運動「おうみの子供」(式典前第3部)では、水と緑にめぐまれた滋賀の子供の躍動の姿を、びわ湖の雄大さと結び付けて、3部構成で表現する。第1部「きらめくびわこ」では、光りと波のしらべを、動きの対応で表す。第2部「あそびにひたる」では、あそびにひたりきる子供たちの姿を、動きの躍動で表す。第3部「みずうみと子供」では、びわ湖のもつ雄大さと滋賀の子供のたくましさを、力強い、しかも軽快な動きで組み合わせで表す。



## (3) その他

## ①音楽系

マーチングによる「VIVA YOUNG IN SHIGA」(式典後第1演技)では、躍進する滋賀の明日への発展を担う若人たちの姿を、力強く、輝きのある吹奏楽曲にのせて、節度あるきびきびしたバンドの動きに、色彩豊かなフラッグチームの華麗さと、軽快なドリルチームのリズミクなポンポン演技を加え、フィールド一杯に表現する。第1部(ファンファーレ)では、マーチングショウのオープニングらしい、はなやかさを表現する。第2部(ストライク・アップ・ザ・ショット)ではブロックフォーメーションの入場隊形から前進、展開して、フィールド一杯にマーチングを展開する。第3部(青春メドレー)では「友よ」「若者たち」のメドレーに鼓隊演技を加え、フィールド一杯にマーチングを展開する。第4部(トランペット・オレイ!)では、トランペットを中心に、パソドールのリズミクな演奏と併にドリル・チームの軽快な動きを見せる。第5部(びわこファンタジー)では、「びわ湖周航歌」の主題による“静”のあと一転してディスコ調となりダイナミックに盛り上げてゆく。第6部(マーチ「青春」)では、フィールド内で退場隊形をつくり正面に前進した後、退場ゲートに向かう。

## ②民謡

婦人による「ふるさと近江」(式典前第2演技)では、国体開催を記念してつくられた「びわこ音頭」と、そのむかしから故郷を思い起こすよすがとした「江州音頭を素として、ふるさと滋賀で国体をたたえ、はつらつとした婦人のまとまりのある美しさを表現する。第1部「びわ湖音頭」では、びわこのさざなみ、浮かぶ島島、近江連峰の雄大な眺め、湖国じまんの大橋や漁法をいかしたびわこ音頭を正面おどりで行う。第2部「江州音頭」では、古くから伝わる郷土の民謡江州音頭の軽快な独特のリズムによって、伝統芸能ともいわれる傘躍りと手踊りを披露し、そして傘を生かした集団美を表現する。

## ③郷土芸能(該当無し)

## ④スポーツ

スポーツ少年団による「伸びゆく湖国健児」(式典前第2演技)では、華やかなボールを追うサッカー少年団員、及びチビッ子剣士の躍動をグラウンド一杯に円と線で表現する。第1部(剣道)では、基本動作(切り返し)のあとを紅白両軍に分かれて野試合を行い、勝負を争う。第2部(サッカー)では、1人1個のボールをもち、準備運動をおこなったのち、隊形を変え、2人1組でいくつか応用練習を行い「ビワコ」の人文字によって終わる。

## 4)演技特性

①各演技共使用手具がいかされていることが特徴である。(幼児のパウリング、中学生の旗、婦人民謡の踊り傘、小学生のボール付ネット、高校生のスーパーモールなどである)。

②先催県の多数の演技が連続して展開される演技構成とは異なり、集団演技前には郷土紹介を設け、集団演技は別に扱っている。演技構成は、33回に類似した構成である。

③演技内容として、体操、ダンス、その他(スポーツ、民謡、マチング)などの少数ながら多彩な演技構成である。

5)演技配列は、開会式式典前では、幼児によるリズム遊び(体操)では、自然の恵みを受け運動広場に花びらのように駆け回る姿を表現する、スポーツ少年団ではチビッコ剣士の躍動する姿を軽やかにボールを追うサッカー少年の姿やびわこの人文字も鮮やかにグラウンド一杯に円と線で表現し、中学生男女による体操ダンスではみずうみに群遊する若鮎の姿を若者に託して、伸びゆく力と希望に満ちた姿を表現し、最後に婦人による2つの民謡によりまとまりのある美しさで湖国婦人の心意気を表現する展開である。式典後演技では、高校生マーチングバンドによるマーチングの演技ではマーチングとドリルチームの華麗で軽快な演技を披露し、小学生による水と緑に恵まれた滋賀の子供の姿を雄大な琵琶湖と関係させて3部で展開し、高校生による体操・ダンスでは明日へと伸びゆく滋賀の姿と若人の力強い躍進とを表現する構成の展開である。

閉会式では、マーチング(式典後第1番目演

技)、小学生のリズム運動(式典後第2番目演技)、中学生による体操・ダンス(式典前第3番目演技)、婦人による民謡(式典後第4番目演技)の繰り返し展開である。

6) 個別演技の演技時間は、10分から15分まで演技に応じた広い設定である。個別演技でも10分(4件)、15分(3件)が多く設定されている。式典別の演技時間の分布は、式典前(10～15分)、式典後(10～14分)、閉会式(10～15分)である。式典別総演技時間は、式典前(52分)、式典後(37分)、閉会式(48分)、総計(137分)である。

7) 演技別演技の演技規模は、415名から2159名である。演技規模の分布は、415名から2159名まで演技により幅広く設定されており、特定の規模の集中はみられない。演技内容と規模の関係では、マーチングとスポーツ関係以外は大規模である。式典別の演技規模の分布は、式典前(415～2140分)、式典後(420～1944分)、閉会式(420～2159分)である。式典別総演技規模は、式典前(6,355名)、式典後(4,523名)、閉会式(6,519名)、総計(17,397名)である。

8) 演技部門は、教育関係機関(8件)＜幼児(1)、小学生男女(2)、中学生男女(2)、高校生男女(1)、マーチング(2)＞である。また、一般(3件)＜婦人(2)、スポーツ少年団(1)＞である。

## 5. 第37回国体(島根県)<sup>13)</sup>

＜演技内容の傾向＞

1) 演技数は、9件である。開会式式典前(2)、式典後(4件)、閉会式(3件)＜1件除き開会式式典前後演技の繰り返し＞である。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系(2件)、ダンス系(2件)、その他(5件)＜音楽(3)：マーチング・合奏・演奏＞、民謡(2)＞。

3) 演技内容の傾向を、系列別にみると次に示すようである。

### (1) 体操系

中学生による体操・ダンス「しまねの秋」(式典後第2演技)では、郷土の風物詩となっている津和野のSL、出雲平野の稲穂・築地松の風景をダンス、体操で躍動的に表現する。

### (2) ダンス系

① 幼児によるリズム遊び「しまねの夏」(式典後第1演技)では、無限の可能性を秘めたチビっ子達にとっては、おそろしいオロチや水も友達である。彼らが仲良く遊ぶ姿を、なわ遊び、花火で愛らしく表現する。

② 小学生によるリズム運動「しまねの冬」(式典後第3演技)では、厳しい北風の訪れと共に舞う雪、冬の波間に漂う白鳥と、その旅立ちの情景をダンス、体操で躍動的に表現する。

③ 小学生、中学生、婦人によるダンス・表現「しまねの春」(式典後第4演技)では、暖かい春の訪れをつげる菜の花前線・桜前線を隊形移動を色彩で表現する。そして県民のふれあいを吹奏楽隊・合唱隊と一体となったフォークダンスで表現する。さらに県土の発展を県章の造形に託して躍動的に表現する。

### 3) その他

#### ① 音楽系

(ア) 高校生によるマーチングバンド「ふれあいバラード」(式典前第2演技)＜閉会式兼＞では未来に向かって羽ばたく若者の躍動する姿を、シルク・ボンボン・バンドで明るくたくましく表現する3部構成の演技である。第1部「ファンファーレ」・「マーチング賛歌」では、スターティングフォーメーションで華やかなオープニング、第2部「Russian Dressing」「Marchi A GoGo」「When The Saints Go Marching In」の3局メドレーでフィールド一杯に繰り広げる。第3部「ふれあいのバラード」では、313名の大きなうねりから、無伴奏合唱曲の内に人文字 SHIMANE を描き、ダイナミックなフィナーレを迎える。

(イ) 県内安来節保存会による「きいておかえ安来節」(閉会式第1演技)では、郷土の代表的な民謡安来節を、独唱・合唱・合奏によって郷土色豊かに紹介する。

## ②民謡

婦人による民謡「風土の世界」（式典前第1演技）＜閉会式兼＞では島根の風土の中で生まれた伝統芸能や民謡から、スポーティーな演技を創作し、くにびき神話など風土記の世界を躍動的に表現する4部構成である。第1章「神々の集い」では、神話の国に集う八百万の神々を鈴と白に布を使って清楚に表現する。第2章「平和の祈り」では、平和を願う人々の姿を、豊かな情感と独創的な動きで表現する。第3章「ふるさとを讃える」では、郷土の文化の中から、地方に伝わる踊りをアレンジし、素朴でおおらかに表現する。第4章「綱と山」では、国引きのイメージを、綱と山との隊形移動によって躍動的に表現する。

③伝統芸能（該当無し）

④スポーツ（該当無し）

## 4) 演技特性

- ①開会式演技が、多数の郷土紹介、式典前演技、式典後演技、閉会式演技の構成ある。
- ②演技テーマ式典前演技「くにびき」（2件）、式典後演技「ふれあい」（四季題材にした4件）など演技構想もしっかりしている。
- ③単一内容の演技展開が多く、他県のような複数演技がはみきれない。
- ④各演技の演技構想及び演技題が、島根の郷土特性を生かし、歴史性（古代神話）、郷土の風物詩、自然などが題材にされている。
- ⑤演技の手具として、婦人のプラスベル、幼児のドッキング用縄、小学生の布＜白の表現＞などが特徴てきである。

## 5) 演技配列

開会式式典前では、婦人による民謡と高校生のマーチングバンドの演技である。婦人による郷土性とスポーティさを生かした活発な演技と、マーチングバンド、フラッグ、ポンポン隊による活発な若さと明るさの演技である。式典後演技では、幼児のリズム遊び、中学生のダンス、小学生の体操・ダンス、最後は小・中・婦人によるダンス（フィナーレ）である。テーマ「ふれあい」で演技題が四季を題材にし、夏では幼児の活発さと愛らしさで、秋を中学生の郷

土の風物詩 SL、稲穂、築地松の風景の表現を、冬を小学生による激しい雪や白鳥とその旅立の情景などを躍動的な表現し、春は小学生・中学生・婦人による春のおとづれと桜前線の色鮮やかな移動模様と県民のふれ合いをフォークダンスで、最後は憲章の造形による国体賛歌である。閉会式では、民謡の独唱・合奏・合唱につづき、婦人の民謡（式典前第1演技）、最後はマーチング（式典前第2演技）である。

6) 個別演技の演技時間は、7分か15分まで演技に応じた広い設定である。

個別演技でも15分（5件）が多く設定されている。式典別の演技時間の分布は、式典前（15分）、式典後（7～13分）、閉会式（15分）である。式典別総演技時間は、式典前（30分）、式典後（40分）、閉会式（45分）、総計（115分）である。

7) 個別演技の演技規模は、200名から4649名までの分布である。演技規模の分布は、200名から4649名まで演技により幅広く設定されており、特定の規模の集中はみられない。式典別の演技規模の分布は、式典前（313～2000分）、式典後（1590～4649分）、閉会式（200～4649分）である。式典別総演技規模は、式典前（2,313名）、式典後（10,088名）、閉会式（2,513名）、総計（14,914名）である。

8) 演技部門は、教育関係機関（6件）＜幼児（1）、小学生男女（1）、中学生男女（1）、高校生（1）、高校生男女（1）、高校生（マーチング）（1）＞である。また、一般（3）＜婦人（2）（民謡（2））、安来節保存会（1）＞である。

8. 第38回国体（群馬県）<sup>14)</sup>

＜演技内容の傾向＞

1) 演技数は、18件である。

開会式式典前第1部（4件）、第2部（3件）、式典後（5件）、閉会式（6件）＜開会式式典前後演技の繰り返し＞である。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系（2件）、ダンス系（11件）、その他（5件）＜音

楽<マーチング> (2), 民謡 (1), スポーツ (サッカー (1)) >である。

3) 演技内容の傾向を, 系列別にみると次に示すようである。

#### (1) 体操系

①中学生による体操・ダンス「羽ばたけ若人」(式典前第2部第3演技)では, 秘めた若人の姿を, 中学生男女の組体操の集団美によってさわやかに表現する。第1節「大地を築く」, 第2節「大空を翔ける」, 第3節「未来に羽ばたく」。  
<演技素材: 騎馬, 組体操, 鶴, 布体操, 人文字”ぐんま>。”

②一般親子による「親子で楽しく」(式典第1部第4演技)では, ファミリースポーツを楽しむ明るく健康な群馬の家庭を紹介する。<演技素材: 親子組体操>

#### (2) ダンス系

①幼児によるリズム遊び「風とあそぼう」では, 四季折々に吹くふるさとの風を背景に, 元気良く遊ぶ幼児の姿を表現する。<演技素材>こいのぼり, 子馬, 花, 祭り, 夕立ち, 稲穂, 運動会, 風, 雪>。第1部「ふるさとはいま」では, 第1節風は舞い, 木枯し吹きすぎぶとの冬はきびしい。子供らは風の中を走る。<演技素材: からっ風, 小天狗>

②高校生男子によるダンス「ふるさとはいま(第1節)」(式典後第1演技)では, 第2節やがて春, やわらかな日差しをうけて水芭蕉は水辺に映える。雪消の水はゆたかな根の流れになり, ふるさとをうるおす。<演技素材: 雪, 水芭蕉, 利根川, れんげつつじ>。

③小学生男女によるダンス「ふるさとはいま(第2節)」(式典後第2演技)では, 第3節「ふるさとはいま夏」, まつりばやしは四方にこだまし, まつりを求め人々はつどう<演技素材: 木崎音頭, 八木節, 現代調八木節>。

④婦人によるダンス「ふるさとはいま(第3節)」(式典後第3演技)では, (第3部)「あすへ向かってたくましく」, あすへ向かって伸びぐんまをたからかに歌う。さあ! 「風に向かって走ろう」<演技素材: 国体シンボルマーク>。

⑤高校生男女による「ゆたかに大きく」(式典

後第4演技)では, 秋が訪れ, 人々は仕事におしむ, 紡いだ糸は銀色に光, 織りなす絹は錦に輝き, ふるさとは豊かにのびてゆく。

⑥小学生, 高校生, 婦人による「あすへ向かって」(式典後第5演技)では, たくましく。あすへ向かって伸びゆく群馬をたからかに歌う。さあ「風に向かって走ろう」。

#### 3) その他

##### ①音楽系

小学生による「MARCHING AGAINST THE WIND」(式典前第2部第2演技)では, 風にちなんだ曲, 群馬にふさわしい曲等のマーチングメドレーに合わせ, 金管バンドによって, きびきびとして明るいたくましいマーチングを繰り広げる。<演技素材: ドリル演奏, ポンポン演技, カラーガード演技>

##### ②民謡

婦人による「さわやかぐんま」(式典前第1部第2演技)では, あかぎ国体を記念して作られた, 「上州さわやか音頭」の踊りを中心に, 健康ではつらつとした婦人の美しさを表現する  
<演技素材: 「上州よいとこ」「上州さわやか音頭」>

##### ③郷土芸能

郷土芸能保存会による「上州まつり」(式典前第1部第1演技)では, 「雷とからっ風」に象徴される群馬の風土に育てられた上州っ子は, その気っぷのよさを四季折々の祭りに燃焼させる。祭り囃し, みこし, そして獅子舞により, ふる里の香り豊かな祭りをいきいきと構成する<演技素材>祭り

④サッカーチームによるスポーツ「めざせゴール」(式典第2部第1演技)では, 少年達の間で広く親しまれているサッカーの楽しさを, ボールコントロール等の技術で表現する<演技素材: ボールフィフティング, パス, シュート>。

#### 4) 演技特性

①式典前演技として第1部2部が, 式典後, 閉会式演技が設定されている。

②他県に無く演技数が多い。

③演技内容として, 式典前演技では第1部(郷

土芸能、民謡、リズム遊び、親子体操)、式典第2部(スポーツ、マーチング、組体操)が生まれ、式典後では、テーマ「風によって走ろうーのびゆく群馬ー」として3部構成、5演技が組まれている。最後には、3部門5000名の演技が組まれている。閉会式演技は、マーチングと式典後演技の繰り返しである。

④演技構想では、四季と郷土の自然環境、上州子らの躍動する姿、躍進する群馬の姿の表現を意図している。

⑤使用手具として、親子体操の輪、中学生男子の混棒、幼児の鯉のぼりのポール布、高校生ダンスの縄とうちわ、ダンスの白玉、れんげつつじ用手袋である。

#### 5) 演技配列

開会式式典前集用演技を見ると、式典前第1部では郷土芸能による、婦人による民謡・ダンス、幼児によるダンス(リズム遊び)、親子体操4演技の展開である。前半は郷土芸能800人により獅子舞と山車、みこしの組み合わせで群馬の風土で育った上州の祭りを紹介、次いで浴衣姿の婦人による国体音頭ではつらつとした華麗な踊りを披露し、後半は赤い衣装の幼児が鯉のぼりの音楽に合わせて鯉のぼりの造形と子供たちのつらつとした演技である。最後は、親子285組の4色の体操着でフィールド一杯に広がり明るくのびのびとほほえましい親子体操を展開する。式典後第2部では、小学生のサッカークラブ員による軽快なサンバのリズムにのりパス、ドリブル、ヘディング、ボールリフティングなどを連続して活発にプレイする。式典前最後は中学生による体操、ダンスで、男子の騎馬による入場、ピラミッドやブリッジなどの高度な組体操、女子が白い布をまといツルを形成、羽ばたくツルを表現する。最後は、男子の手具体操、男女共同による人文字「ぐんま」の形成し限りない可能性の若人の演技を展開する。式典後演技では、「風によって走ろうー伸びゆくぐんまー」をテーマにした集団演技は、3部構成5演技の構成である。群馬の四季折々の変化を「冬」(高校生)、「春」(小学生)、「夏」(婦人)の順に郷土特性、名勝、民謡などを素材に表現

し、第2部では、「秋」を養蚕、織物の題材に表現し、第3部では小学生、高校生、婦人により国体シンボルマークを形成して国体を賛歌する。閉会式は、マーチングの導入後、式典後演技の繰り返しである。

6) 個別演技の演技時間は、4分から15分まで演技に応じた広い設定である。

個別演技でも10分(7件)が多く設定されている。式典別の演技時間の分布は、式典前第1演技(10～13分)、式典前第2演技(10～15分)、式典後(4～10分)、閉会式(4～14分)である。式典別総演技時間は、式典前(84分)、式典後(38分)、閉会式(52分)、総計(174分)である。

7) 演技別演技の演技規模は、220名から5131名である。演技規模は、個別演技の内容により広範囲に渡り、特定規模の集中は見られない。式典別の演技規模の分布は、式典前第1部(560～1800分)、式典前第2部(328～1987名)、式典後(220～5131分)、閉会式(220～5131分)である。式典別総演技規模は、式典前(7,715名)、式典後(9,455名)、閉会式(9784名)、総計(26,954名)である。

8) 演技部門は、教育関係機関(12件)＜幼児(1)、小学生男女(3)、中学生男女(1)、高校生男・小学生(2)、高校生男女(2)、小・高・婦人(2)、マーチング(2)＞である。また、一般(5件)＜婦人(3)、郷土芸能保存会(1)、サッカークラブ(1)、親子(1)＞である。

## 9. 第39回国体(奈良県) 15)

＜演技内容の傾向＞

1) ①演技数は、15件である。開会式式典前(5件)、式典後(5件)、閉会式(5件)＜開会式式典後全演技の繰り返し＞である。式典前演技前に2件の郷土芸能が位置づけられている。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系(0件)、ダンス系(8件)、その他(9件)＜音楽(2)：マーチング＞、民謡(2)、スポーツ(3)＜(バレーボール)、少林寺拳法、けまりとサツ

カー>、>である。

3) 演技内容の傾向を、系列別にみると次に示すようである。

(1) 体操系 (該当無し)

(2) ダンス系

① 幼児によるリズム遊び「飛び立てこまどり」

(式典前第3演技)では、「大きなボールと輪を使い、かける、ころがす、とぶなどの動作を基本に未来にはばたく幼児のすばらしい可能性を表現する。

② 小学生男女によるリズム運動「かけよバンビ」

(式典後第3演技)では第Ⅰ部「春をよぶ」、第Ⅱ部「躍動するバンビ達」の2部構成で、鹿よせ、つもの切り等の行事をおりまぜて表現する。

③ 中学生によるダンス・表現「若草にもえて」

(式典前第3演技)では、Ⅰ部「人々の力」、Ⅱ部「天平の華」、Ⅲ部「萌えよ若草」の3部構成で、天平の華ひらく古都奈良の優雅で壮大な情景や創造した人々の力を表現する。

④ 高校生男女によるダンス表現「大和うるわし」

(式典後第4演技)では、第Ⅰ部「春をよぶ」、第Ⅱ部「龍翔鳳舞」、高第Ⅲ部「大和うるわし」の3部構成で(大和の美しい自然と風土、人類の平和の祈りなど雅やかに地から強く表現する。

3) その他

① 音楽系

マーチングバンドによる「クラシカルメッセージ」(式典後第1演技)では、四季それぞれの名曲をマーチングのリズムに編曲し、バンド、カラーガーズ、ポンポンそれぞれの特色を生かしたフォーメーションで演出する。

② 民謡

婦人による民謡「古都の響き」(式典後第2演技)では第Ⅰ部「県民音頭」、第Ⅱ部「平城山に婦人によせて」の2部構成で郷土の香り豊かな踊りを披露する。

③ 郷土芸能 (該当無し)

④ スポーツ

(ア) 保存会・スポーツ少「けまりとサッカー」

(式典前第1演技)では、日本古来の球技とも言われている古式けまりゆかしい”けまり”と近代スポーツの花形であるサッカーの基本技能

を、今昔を対比しながらサッカーに励む少年の日常活動の一端を併せて紹介する。

(イ) 少林寺拳法連盟による「大地をけて」

(式典前第2演技)では、少林寺拳法の基本技能を紹介すると少林寺拳法連盟もに、武道のもつ厳格さや節度ある動きを表現する。

(ウ) 家庭夫人バレーボールクラブ協議会によるスポーツ「青空に向かってVサイン」では、バレーボールの基本技をパンチのきいたボサノバのリズムに合せて、隊形、動き、色彩の変化をつけ、最後に人文字のVサインを描く。

4) 演技特性

① 式典演技の構成は、郷土紹介、式典前、式典後、閉会式演技である。閉会式は式典後演技の繰り返しパターンである。

② 演技内容は、ダンス系、その他が多く、演技題も演技構想も、郷土の歴史性、自然、伝統行事等を題材にして展開になっている。

③ 一部のスポーツを除き多集団の演技になっている。

④ 手具としては、婦人の布つきハンドベル、高校生の男子ミニトランポリン、鉄棒、女子の布と輪の利用や幼児の手袋使用などが特徴である。

5) 演技配列

開会式式典前では、保存会とスポーツ少年団によるけまりとサッカー、少林寺拳法、幼児によるリズム遊び、家庭婦人によるバレーボールクラブ、中学生によるダンスの配列である。初めは、伝統芸能と近代スポーツの同時展開、幼児の素晴らしさ、婦人のバレーボールによる活発な演技、最後には中学生による奈良の情景や創造した人々の力を表現する。

式典後演技では、高校生によるマーチング、婦人による民謡、幼児によるリズム遊び、高校生によるダンス、小・高校・婦人によるフィナーレである。

マーチングによる音楽性と活発さとフォーメーションの表現に続き、婦人の県民音頭などの郷土色の強い踊りを披露し、幼児が奈良の四季をバンビに託して表現し、高校生が自然や風土の壮麗さを平和への祈りをこめて優雅に演じ、最後に明日の奈良の姿を萌えざる若草の力強さ

で表現し、国体マークの人文字で国体を讃歌する。閉会式では、式典後全演技の繰り返しパターンである。

6) 個別演技の演技時間は、3分から12分まで演技に応じた広い設定である。個別演技でも10分の設定が多い。式典別の演技時間の分布は、式典前（6～15分）、式典後（3～12分）、閉会式（3～12分）である。式典別総演技時間は、式典前（76分）、式典後（40分）、閉会式（40分）、総計（156分）である。

7) 個別演技の演技規模は、50名から4654名までの設定である。演技規模の分布は、演技により幅広く設定されており、特定の規模の集中はみられない。式典別の演技規模の分布は、式典前（50～1734分）、式典後（273～4654分）、閉会式（273～4654分）である。式典別総演技規模は、式典前（5,276名）、式典後（9,581名）、閉会式（9,581名）、総計（24,438名）である。

8) 演技部門は、教育関係機関（10件）＜幼児・指導者（1）、小学生男女（2）、中学生（1）、高校生（1）、高校生（マーチング）（2）、高校生（2）＞である。また、一般（5件）＜婦人（2）、けまり保存会とスポーツ少年団（1）、家庭婦人バレーボールクラブ（1）、スポーツ（少林寺拳法）（1）＞である。

## 10. 第40回国体（鳥取県）<sup>16)</sup>

＜演技内容の傾向＞

1) 演技数は、10件である。開会式式典前（5件）、式典後（3件）、閉会式（3件）＜開会式式典前後演技の繰り返し＞である。式典前演技の前に、郷土芸能として、米子がいな太鼓、貝殻節、因幡傘踊りが組まれている。

2) 演技内容を各系列別に見ると、体操系（0件）、ダンス系（8件）、その他（6件）＜音楽（2）：マーチング＞、民謡（1）＞である。

3) 演技内容の傾向を、系列別にみると次に示すようである。

- (1) 体操系（該当無し）
- (2) ダンス系

① 幼児指導者によるリズム遊び「空に落書きかきたいな」（式典後第3演技）では自然の恵みをいっぱいを受けて、大空へ羽ばたこうとするひな鳥たちの姿を軽快なリズムによって表現する。

② 小学生によるリズム運動「とびだせなかま」（式典後第1演技）では、清澄な自然の中でのふれあいを通じてたくましく成長してゆくわかつりの躍進する姿をドラマティックに表現する。

③ 中学生男女によるダンス表現「きみの魂はもえているか」（式典後第3演技）では明日をきりひらく少年たちが、日本海の荒波にもまれながら、希望に燃えて輝く未来へ巣立っていく姿を表現する

④ 婦人による「明日へのひびき」（式典前第4演技）では、わかとり国体によせる婦人の祈りを、あでやかな傘を生かした集団美で表現する。

⑤ 高校生男女によるダンス・表現「飛翔」（式典後第3演技）では、伸びゆく郷土の息吹く若い力、明日へ向かってはばたく若人の力強い躍進、現代感覚のリズムやダイナミックに表現する。

(3) その他

① 音楽系

中学生・高校生によるマーチング「THE MARCHING SPRITS」（式典後第1演技）では、若人の夢と希望を、はつらつとしたバンドと華麗なカラーガード。軽快なポンポンにより、フィールドいっぱい表現する。

② 民謡

歌手と婦人による合唱と民謡「このきずなに心をこめて」（式典前第2演技）国体の「SPRITS」を大空へ謡あげると共に、「わかとり音頭」を全県下婦人がはつらつとした姿で踊る。

③ 伝統芸能（該当無し）

④ スポーツ（該当無し）

4) 演技特性

① 演技構成は、郷土芸能、式典前演技、式典後、閉会式の構成である。閉会式は、式典後演技の繰り返しパターンである。

② 演技内容は、ダンス系が多く、他県のように式典後の多集団によるフィナーレは見られない。

③演技部門では、教育関連機関による多集団の演技が多く見られる。

④使用手具として、幼児の43個の色とりどりのパラバルーン活用や婦人のしゃんしゃん傘、中学生による竹棒などの利用、高校生の布など演技や対象に応じて工夫が見られる。

#### 5) 演技配列

開会式式典前集団演技では、「萌えよ大地に」小学生男女によるダンス(リズム運動)、婦人による民謡と歌手による合唱、中学生によるダンス・表現、婦人によるダンス表現である。初めに、鳥取市内小学生2200人による「わかとり」の人文字表現、5色の布で大きな虹をかけはつらつとたくましく成長する子供達の夢を会場一杯に膨らませた。つづいて上條恒彦、佐藤松千恵による国体歌の歌唱指導と観客との大合唱について1200人の婦人が「わかとり音頭」に併せてはつらつとした演技を披露した。変わって中学生2100人によるダンスで、コミカルな動き、対称的な動きを交えながら未来に向かって巣立ってゆく姿を力強く表現した。最後は、婦人によるダンス表現で、シャンシャンと鈴の音も軽やかに鳥取婦人の心意気を、あでやかに集団美で表現した。

式典後集団演技では、中学生・高校生によるマーチングバンド、幼児指導者によるリズム遊び、高校生によるダンス表現である。導入は中学・高校によるマーチングバンド隊が軽快なリズムにのってフィールド一杯に見事にフォーメーションを展開する。続いて、鳥取市内幼稚園児保育園のリズム遊びにより、4色のパラバルーン43個を使ってフィールド狭し一杯駆け回る雛鳥のからふるな愛らしい姿を表現した。最後は高校生1800人により、伸びゆく郷土の息吹く若い力、明日へ向かってはばたく若人の力づよい躍進をリズムミカルにかつダイナミックに表現し、シンボルマークの描かれた大布が広げられ、更なるその周りを風船を持った幼児と高校生が囲み色とりどり風船を囲んだのち、一斉に空にう放ち国体を賛歌した。閉会式では、マーチング、小学生によるリズム運動、婦人によるダンス表現の繰り返しパターンであ

る。

6) 個別演技の演技時間は、8分から15分まで演技に応じた広い設定である。

個別演技でも13分(6件)の特定時間に集中が見られる。式典別の演技時間の分布は、式典前(8~15分)、式典後(12~13分)、閉会式(8~13分)である。式典別総演技時間は、式典前(49分)、式典後(38分)、閉会式(34分)、総計(121分)である。

7) 個別演技の演技規模は、258名から2100名までの設定である。演技規模の分布は、演技により幅広く設定されており、特定の規模の集中はみられない。

式典別の演技規模の分布は、式典前(1200~2100分)>、式典後(258~1900分)、閉会式(258~2100分)である。式典別総演技規模は、式典前(6522名)、式典後(3,958名)、閉会式(3,558名)、総計(14,038名)である。

8) 演技部門は、教育関係機関(7件)<幼児・指導者(1)、小学生男女(2)、中学生男女(2)、高校生男女(1)、中・高校(マーチング)(2)>である。また、一般(5件)<婦人(2)>である。

### 3-3) IV期における集団演技の演技内容を経年的変化について

表14は、演技内容別の具体的な頻度を見たものである。表よりその傾向は次のようであった。

演技内容別に頻度を見ると体操系、ダンス系、その他の件数は、その他(62件)、ダンス系(56件)、体操系(15件)の頻度順であった。

各演技内容の系列別に見ると、体操系で頻度が多い内容としては、テーマ付き体操、体操とダンスの合併演技であった。Ⅲ期の演技の傾向と比べると演技頻度は少なく、体操系内容として頻度が高いものは、テーマ付き体操では、内容的には、徒手体操、組体操の組み合わせがめだっている。組体操の内、親子組体操<「親子で楽しく」(第38回)>などは、秩序性のある従来の組体操よりは場を和ます演技としての位





開 催 回	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	計
その他	9	8	9	8 (4)	5	5	5	5	5	3	62
●民謡	2										
・「ようこそ佐賀へ」											
・「流し踊り」(八戸小唄)		1									
・「弥三郎踊り」		1									
・「黒石よされ」		1									
・「信濃の夕映えに踊る」			2								
・「ふるさとのうた」				2							
・「日向民謡」				2							
				(1)							
・「八木節」					1						
・「ふるさと近江」						2					
・「風土記の世界」							2				
・「さわやか群馬」								1			
・「このきずなに心をこめて」										1	
●郷土・伝統芸能											
・「太鼓浮立」	1										
・「獅子舞い」	1										
・「津軽三味線」		1									
・「天衝舞い」	1										
・「信濃の路にこだます万雷の響き」			2								
・「白太鼓おどり」			2								
				1							
				(1)							
				1							
				(1)							
・「上州まつり」								1			
●音楽											
・「リズムオンパレード」	1										
・「みんなで歌おう」(合唱)											
・「ひびけ世界にやまびこの音」			1								
・「NOVA NAGANO OEL!」(マーチングバンド) 2	2		1								
・「青春賛歌」(マーチングバンド)											
				2							
				(1)							
・「息吹と躍動」(マーチングバンドと新体操)					2						
・「VIVA YOUNG IN SGIGA」(マーチングバンド)						2					
・「ふれあいバラード」(マーチングバンド)								2			
・「きいておかえれ安来節」(合唱)								1			
・「MARCHIN GAGAINST WIND」(マーチングバンド)									2		
・「クラシカルメッセージ」(マーチングバンド)										2	
・「THE MARCHING SPRITS」(マーチングバンド)											2
●スポーツ関係											
・「伸びよ若楠」(サッカー・剣道)	1										
・「あすはひのき」(ラグビー)		1									
・「のびよあすなろ」(剣道)		1									
・「はずむあおもり」(バレーボール)		2									
・「ひびけかけごえ日本の屋根に」(剣道, 軟式庭球)			1								
・「みんなで楽しく」(バレーボール, フォークダンス)					1						
・「ボールへの集い」(サッカー)											
・「花の舞」(なぎなたと扇の舞)					1						
・「伸びゆく珊瑚健児」(サッカー, 剣道)						1					
・「めざせゴール」(サッカー)								1			
・「けまりとサッカー」										1	
・「大地をけて」(少林寺拳法)										1	
・「青空に向かってVサイン」(バレーボール)										1	

(数値：件数)

置づけである。

特徴的な事例としては、杖術体操、獅子舞体

操<「下野獅子舞」第35回>など郷土芸能の  
用具の活用や芸能の動きをアレンジした体操で

ある。また、Ⅳ期では、単なる体操の演技だけでなく、観客との一体となって体操する場がプログラム内に生まれ、以前には無い試みとして評価できる<（例）「みんなで体操」（第32回）、「さあ、リズムにのって（軽体操）」（第33回）>。演技の使用手具として目だったものは、梯子・棒・輪<「躍進」（第35回）>、徒手・棒・布<「湖に跳ねる」（第36回）>、組体操・布<「羽ばたけ若人」（第38回）>などがあり、徒手・組体操などの手具無し演技に加え、男女とも手具を活用する演技が増える傾向と思われる。

ダンス系では、ダンス・表現が多く、以下リズム運動、リズム遊びの順である。中学生以上の学年またその他の対象で演技テーマの表現をねらった演技ダンス表現は、ダンス系内で最も多彩にしかも主演技として展開される（全体中69.642%）。小学生中心対象のリズム運動は31・32・37・38回を除き取り上げられている（ダンス中16.075%）。幼児によるリズム遊びは33回以降定例的に取り上げられている（ダンス中14.285%）である。フォークダンスは、ママさんバレーボールとの組合せで行われる以外は取りあげられておらず、Ⅲ期の傾向と同様である<sup>38)</sup>。

その他では、体操系、ダンス系以上に演技の割合を示すようになる<46.616%>。Ⅳ期では、式典演技内或は式典前に郷土芸能や郷土紹介の演技部門が生まれ民謡や郷土芸能が多く紹介されたり、スポーツ活動の紹介が多彩になるなどこれまで以上にその他の系列の割合が増える。民謡は各開催県とも地域性を生かしたものが取り扱われており、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期同様演技内容<sup>35)</sup>、<sup>36)</sup>、<sup>37)</sup>の重要な一端を担っている<その他全体に対して27.419%>。また、郷土芸能も地域特性のある内容を数例そのままの内容演技する場面を作っている<その他全体に対して17.741%>。津軽三味線などは著名人の単独演奏であり、演技題からも太鼓が活かされた内容が多くなっている。音楽系では、マーチングバンドがⅣ期通じて取り上げられており、主演技としての位置づけが強くなってきている。一部、

新体操との組合せ演技が見られる<第35回「息吹と躍動」>。その他には、合唱<第31回「みんなで歌おう」>、第38回「きいておかれ安来節」>や楽器（バイオリン演奏）<「ひびけ世界にやまびこの音」（第33回）>など新しい試みがなされている。Ⅲ期の後半から積極的な導入がみられるスポーツでは、34回・37回・40回を除き単独或は数種類のスポーツ活動が取り上げられるようになる。具体的な種目としては、バレーボール・サッカー・剣道（3件）の頻度は高く、ラグビー、少林寺拳法、軟式庭球、なぎなたなどがⅣ期以前には珍しい活動紹介である。

また、これらの演技内容のⅣ期における演技割合の変化を調査した。図2はⅡ期における開催県別の演技数の変化を、また図3は、演技総数に対する体操系、ダンス系、その他の演技内容の割合を示したものである。

図より、Ⅳ期において各開催県別の演技数は、最小9件より最大18件まで変化する。Ⅳ期における式典演技構成が多様に変化する中で、32・35・37・38回が顕著に多い演技数に対して、36回・37回・40回が演技数が減少するなど演技数がかなり大きく変動する。演技内容別に見ると、体操系（0件～4件）、ダンス系（1～11件）、その他（3～9件）の変化がみられる。また演技内容の類型別割合は、開催件毎に構成割合が異なる。Ⅳ期における演技内容の割合は、体操系（0.0～27.272%）、ダンス系（7.14～70.00%）、その他（27.777～64.289%）の間を変化する。開催県別の割合の傾向は、ダンス系配分が多い県として38回・39回が、ダンス系とその他が同一配分の県として32・35・40回が、その他が多い県として31・32・33・34・37回が上げられ、県によって特徴が見られる。

### 3-4) Ⅳ期における集団演技の演技時間について

#### (1) 演技の個別演技時間の傾向について

図4は、Ⅳ期の開会式の集団演技の個別演技

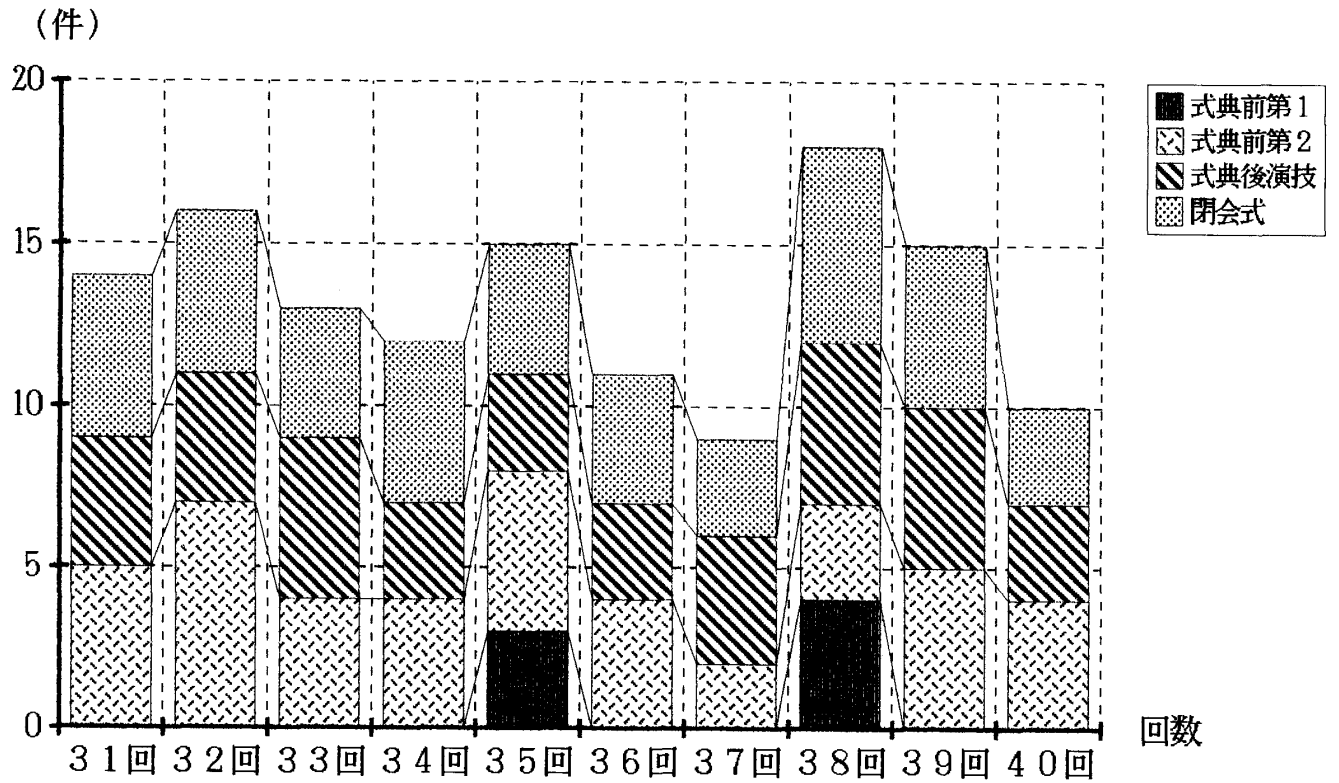


図2 IV期における国体集団演技の演技数の変化

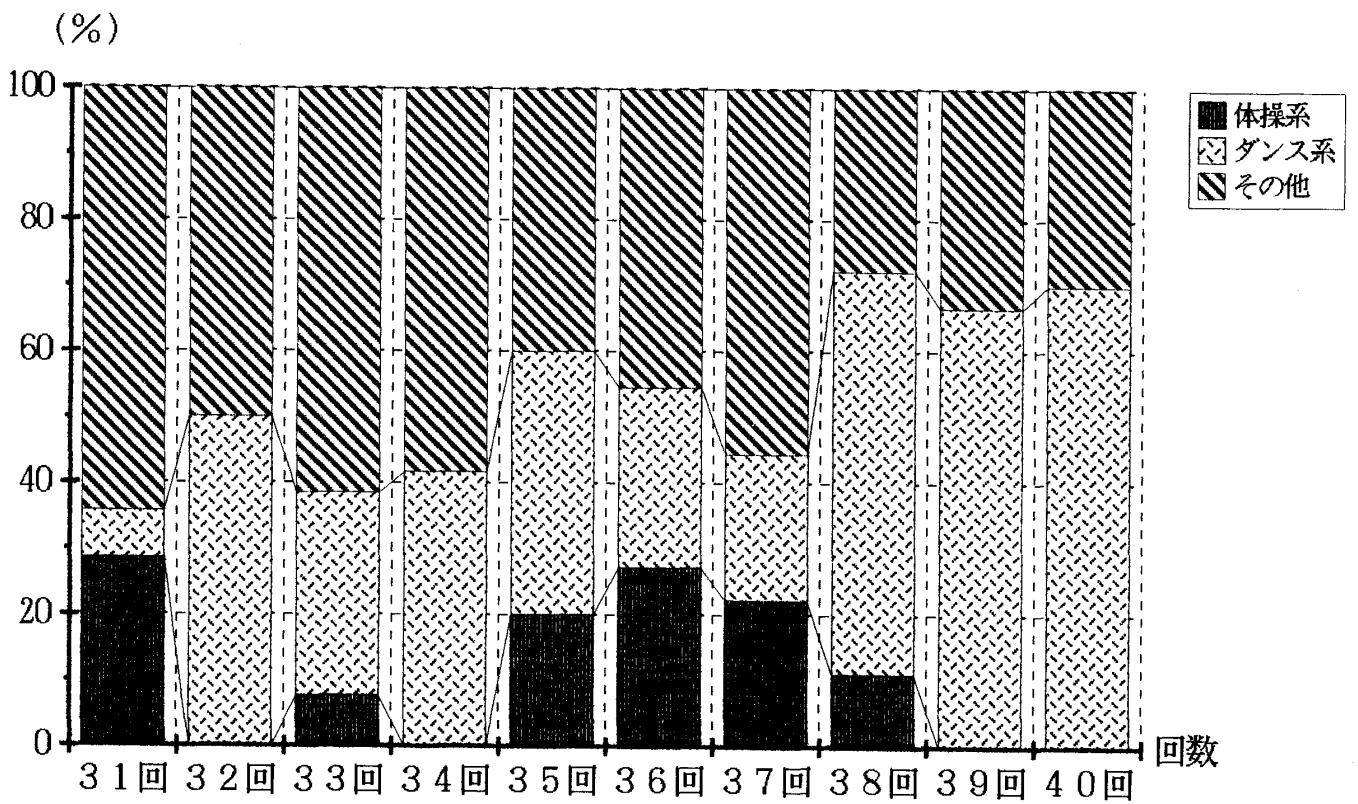


図3 IV期における国体集団演技の演技内容の配分の変化

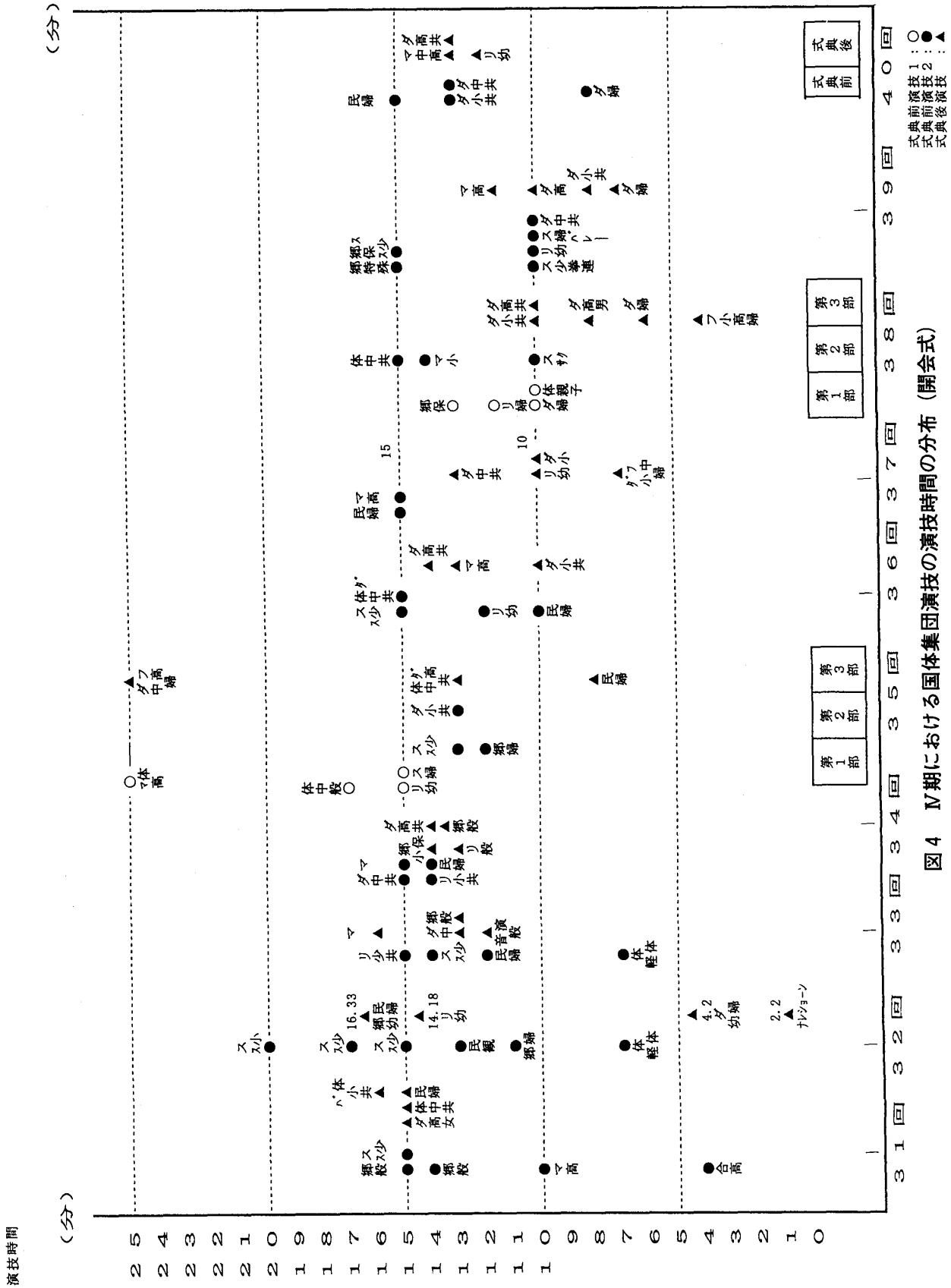


図4 IV期における国体集团演技の演技時間の分布 (開会式)

時間を開催県別に示したものである。図中、一般的には開会式の演技時間（●：式典前演技，▲：式典後演技）を，また図中の文字は上から演技内容，演技部門，性別を示している＜式典演技構成が，式典前式典後演技でなく，第1部，第2部，第3部，また郷土芸能，式典前，式典後などの3部形式をとる県では，○●▲の各部の演技を示した＞。

Ⅳ期における開会式集団演技の個別演技時間の分布の特徴は，次のようである。

1) 個別演技時間の設定は，各県で固有であった。

2) 演技時間の分布は，式典別に見ると開会式式典前（4～20分），式典後（4.2～25分＜一部ナレーション（2.2分）あり＞）である。Ⅲ期に比べると式典後の時間が小さい設定となっている。また，式典演技構成の特性から，35回，38回では第1部演技（10～25分），第2部演技（10～25分），第3部演技（4～25分）となっており，40回では第1部（8～15分），第2部（12～13分）である。

3) 時間の分布は，各県で固有であり，31回から36回まで大きく変化し，37回から40回まではほぼ安定する。開催県別に見た演技時間の分布は，式典別で多少異なるが，31回（4～16分），32回（2.2～20分），33回（7～16分），34回（13～15分），35回（8～25分），36回（10～15分），37回（7～15分），38回（4～15分），39回（4～15分），40回（8～15分）であった。概ね5分から15分の演技時間である。開催県別では32・35回では分布が大きく，34・36回では小さい分布であり，31・37・38・39・40回では5～15分までの中程度の分布である。

4) 演技時間と演技内容との関係を見ると，体操系演技では，7～17分（みんなで体操は7分），ダンス系の中でリズム遊びは（10～18分），リズム運動（8～15分），ダンス＜高校生（8～15分），中学生（10～15分），中高（13分），婦人（6～8分）＞である。

5) 演技時間を時間により5分刻みで7つのカテゴリーに分け，その頻度をみることにした。

カテゴリーは，時間の長短により，Ⅰ（0～5分），Ⅱ（5～10分），Ⅲ（10～15分），Ⅳ（15～20分），Ⅴ（20～25分），Ⅵ（25～30分），Ⅶ（30分以上）の7つである。表15より，カテゴリー別の頻度は，Ⅲ＜47件＞，Ⅳ＜24件＞，Ⅱ＜13件＞となり，Ⅰ（5件），Ⅵ（3件），Ⅴ（1件）であった。Ⅲ，Ⅳ，Ⅱが多く，10分から15分，15分から20分が全体の76.344%を占めている。この傾向は，Ⅲ期と比較すると，演技時間が15～20分と10～15分が多かったのに対して，Ⅳ期では10～15分，15～20分，5～10分が演技時間にも広がりが見られる。開催県別による時間のカテゴリーの分布は，31回（Ⅰ，Ⅲ，Ⅳ），32回（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ），33回（Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ），34回（Ⅲ，Ⅳ），35回（Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅵ），36回（Ⅲ，Ⅳ），37回（Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ），38回（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ），39回（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ），40回（Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ）である。結果から32・35・38・38回は，4つのカテゴリーに渡り演技時間の分布は広く，31・33・34・37・40回は，3カテゴリーの分布であり，他方，34・36回はⅢ・Ⅳの2カテゴリーの小さい分布である。

また，図5は，Ⅳ期における閉会式集団演技の個別演技時間の分布を示したものである。

1) 個別演技時間の設定は，演技数も開会式に比べて少数であるため，時間分布も限定される。また，その分布は各県で固有である。

2) 演技時間の分布は，6分から20分である＜特例として，演技としてナレーション（時間：1.22分）がある＞。

3) 各開催県別の演技時間の分布は，31回（10～16分），32回（14.18～16.33分＜ナレーション（1.22）除外），33回（12～16分），34回（10～15分），35回（8～20分），36回（10～15分），37回（15分），38回（6～14分），39回（7～12分），40回（8～13分）という結果であった。時間分布状況は，37回は分布が小さく＜15分のみ＞，他方，32（1.22～16.3），35回（8～20分）では広い分布である。それ以外は，31・33・34・36・38・39・40回は5分から20分までに広い分布と

表 15 IV期における開催県別集団演技の演技時間分布

<開会式>

カテゴリー 回 (分)	I	II	III	IV	V	VI	VII	計
	0～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30～	
31	1		2	6				9
32	2	1	3	3	1			10
33		1	5	2				8
34			6	2				8
35		1	4	3		2		10
36			5	2		1		8
37		1	3	2				6
38	1	2	8	1				12
39	1	3	6	2				12
40		4	5	1				10
計	5	13	47	24	1	3	0	93

<閉会式>

カテゴリー 回 (分)	I	II	III	IV	V	VI	VII	計
	0～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30～	
31			2	2				4
32	2		1	1				4
33			3	1				4
34			3	2				5
35		1	1		1			3
36		3		1				4
37				3				3
38		2	2	1				5
39		2	2					4
40		1	2					3
計	2	9	16	11	1	0	0	39

なっている。

4) 演技内容と演技時間の関係は、体操系演技では、10分から13分の分布である。ダンス系演技では、幼児のリズム遊び（14・18分）、小学生のリズム運動（4～16分）、中学生ダンス（13～15分）、高校生ダンス（8～10分）、婦人ダンス（6～8分）となっている。また、その他では民謡（7～15分）、マーチング（12～20分）、郷土芸能（12～13分）である。とりわけ、各内容で顕著な時間的な特徴はみられない。

4)演技時間のカテゴリーによる頻度の傾向は、表15よりⅢ<16件>、Ⅳ<11件>、Ⅱ<9件>、Ⅰ・Ⅶ<1件>となり、10分～15分が最も多く、次いで15分～20分、5分～10分の順であった<Ⅲ・Ⅳ・Ⅱで94.658%を占める>。

開催県別による時間のカテゴリーの分布は、31回(Ⅲ・Ⅴ)、32回(Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ)、33回(Ⅲ・Ⅳ)、34回(Ⅲ・Ⅳ)、35回(Ⅱ・Ⅲ)、36回(Ⅱ・Ⅳ)、37回(Ⅳ)、38回(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)、39回(Ⅱ・Ⅲ)、40回(Ⅱ・Ⅲ)である。結





果から、32・38回は3つのカテゴリーに渡る広い分布であり、一方、37回は単一のカテゴリーで顕著に小さい分布であるが、多くの開催県は2カテゴリーの分布である<31・33・34回（Ⅲ・Ⅳ）、35・39・40回（Ⅱ・Ⅳ）、>。

(2) 総演技時間の傾向について

個別の演技時間との関係で、開閉会式集団演技の総演技時間についてみることにした。図6は、Ⅳ期における開催県別集団演技の総演技時間の変化を示したものである。グラフ中各県別のグラフが下から開会式式典前第1、式典前第2、式典後、閉会式の時間の積み上げグラフとして総時間が示されている。

図より、演技総時間は、121分から220分の間を変化する。演技の総時間は各開催県の式典前後の演技構成の差異もあり、かなり固有である。総時間の傾向は県により異なり、32・35回では200分以上の長い設定に、36・37・39・40回では短い(115分から148分)設定に、33・34・35・38回では中程度の時間設定(161分から174分)の設定となるなどⅣ期通じて大きく変動する。

式典別の演技時間の配分については、式典前演技は各県で演技構成が特徴的であるため、Ⅳ期通じて52分から102分まで差異が見られる。式典後演技は、31回・33回を除き、36分から40分以内で安定している。また、閉会式では、34分から95分以内で県差が顕著である。

3-6) Ⅳ期における集団演技の個別演技規模及び総演技参加者数

(1) 開催県別集団演技の個別演技規模

図7は、Ⅳ期における開催県別の国体集団演技の各演技の演技規模の分布を示したものである。図中、●は開会式式典前の演技を、▲は開会式式典後の演技のデータである。開会式の集団演技個別演技の演技規模の傾向は、次に示す通りである。

- 1) 演技規模の傾向は、演技全体としても、また式典前後の演技規模においても開催県で固有である。
- 2) 式典前後の演技規模を比較すると、多くは式典前の方が大きい規模の設定である。個別の

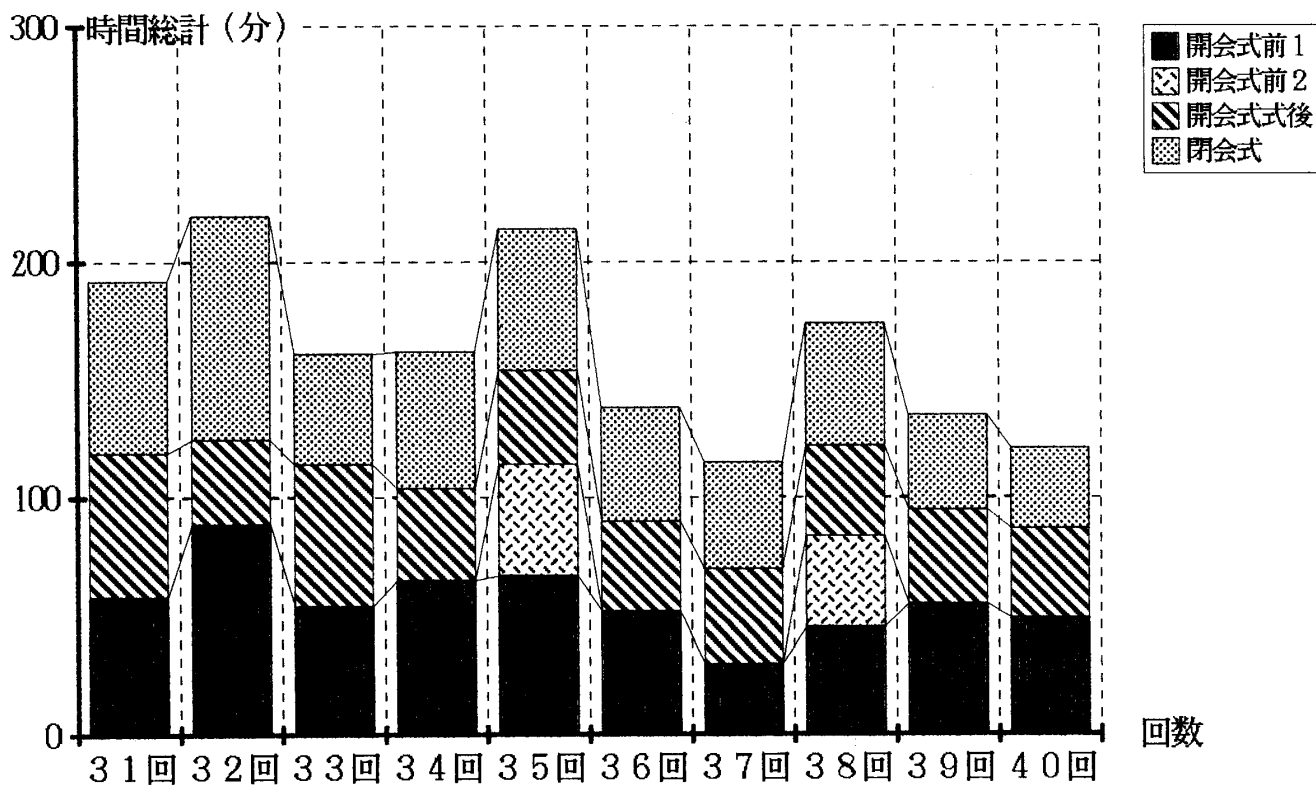


図6 Ⅳ期における国体集団演技の総演技時間の変化



演技も県によっては全体が大きい設定になっている。

3) IV期における演技規模の変化は、演技に動員される人数は僅かながら増加する。

4) 開催県の個別演技規模を見ると、31回(40～2411名)、32回(120～3800名)〈特例あり〉、33名(51～2270名)、34名(405～2594名)、35回(400～7422名)、36回(415～2159名)、37回(313～4649名)、38回(220～5131名)、39回(273～4654名)、40回(258～2100名)である。31・33・34・36・40回では2500名の演技規模であり、32・35・37回・38・39回など多人数規模であり、とりわけまとまりのある演技構成の最後に位置づけられるのフィナーレを有する35・37・38・39回は4000人から7000人を超える規模になっている。フィナーレについては、Ⅲ期では開閉式通じて演技数が3306人が最大規模の演技であり、4000人以上は見られないのに対して、IV期では演技中のフィナーレ位置づけから複数部門を統合する多人数の演技が特徴である。

5) 演技規模を演技内容との関係で見ると、体操系演技では、51～2411名であり、体操・ダンス(4988名)のみ大規模である。ダンス系演技では、対象の演技により、幼児のリズム遊び(1590～2540名)、小学生のリズム運動(1745～2592名)、中学生のダンス(1511～2594名)、高校生のダンス(978～2408名)、婦人のダンス(1200～2030名)、フィナーレ(3018～7422名)である。

その他では、マーチングバンド(258～420名)は500名以下の設定である。

スポーツ関係では、演技数は多いが演技規模は1000以下の設定である(120～812名)。民謡(600～2454名)であり、保存会など小規模の特殊団体か婦人の多集団演技かのいずれかである。郷土芸能(50～800名)では、小規模演技では特殊演技が多い(特殊例であるが32回津軽三味線の高橋竹山氏の1名の演奏も見られる)

6) 開会式の演技規模の分布を人数のカテゴリーに分けてみることにした。表16より演技

規模の分布は、0から500人が最も多く(20件)、500～1000人(19件)、2000～2500人(17件)、1500～2000人(15件)、1000～1500人・2500～3000人(4件)、4000～5000(2件)、3000～4000人(2件)、5000～6000人・7000人以上(1件)である。分布では、500人以下、500～1000人、2000～2500人、1500～2000人の演技規模が多くを占めている。

開催県別の分布の傾向は、開会式で多くの演技内容で構成されているために広い分布が多い。県別に見ると、3カテゴリー(31・36回)、4カテゴリー(32・33・38・40回)、5カテゴリー(34・37・39回)、6カテゴリー(35回)である。

閉会式の集団演技の個別演技の演技規模は、図8に示されている。その演技規模の傾向は次に示す通りである。

1) 個別演技規模の分布は、開催県で固有である。

2) 各開催県の個別演技時間の分布は、31回(22～2411人)、32回(2540～3800人)、33回(280～2150人)、34回(10～1678人)、35回(2454～7422人)、36回(420～2159人)、37回(200～2000人)、38回(220～5131人)、39回(273～4654人)、40回(253～2100人)であり、全体とすると10人から7422人であった。開催県別に分布の傾向を見ると、広い分布は31・38・39回に見られ、狭い分布は32・35回、それ以外(33・34・36・37・40回)は中間的な分布となる。演技規模の分布は、多くは0～2500人にわたる分布となる。

3) 演技内容と演技規模との関係は、体操系演技では、22,2411人である。ダンス系演技では、対象の演技により、幼児のリズム遊び(32回：2540人)、小学生のリズム運動(1745～2159人)、中学生のダンス(33回：2150人、36回：2140人)、高校生のダンス(200～1620人)、幼婦人ダンス(32回：3800, 3018人)、中高婦人ダンス(4654～7422人)、婦人ダンス(1000～2150人)である。その他では、マーチングバンド(280～420名)は500名以

表16 IV期における開催県別集団演技の演技規模の分布

<開会式>

回人	0~500	500~1000	1000~1500	1500~2000	2000~2500	2500~3000	3000~4000	4000~5000	5000~6000	6000~7000	7000~
31	4	1			4						
32	2	5				1	2				
33	3	2		1	3						
34	1	2		1	1	2					
35	2	3			2	1		1			1
36	2			2	2						
37	1			2	2			1			
38	3	3	1	3	1						
39	1	3	1	4				1			
40	1		2	2	2						
計	20	19	4	15	17	4	2	3	1	0	1

<閉会式>

回人	0~500	500~1000	1000~1500	1500~2000	2000~2500	2500~3000	3000~4000	4000~5000	5000~6000	6000~7000	7000~
31	3				1						
32		1				1	2				
33	2				2						
34	3	1		1							
35					1			1			1
36	1			1	2						
37	2				1						
38	2	1	1		1				1		
39	1		1	2				1			
40	1		1		1						
計	15	3	3	4	9	1	2	2	1	0	1

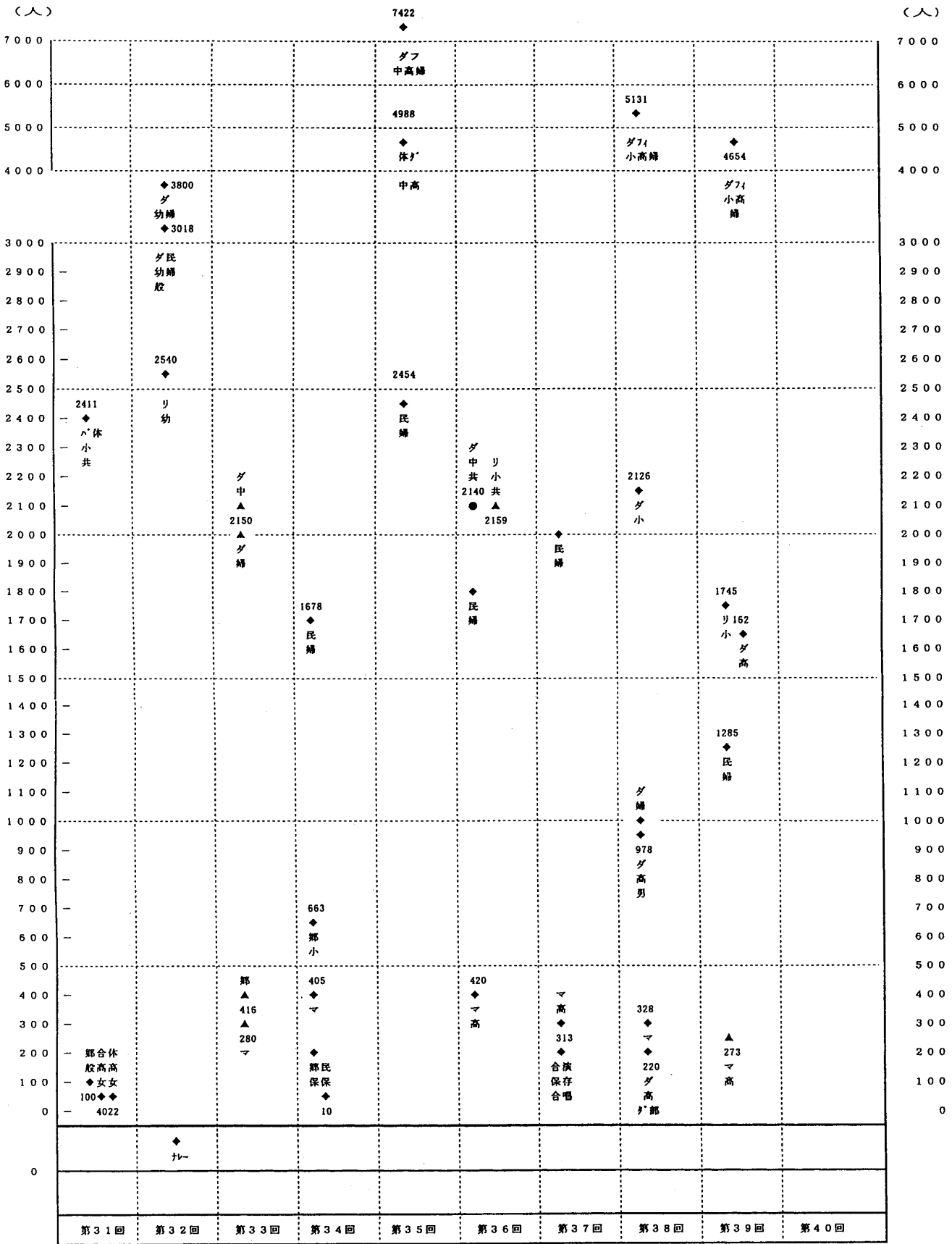


図8 IV期における国体集团演技の演技規模の分布 (閉会式)

下の設定である。スポーツ関係（32回：600人）、民謡（1678～2454人）、郷土芸能（100～663人）、合唱（31回：22, 37回：3131人）である。

4) 閉会式の演技規模の分布を人数のカテゴリーに分けて分布をみることにした。表16より演技規模の分布は、0から500人が最も多く（15件）、2000～2500人（9件）、1500～2000人（4件）、500～1000人・1000～1500人（3件）、3000～4000人・4000～5000人（2件）、7000人以上（1件）、2500～3000人・5000～6000人、6000～7000人（0件）である。傾向から、0～500人、2000～2500人が多く、Ⅲ期の特定人数への集中よりは、より広い演技規模になってることが伺える。開催県別の分布傾向は、31・32・33・35回は2カテゴリーの狭い分布であり、3カテゴリーは34・36・37・40回であり、それ以上の広い分布は4カテゴリー（39回）、5カテゴリーである。いずれも県の固有性が大きい。

(2) 開催県別集団演技の総演技参加者数の変化  
開催県別集団演技の総演技参加者数の変化に

ついて見たものが図9である。図中県別に、下：開会式式典前、中：式典後、上：閉会式の参加者数であり、全体が総数を示している。

Ⅳ期における演技者総数の変化は、31回から34回までは13978人から15235人とく32回：22337人>35回は著しく増加し（37987人）、36・37回で2万人以下に減少するが38・39回では増加し（26953・24080人）、40回では減少する（14038人）。2万人を超える32・35・38・39回を除いて、13978人から17397人程度の分布となる。中でも、35回では、第1・2・3部・閉会式の構成で複合部門によるフィナーレ7000人を含み（37987人）、38回では式典前・式典後・閉会式（26953人）、39回（式典前・式典後・閉会式）は、Ⅳ期では顕著に多い設定である。

演技者総数では、式典総てを含み、最小13978人から最37987人であった。

Ⅲ期では2万人を超える開催県もあるが<sup>38)</sup>、全体として総演技者が少ない傾向に対して、Ⅳ期では総演技者数は2万人以上（3件）、2万以下（3件）であり、全体的に演技者数が少な

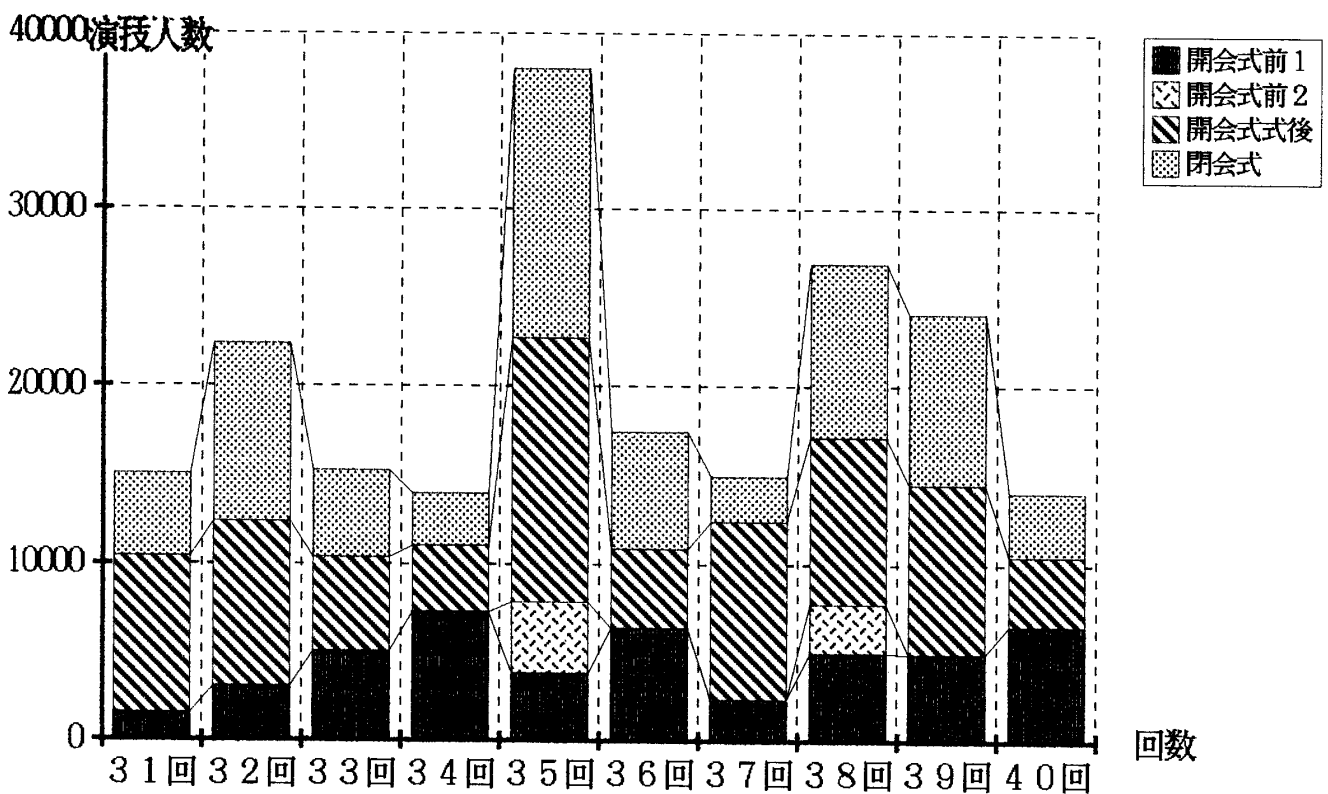


図9 IV期における国体集団演技の総演技者数の変化

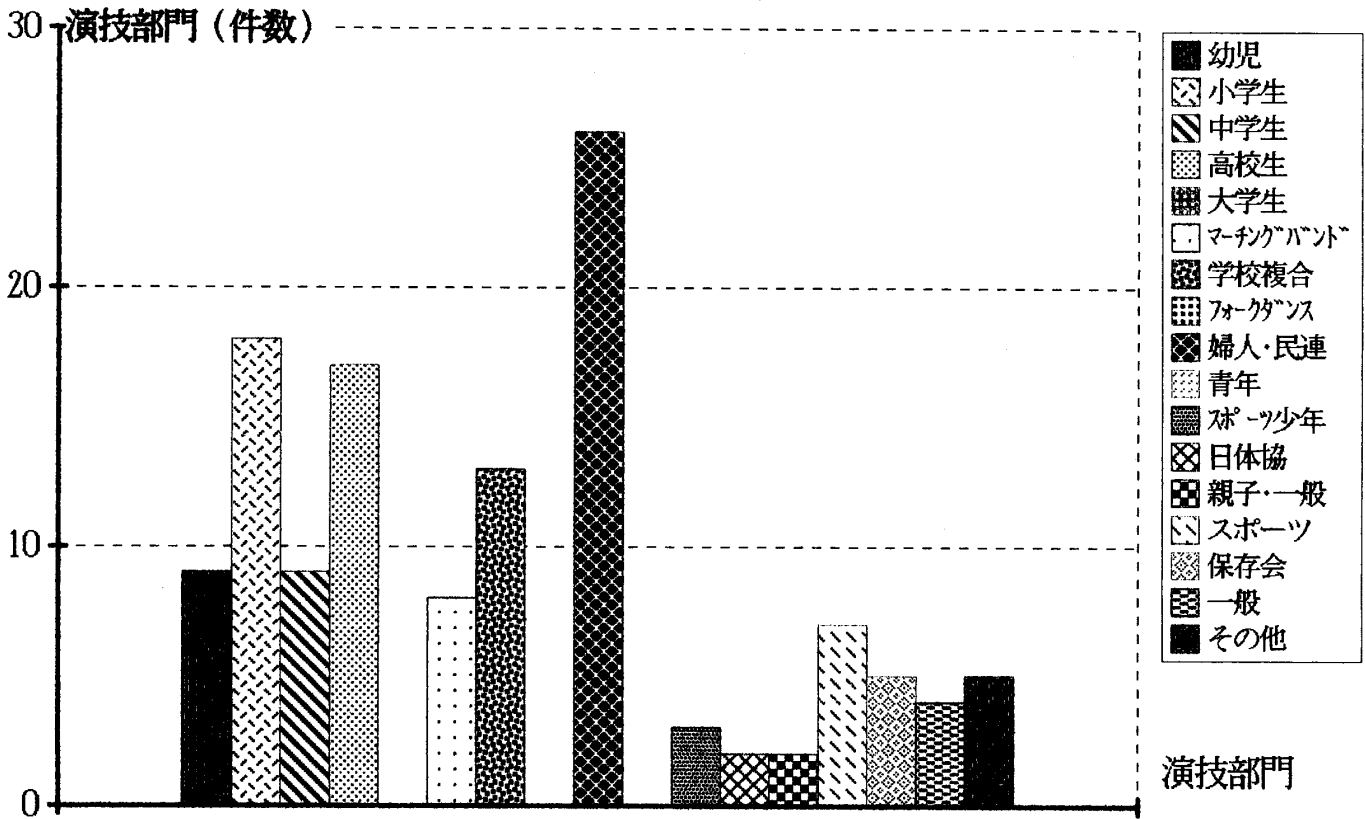


図10 IV期における国体集団演技の演技部門の変化

い傾向を示す。式典と演技者数との関係では、式典構成と演技構成の関係で大きく変動し、式典前 (1531 ~ 7715 人)、式典後 (3753 ~ 14874 人)、閉会式 (2513 ~ 15274 人) である。式典後の演技者数が式典後のフィナーレの位置づけにより式典前や閉会式より多い傾向を示す。

### 3-7) IV期における集団演技の演技部門

図10は、IV期における開催県別に集団演技の参加した演技部門の件数を示したものである。また、図11は、IV期における演技部門の頻度を示したものである。頻度の傾向から、教育関連機関の方が一般に比べて参加が多い。また、教育関連機関で頻度が高い部門は小学生(18件)、高校生(17件)、幼児と中学生(9件)でありIV期でも開催県別に見ても部門としての中核的存在を担っている。ただし、III期に比べて中学生の動員が著しく減少し、またIV期通じ

て大学生の参加は全く見られない。III期では定例的であった鼓笛バンドパレードがごく希になり、変わって一部の導入であったマーチングバンド(8件)が定例的な参加になっている。また、学校間の複合の演技も多様になり、例えば、幼児・婦人、幼児・婦人・一般、中学生・高校生、軽体操の部、小学生・保存会、中学生・保存会、中学生・高校・婦人、マーチング・新体操、小学生・高校生・婦人など教育機関間の合同や、教育機関と一般との合併も多くみられる。これは、演技内容の多様化や構造化などに関連して、部門の動員や構成も変化してきているものと考えられる。

一方、一般部門については、婦人部門の頻度が最も多く(26件)、III期以上<sup>38)</sup>に参加頻度が増加している。これは、従来の民謡等の演技への参加だけでなく、演技構想のテーマに基づき連続して構成された演技にも位置づけられるようになり、また、その他幼児との複合演技やスポーツでの参加などにも積極的な参加がみられ

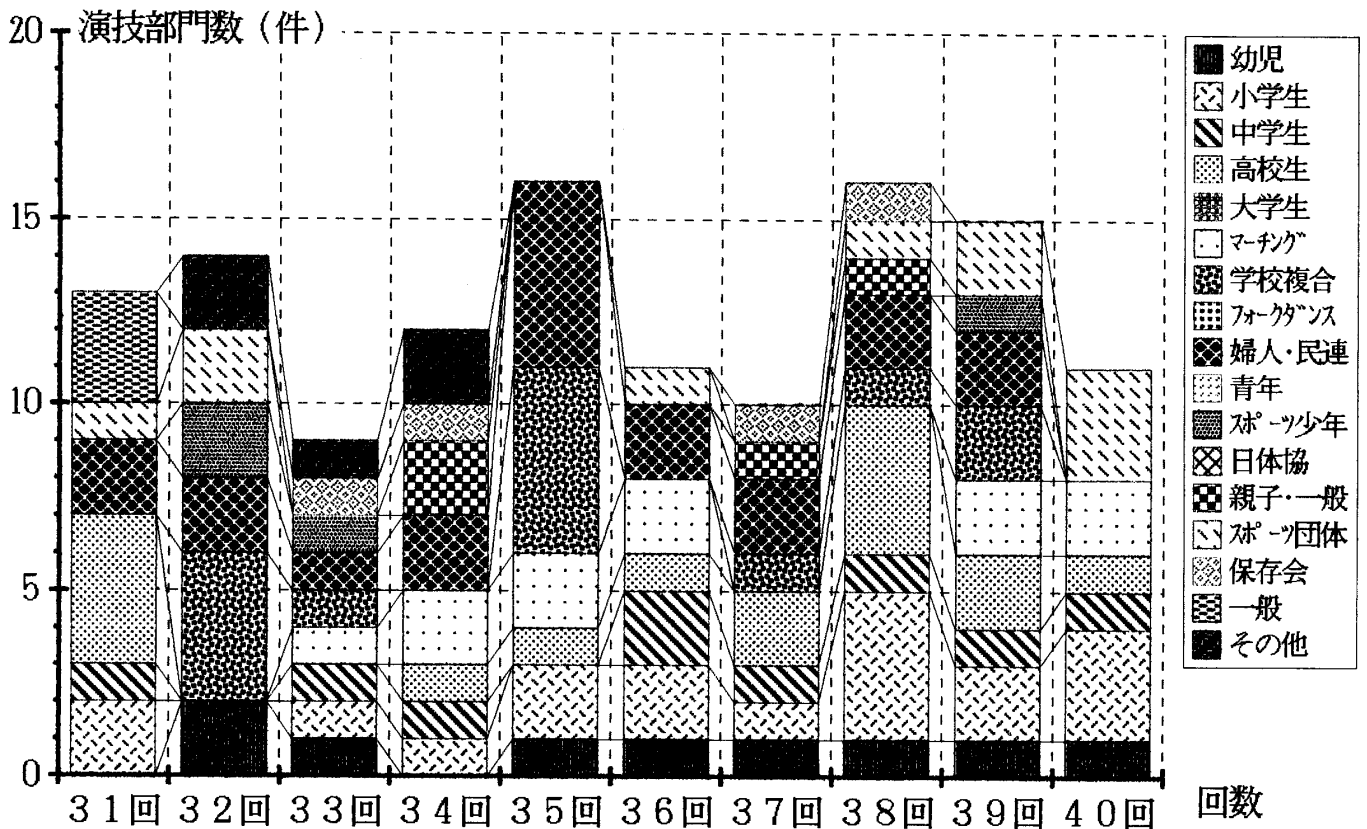


図11 IV期における国体集団演技の演技部門の頻度

る。次いで、スポーツ団体（7件）、民謡や郷土芸能の保存会・スポーツ少年団（6件）、スポーツ少年団（3件）、親子（2件）の頻度である。次に多いスポーツも式典前演技等への導入が多く、スポーツ少年団と共にスポーツを通じての式典前などの演技内容として発表に貢献している（とりわけ、32回では多種目が導入されている）。スポーツの導入は、31回（サッカー、剣道）、32回（ラグビー、剣道、ママさんバレーボール）、33回（剣道、軟式庭球）、35回（新体操とマーチング合併演技）、サッカー、なぎなた）、36回（サッカー）、38回（サッカー）、39回（サッカー・けまり、少林寺拳法、バレーボール）＜34・37・40回は無し＞とⅢ期以上に種目内容も多彩になっている。その他としては、観光協会（民謡）、太鼓愛好会、民謡会、特殊技能者（32回：津軽三味線、高橋竹山氏）、音楽演奏（33回：才能開発研究会のバイオリン演奏）である。

各開催県の演技部門の構成状況は、大きな県

差がみられる。教育関連機関の方が一般より導入が多いが、一般の導入数も多い。部門の教育関係機関と一般の構成については、教育関係機関と一般が構成上ほぼ均等である（39回）。教育関係機関は一般より多くなり（31・33・35・36・37・38回）、とりわけ35回、38回は顕著に多い。一般が教育関係機関より多い県は、32・34・40回である。

各県での演技部門の構成の特徴は、31回では、教育関係では高校・小学生が、一般では一般・婦人が多い。32回では、教育関係では複合が、一般では各部門が均等に導入される。33回では、教育関係部門が均等に、一般では各部門が均等に導入される。34回では、教育関係部門が均等に一般では婦人と親子が多い。35回では、教育関係の均等導入であるが複合が多く、その他は婦人のみである。36回では、教育育関係の均等導入であるが、一般は婦人とスポーツ団体2部門である。37回では、教育関係の均等導入であるが、一般では、婦人・親



子・保存会の3部門である。38回では、教育関係の多数導入であるが、小・高校が多く、一般では、多数部門の導入でも婦人とスポーツ少年・保存会が多い。39回では、教育育関係と一般でも多数導入であるが、教育では高校が多く、一般では婦人・スポーツ少年団・スポーツ団体が多い。40回では、教育育関係と一般でも多数導入であるが、教育では小学生、一般では婦人が多い。

演技部門の参加数は、Ⅳ期においては最低9件から最高18件まで変動する。

部門数の割合は、10件未満（1県）、10以上15件未満（5県）、15以上20件未満（4県）となり、Ⅲ期においては、部門数が10件未満が7県もあったことと比べ、Ⅳ期における多数部門の導入の努力が伺える。

#### 4. 結 論

本研究の目的は、国体集団演技に関する継続研究として、第31回から第40回国体（Ⅳ期）までの集団演技を取り上げ、演技の演技構想、演技構成、演技内容などの傾向調査、及び10年間の演技傾向の変化を明らかにすることであった。検討の結果以下のことが明らかになった。

Ⅳ期における国体集団演技は、式典内の「集団演技」の名称で位置づけられ、また単一会場開催で、集団演技の実施時間も、開会式の式典前後、閉会式前で、その時間関係はⅢ期同様に安定する。但し、式典の演技構成が、従来は式典前集団演技・式典後集団演技、閉会式集団演技の3部構成であったものが、Ⅳ期の開催県の多くは式典前演技の前に郷土紹介、郷土芸能として地域の代表的な民謡や郷土芸能を展開する場合（34. 36. 37. 39回）、式典前演技を演技の外にスポーツ、郷土芸能、レクリエーションなどの式典前行事とする場合（31・32回）、式典演技第1部・第2部・第3部演技・閉会式演技とする場合（35回）、式典前第1・第2演技・式典後演技・閉会式演技とする場合（38回）などを多様な構成をとる様になる。

集団演技の演技構想は、式典構想、基本方針を参考にしてなされ、構想のテーマは県独自の設定がなされ、構想の題材は豊かな自然（自然の恵み）、郷土の歴史と文化、未来（への躍進）、心温まる気風、人工の美、はつらつした若さ、躍進の力強さ、スポーツに親しむ姿（スポーツの普及）、健康美・集団美・律動美などの表現が共通の課題とされている。個別演技の演技題は、郷土性（主に民謡・郷土芸能の名称、郷土特性、郷土の自然なを生かしたもの）、若い世代や元気さ（若さ、伸びる、躍進、力などの名称を活用）、子供の遊ぶ姿が多く取り上げられ、また多様に紹介されるスポーツ活動、大会賛歌や体操関係の演技題や音楽などの名称が少なくなる。但し、音楽系でもマーチングバンドでは英字の活用など新しい気風の名称利用が目立つ。

演技プログラム構成も、開会式式典前後、閉会式と各々異なる演技が生まれ、式典が個性的な展開である。Ⅱ期に始まりⅢ期ではほぼ慣例的になった閉会式での開会式集団演技の繰り返し形式は、Ⅳ期でもほぼ同様である。開催県別の式典演技全ての総演技数は、9件から18件までを変化し、各式典毎の演技数配分は、県特有の式典演技構成のため式典後との演技配分は大きく異なる。Ⅳ期の開催県の多くが式典前演技の前に郷土紹介を位置づけ、民謡、郷土芸能など郷土性を強く表現することから、集団演技ではそれらの配分や全体の演技数が抑えられるなどの傾向がある。式典前後、閉会式の演技数の配分は、式典後と閉会式演技配分が多いⅢ期の傾向ほど顕著でなく、むしろ県の固有性が目立つ。

プログラムの演技内容構成は、体操系（11.578%）、ダンス系（42.105%）、その他（46.616%）であり、その他とダンス系配分が多くなる。体操系演技内容では、テーマもⅢ期ほど多彩では無いが、具体的な内容としては徒手体操と組体操の複合や手具体操、単独演技よりは体操とダンスとの組み合わせが多くなる。特徴的な事例としては、31回（騎馬戦、若楠体操、トレーニング<サーキットトレーニングと縄>、スタンツ<組運動>）、31回（面浮立

体操と金管バンドとの合併演技), 35回(伝統芸能をアレンジした杖術体操, 獅子舞体操)などである。また, 手具を利用したもので目立った内容は, 35回(梯子, 棒, 輪), 36回(徒手と棒, 布), 38回(組体操と布)などがみられる。ダンス系内容では, Ⅲ期と同様に教育関連機関を主体とするダンス・表現が多く(ダンス系割合の70%)。とりわけ演技テーマ, 構想を基に構成された3から4部構成などの連続演技にもダンス系内容が活用され(32回青森, 38回群馬), また, Ⅲ期では多く見られない4000人以上の多集団で大規模人数による式典後演技や閉会式演技時のフィナーレにも位置づけられている。リズム運動(小学生)とリズム遊び(幼児)については(共にダンス系内の割合<15%>), リズム運動にあっては33・34・35・36・39・40回に, リズム遊びは33回以降継続して取り扱われる。その他では, 民謡(婦人)は頻度も高くⅣ期通じて取り入れられている。また民謡同様地域性の表現であった郷土芸能は, 集団演技の中でもⅢ期同様少数扱われるが, 開催県の多くは式典前演技前に郷土紹介或いは郷土芸能として位置づけられ, 集団演技内外双方の位置づけで郷土性を強調するものとして式典演技を盛り上げている。音楽系では, Ⅲ期後半から取り上げられたマーチングバンドがⅣ期通じて取り上げられしかも, ほぼ式典前後演技や閉会式演技の導入か最終演技に位置づけられ, 式典演技内の位置づけを得るようになる。スポーツでは, Ⅲ期では頻度も少数であったが, Ⅳ期では頻度も更に多く種目も多彩になる(とりわけ, 32・35・39回)。

開催県別の個別演技の演技時間や演技規模は, 開催県で固有である。演技時間は, 開閉会式共10から15分, 15から20分, 5から10分の時間が多い。Ⅲ期と比較すると10から20分に安定したが, Ⅳ期では15から20分と5から10分の演技も増え, 演技の質と量の変化する中で演技時間も広がりを持つようになる。また, 演技規模も各県固有であり, 個別の演技時間は, 開会式では0から500人, 500から1000人, 1500から2000人の規模の演技が,

また, 閉会式では0から500人, 2000から2500人の規模の分布が多くなる。各開催県の総演技者数は, Ⅲ期より減少傾向にあるが, Ⅳ期では多集団多人数規模のフィナーレもみられるようになりⅤ期(41回から50回)国体の先駆けといえる。

演技部門は, 教育関係機関が主であるが, 一般部門の参加が増える。教育関連機関ではⅢ期同様, 幼児, 小学生, 中学生, 高校生が多いが, 中学生の減少がみられる。従来多く動員された鼓笛バンドに代わりマーチングバンドが増え, また教育関連内の部門間或いは一般との複合が見られる。一般では, Ⅱ・Ⅲ期同様婦人の頻度の増加が目立つ。その他スポーツ関係やスポーツ少年団などによる多種目のスポーツ導入が見られ開放的な演技として位置づいている。

今回の研究では, 国体集団演技が開始され土台が形成されたⅠ期, 安定し質と量の広がりを見せたⅡ期, 集団演技の式典内の安定した位置づけ, 演技数も安定し, 演技内容も体操系, ダンス系以外にも, その他(スポーツなど)など多彩になり, 演技時間の安定と演技規模の増大なども演技の複雑な展開となる充実期として位置づけられるⅢ期に続き, 昭和50年代の10年間(Ⅳ期)の国体を取り上げた。

Ⅳ期では, 運営面でも期日, 会場(演技環境)も安定し, 式典内の集団演技の位置づけや時間も安定する。ただし従来に無く式典演技構成も式典前後演技, 閉会式前演技の3部構成のパターンでなく, 式典前行事の配置, 式典前の郷土紹介の配置, 式典演技を通して数部構成とするなど開催県で式典演技構成の再編成への問いかけがなされる。演技内容では, 体操系が減る中, ダンス系と並びその他(民謡, スポーツ系, 音楽系)などの導入が増えより開放的な目指して多彩な内容となり, 従来見られない多集団多人数の演技(フィナーレ)もⅣ期への先駆けとしてみられる。関連して演技時間や演技規模も, 演技内容の多彩化に応じて広がりを見せる。更に, 演技部門では, 教育関連機関を主体として, 一般の参加が増え, 広い県民層からの参加の意図が伺える。以上のように演技自体の式典内の

位置づけが確立され、演技構想（テーマ）の明確化と演技内容の多様化と充実、それに伴う演技時間、規模の広がりや演技部門の幅の広がりなどの変化がある中で、式典演技構成の見直しなどがなされるなど集団演技の変革期とみることができよう。

現在まで第1回国体から50年間の国体集団演技について、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期・Ⅴ期の5回に渡り演技の変遷を調査分析した。国体も半世紀を過ぎ、本年度で53回の国体を迎え、集団演技にも更に新しい発展の方向性が期待され、大きな変容への可能性もあるが、今後も国体集団演技の姿（Ⅵ期）を見続けてゆきたいと考えている。

### <付記>

国体集団演技の研究を手がけてから既に約4年目になる。その手始めとして国体集団演技41回から49回までを第1報を、第1回から今回で第40回まで続けて第5報までで約50年間の集団演技の調査がまとめられた。各10年毎のまとめが終わる度に、国体開催側と素晴らしい集団演技に携わった先人の多くの御努力に最高の敬意を表するものである。今後も今まで積み上げられたマスゲームの貴重な文化財産が継承されてゆくことを心から期待したい。この集団演技の研究にあたり、数多くの御指導、御助言を戴きました中京大学体育学部の木村吉次先生及び筑波大学体育科学系の春山国広先生に、また数多くの貴重な資料を御提供戴きました日本体育大学体操研究室の荒木達雄先生に心より感謝の意を表します。

### <参考文献・参考資料>

- 1) 浅倉妙子, 「マスゲームをラジオ体操のように」, 女子体育, 1970年, pp.53-54
- 2) あゆみ出版編集部, 「〈こどもたちとつくる〉運動会－集団演技－」, あゆみ出版, 1997年
- 3) 荒木達雄, 金子嘉徳, 「運動会の集団演技に関する基礎調査－幼稚園の指導者を対象とした集団演技の構成及び指導に関する事例研究－」, 日本体育大学紀要, 第19巻1号, 1990, pp.49-63
- 4) 荒木達雄, 金子嘉徳他, 「運動会の集団演技における使用音楽の実態調査」, 日本体育大学紀要, 第24巻1号, pp.15-25
- 5) Brockhaus, F.A., "Der Sports Brockhaus (Massenuebungen und Gruppengymnastik)", F.A. Brockhaus wiesbaden, 1982, pp.192
- 6) 第31回国民体育大会佐賀県実行委員会編, 「第31回国民体育大会報告書」, 昭和52年, 大分県, pp.252-263, 274-309
- 7) 第32回国民体育大会青森県実行委員会編, 「第32回国民体育大会報告書」, 昭和53年, 青森県, pp.283-307, 317-333
- 8) 第33回国民体育大会長野県実行委員会編, 「第33回国民体育大会報告書」, 昭和54年, 青森県, pp.304-333, 345-344
- 9) 第34回国民体育大会宮崎県実行委員会編, 「第34回国民体育大会報告書」, 昭和55年, 宮崎県, pp.293-327, 522-527
- 10) 第34回国民体育大会宮崎市実行委員会編, 「第34回国民体育大会報告書」, 昭和55年, 宮崎市, pp.38-46
- 11) 第35回国民体育大会栃木県実行委員会編, 「第35回国民体育大会報告書」, 昭和56年, 栃木県, pp.258-290, 291-301
- 12) 第36回国民体育大会滋賀県実行委員会編, 「第36回国民体育大会報告書」, 昭和57年, 滋賀県, pp.344-357, 367-376, 460-467
- 13) 第37回国民体育大会島根県実行委員会編, 「第37回国民体育大会報告書」, 昭和58年, 島根県, pp.321-337, 364-377, 452-453
- 14) 第38回国民体育大会群馬県実行委員会編, 「第38回国民体育大会報告書」, 昭和59年, 群馬県, pp.368-378, 393-398, 538-543
- 15) 第39回国民体育大会奈良県実行委員会編, 「第39回国民体育大会報告書」, 昭和60年, 奈良県, pp.366-389, 513-516
- 16) 第40回国民体育大会鳥取県実行委員会編, 「第40回国民体育大会報告書」, 昭和61年, 鳥取県, pp.370-392, 402-409, 516-519

- 17) 第40回国体体育大会鳥取県実行委員会編, 「第40回国体体育大会集団演技実施要項」, 鳥取県, pp.370-392, 402-409, 516-519
- 18) 第49回国体実行委員会事務局, 「第49回国体体育大会報告書」(国民体育大会49年のあゆみ), 1994年, pp.1-11
- 19) 島山京子, 「マスゲームの裏方としての苦心談」, 女子体育, 1970年, pp.31-35
- 20) 藤本裕次郎, 「運動会のマスゲーム(高校生を対象としてのフォーク・ダンス)」, 新体育, 第32巻9号, 1962年, pp.138-144
- 21) 浜田靖一著, 「図説マスゲーム基礎編」, 新思潮社, 昭和35年
- 22) 浜田靖一著, 「図説マスゲーム応用編」(日本マスゲームの歩みの項), 新思潮社, 昭和36年, pp.36-41
- 23) 浜田靖一著, 「図説徒手体操」, 新思潮社, 昭和1981年3月, pp.141-148
- 24) 浜田靖一著, 「イラストと写真でみるマスゲーム」, 大修館, 1998年4月, pp.251-255
- 25) 浜田靖一著, 「高等学校のマスゲーム」, 新体育第30巻9号, 1960年, pp.93-97
- 26) 浜田靖一著, 「運動会におけるマスゲーム」, 学校体育第7巻9号, 1959年
- 27) 川上清, 「中学校運動会のマスゲームの事例」, 30巻9号, 1960年, pp.87-92
- 28) 今村嘉雄監修, 「大修体育大事典」(マスゲームの項), 不昧堂, 1986年, pp.224
- 29) 石井宗一, 「小学校のマスゲーム」, 新体育, 第30巻9号, 1960年, pp.83-86
- 30) 伊藤高広, 「青年スポーツ祭祭典」, 体育の科学, 第18巻10号, pp.608-610
- 31) 加戸宏平編, 「国体史奈良編」, 地方人事委員会, 昭和61年
- 32) 金子嘉徳, 「46年ぶりに復活したチェコ体操祭(ソコル)」, 栄養と料理, 1995年3月, pp.122-124
- 33) 金子嘉徳, 荒木達雄, 「運動会の集団演技に関する基礎調査-小学校の指導者を対象とした集団演技の構成及び指導に関する研究-」女子栄養大学紀要第24巻, 1993年, pp.69-89
- 34) 金子嘉徳, 荒木達雄, 春山文子, 北田和美, 「運動会の集団演技に関する調査研究-演技内容の分析を中心として-」女子栄養大学紀要第27巻, 1996年, pp.209-223
- 35) 川端昭夫, 「国体集団演技に関する基礎的研究-第41回から第49回国体までの演技傾向について-」, 中京大学体育学部論叢第38巻第1号, 1996年, pp.13-52
- 36) 川端昭夫, 「国体集団演技に関する基礎的研究(Ⅱ)-第1回から第10回国体までの演技内容の変遷について-」, 中京大学体育学部論叢第38巻第2号, 1997年, pp.1-30
- 37) 川端昭夫, 「国体集団演技に関する基礎的研究(Ⅲ)-第11回から第20回国体までの演技内容の変遷について-」, 中京大学体育学部論叢第39巻第1号, 1997年, pp.15-60
- 38) 川端昭夫, 「国体集団演技に関する基礎的研究(Ⅳ)-第21回から第30回国体までの演技内容の変遷について-」, 中京大学体育学部論叢第39巻第2号, 1998年, pp.1-49
- 39) 川端昭夫, 「第10回ワールドジмнаストラダ(世界体操祭)ベルリン大会視察報告」, 中京大学体育学論叢第37巻第2号, 1996年, pp.75-84
- 40) 川端昭夫, 「白夜の体操祭(SYKE100)-フィンランド体操百年祭視察報告-中京大学体育学部論叢第38巻第2号, 1997年, pp.119-142
- 41) 木村吉次, 「集団行動とマスゲームの歴史的背景」, 女子体育9号, 1970年, pp.46-54
- 42) 湊井東, 「大学体育祭のマスゲーム」, 新体育
- 43) 桑原美爾子, 「人間賛歌のマスゲーム」, 女子体育, 第巻8号, 1970年, pp.26-29
- 44) 三宅良輔・園田高一・荒木達雄・金子嘉徳他, 「体育祭の集団演技における使用音楽の実態調査-中学校の指導者を対象として-」, 日本体育大学紀要, 第27巻2号, 1998, pp.327-335
- 45) 三橋喜久雄他著, 「体操」, 和光堂, 昭和33年7月, pp.41-46
- 46) 日本体育協会編, 「国民体育大会の歩み」

（歴史の項），都道府県体育協会連絡協議会，昭和53年，pp.121-156

- 47) 日本体育協会編，「最新スポーツ大事典（国民体育大会及びマスゲームの項）」，大修館，1987年，pp.1213-1215・313-31531
- 48) 成瀬京子，「本学におけるマスゲーム出演の変遷」，日本女子体育大学紀要4巻，1974年，pp.41-51
- 49) 大井洋一，「小学校高学年女子のマスゲーム」，学校体育第13巻9号，1960，pp.90-93
- 50) 大谷武一著，「ソコール運動」，体育と競技第6巻5号，pp.4-14
- 51) 下山佳子，「集団訓練の場としてのマスゲーム」，女子体育，1970年，pp.23-25
- 52) 佐藤友久・森直幹著，「体操事典（マスゲームの項）」，不昧堂，道和書院，pp.224
- 53) 佐々木吉蔵，「国体マスゲームについて」，体育の科学18巻10号，pp.600-604
- 54) 鈴木清，「マスゲームの心理」，女子体育，1970年，pp.9-15
- 55) 杉村祥子，「各国のマスゲーム」，体育の科学第18巻10号，1968年，pp.605-607
- 56) 遠山喜一郎，「マスゲーム」，学校体育第5巻9号，1952年，pp.36-41

### <参考資料>

- 1) 佐賀県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1977年
- 2) 青森県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1978年
- 3) 長野県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1979年
- 4) 宮崎県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1980年
- 5) 栃木県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1981年
- 6) 滋賀県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1982年
- 7) 島根県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1983年
- 8) 群馬県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1984年
- 9) 奈良県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1985年
- 10) 鳥取県，「行幸啓誌」（国体集団演技の項），1986年
- 11) 奈良県，「第39回国民体育大会，第20全国身体障害者スポーツ大会」，1985
- 12) 鳥取県，「わかとり国体栄光への軌跡－第40回国民体育大会記念アルバム－」，1986